

○本會の經歷並規則摘要

- 本會は明治十八年の創立にし其目的たるや同志協力して染織業の進歩を圖るに在り今や創立以來年を経ること十有九年我邦の染織界に裨益を與へたること尠からず、乃ち前には農商省務より補助金百五十圓を下賜せられ今回また、畏さあたりの思召を以て金參百圓御下賜相成りたり
- 本會は毎月會報を發行して之を會員に領つ、會報記載事項は論說、染色、機織、織物解説、傳記地史、統計、商況、雜錄、雜報、漫錄、新刊紹介、問答、諸廣告等なり
- 本會は時々學者又は實業者の講筵を開く
- 本會は明治三十一年以來織物展覽會及染色競技會を開くこと既に第六回に及べり
- 本會に染織物標本陳列室并に染色試験場の設あり而して其標本室は日々衆庶の縦覽あることなれば又一種の廣告場たるの觀あり、有志家諸君奪て此處に出品せられんことを望む
- 本會の現在會員は三千有餘名にして全國に會員あらざるの地なく學者實業者を網羅せり
- 入會を望むものは會員の紹介を得て住所族籍及職業を明記して本會事務所に申し込むべし
- 若し紹介會員を求め得ざる地方に住する者に在りては一應其旨を本會へ申越すべし
- 會費は一ヶ年金貳圓とし其一年分を前納すべし
- 會員質問を要するときは其疑點を詳記して本會に申越すべし本會は可及的正確の取調をなして之に報答す但し其調査上多分の費用を要するときは其一部若くは全部を申受くることあるべし
- 本會々報は苟も織物業に關係ある事項を細大網羅して之を會員に報道するものなれば會員諸君も此意を体し議論の深淺、事項の大小に拘はらず筆勞を吝ますして續々本會へ報道せられんことを乞ふ、但原稿の取捨は編輯員の撰擇に一任すべし
- 本會々報標本用として寄送せらるる物品は、織物に在ては並巾一丈七尺以上、絹糸に在ては十八匁以上毛糸に在ては四十匁以上、綿糸麻糸等に在ては六十匁以上のこととす
- 時々有益の原稿を寄送せらるる向へは役員會の決議を経て謝儀を贈呈すべし
- 本會規則書入用の向は郵券二錢を添ひ本會事務所に申込まるべし
- 從來各地方の共進會品評會博覽會等に於ける染織物の審査官又は審査員は本會々員たらざるもの殆ど稀なり、現に今回大阪の博覽會に於ても染織物の審査官三十二名の中二十一名は本會々員なり、是等の事實に徴するも本會は如何に斯業上重要な地位にあるかを推知するに足らむ

染料
S. OGAWA.
DYESTUFFS
 (DEALER)
WHOLESALE
AND RETAIL
 No. 4, Tschibanaehio
 N. chitome
 NICHONBASHIKU

新美
Tokio

小川染料商店

營業品目錄

最新着

染料 (酸性、塩基性、染料各種)

純粹青藍 (インジゴ、ピユータ)

印度青藍 (インジゴ)

色素媒染劑 (モルダント)

繪之具 (石版活版木版銅版塗具、玩具、食料、書用、料各種)

右之外染料器具及染色書籍

右各品物質ノ精撰ナルヲ旨トシ廉價販賣仕候間
 多少ニ不拘御注文被仰付度奉懸願上候也

東京市日本橋區橋町貳丁目四番地

小川正三郎

商號日野屋

電話浪花一五九四番
 (ヤノヒ) 電信署號

●見本送呈

●品質精良

●勉強卓絶

●便達宜早

●販賣懇篤

●特約夥多

印度藍專賣

●弊店儀今般竹屋商店ト商號登記致候ニ付從
 前ノ通り篤實ヲ旨トシ各位ノ御愛顧ニ背カ
 サルハ勿論一層ノ大勉強ヲ以テ御便益ヲ相
 謀リ候間多少ニ不拘御注文ノ程伏テ奉希上
 候

東 京 日 本 橋 區 橋 町 貳 丁 目



竹 屋 商 店

竹 內 正 七

(電 信 署 號 夕 ケ ヤ)

印度藍專賣

應御注文見本送呈人

東京市淺草區諏訪町五番地

洋藍直輸入 久能商店

主 久能 茂平

蛹油石鹼

ハ精製蛹油ヲ原料トシ

染工界ノ御好評ヲ得タリ

蛹油石鹼

製造販賣元

特製蛹油石鹼

製 特 特 製



各種絹練用石鹼製造專業

吉村石鹼工場

場主

吉村又作

製造販賣元

蛹油石鹼

ハ最モ絹精練用ニ適シ

全国各地ノ染料店ニ在リ

蛹油石鹼

特製蛹油石鹼

○**コスモスインヂゴ**ブリウ R 并ニA

本品は色合青藍と少しも異らざる木綿直接染料にして價格の低廉と染法の簡易とを以て青藍染の代用又は藍下染として賞用せられつゝあり

○**獨逸及佛蘭西各種染料** (アニリン、アリザリン、天然、人為染料)

○**石版、活版用繪具各種**

○**諸工業用藥品、媒染劑各種**

前記の物品確實と懇篤とを旨とし販賣可仕候間多少に不均御用向被仰付度候也

東京日本橋區小舟町一丁目五番地

三 桂屋 青山染料商店

電話浪花二九五八番

尙各位の御便利を計り御試驗用に限り一容器以下の小分け賣可仕候

營業品

- 印刷用インキ繪具(石版活版用、洋金、銀粉各種)
- 塗料顏料繪具(マーブル用各種)
- 各種染料及色素媒染劑
- 諸工業用藥品類一式

絹練石鹼

鹿首印、百斤入、四十五磅入
太鼓印、百斤入、四十五磅入

弊店發賣の絹練石鹼は十數年來實驗を有し最も斯道に堪能練熟せる技師の製造に係り殊に原料を擇拔したるものにして既に需用者諸彦間に定評有之候

右各品一層勉強廉價に販賣仕候間多少に不拘御注文被下度願上候

東京市日本橋區鐵砲町
一番地江戸橋通り

三庄司喜三郎

(商號宮城屋)



染料 藍問屋

相場表御入用之御方ハ
御申越次第御送送可仕候

東京市神田區鍛冶町

利植田小太郎商店

電話(特)本局七百七十番

佛國染料

直輸入商

- アリザリン染料……………各種
- アニリン染料……………各種
- 藍下染料……………各種
- 人造藍及人造青藍……………各種
- 絹練用石鹼ジラフ印ガレール印……………各種
- エキス類及工業品媒染劑……………各種

大阪市南區順慶町貳丁目

稻畑本店

電話特東一貳六貳番

IK

東京市日本橋區堀留町一丁目

稻畑東京支店

電話特浪花四貳七番

- 木綿染用堅牢新着染料……………各種
- 佛國染法冊子……………定價金貳拾錢
- 佛國クロードフレール會社發行歐米新流行織物標本豫約……………
- 相場表御入用の向は郵券貳錢御送附の事……………

營業目錄

一新着染料(アリザリ。アリシ)

一純粹青藍(インジゴ。エチア BASF)

一印皮青藍(インジゴ)

一色素媒染劑(モルダント)

一染物用刷毛類一式

一活版インキ類

有權商標
カシガール
袋單巾

近 藤 賢 一

右各品共物質ヲ
精選シ勤勉廉價
ヲ以テ注シ又ニ焦シト
間多少ニ不拘購求之
程偏ニ奉願上候也

附言弊店販賣品付上祀商標
ニ市況急ニ上テ購求被下度願上
東京市日本橋區橋町三丁目拾番地

旭藍正紺黒染
製造本舖

力近藤賢一
屋雖立花屋

Whole Sale-Dealers

of

Artificial and Natural Colours

anilin and alizarine and Dyewood and

Extacs and of Indigo Pure B. A. S F

Shibata-Senrioshoten (Katsuraya)

Nihonbashiku Setomonochō no. 8 Tokyō

Branch Store

Karasumaru-Dori Nijio-minami Kioto

○純粹青藍

アニリン、アリザリン
染料エキスの類

歐洲各地製造所と特約あれば最近の發明品と雖も
迅速に到着すべし

○色素媒染劑

酸類及鹽類護膜脂
類品質の純良なること

内外地の製産を問はず凡て有權商標を貼付して確
實あることを證明す

東京市日本橋區瀬戸物町八番地
合名柴田染料商店

電話 特本局六十五番
全九百八十八番
發電略語 シハタ

三桂屋

京都市上京區烏丸通御池上る

同京都出張店

獨逸國馬獅子染料製造會社囑托
販賣店

○商報

毎月一回刊行

弊店の機關にして染色上に於ける凡ての事項を記
載し汎く實業者へ配布報導するを目的として廣く
世の望みに應ず

御入用の向は御請求次第速に發送すべし
定價一冊郵税共金十錢一ヶ年分前金寄圓

獨逸國伯林亞仁林製造會社發明

最堅牢の絹綿文織黒色染料

ザンベージブラック D

ザンベージブラック V

繪具染料各種 色素媒染劑各種

東京市日本橋區瀬戸物町四番地

商號 桂屋

繪具染料問屋  松村 福松

電話略語 マツク
電話本局 四八二

標商權有



REGISTERED. TRADE MARK

守田染料商店

緊急廣告

抑モ麒麟印絹練用石鹼ノ品質ニ付テハ既ニ需用者諸君ヨリ和製中ノ大王ト特ニ賞讃ヲ博シツ、優ニ卓絶良奸タルハ敢テ贅言ヲ要セズ然ルニ最モ遺憾トスルハ從來製造場ノ狹隘タルヲ以テ花主各位ヨリノ御注文一時累加スル際ハ往々需要ヲ缺クノ場合ヲ生シ因テ今回刷新的業務ヲ擴張シ殊ニ原料品ノ如キハ舶來品中最モ優等最モ純良ナル資料ヲ撰擇製造シ今後如何ナル多數ノ御用向タリトモ毫モ遲緩ナク速時ニ貴需ニ應ズベク整頓致シ候ニ付テハ層一層倍一倍御用命アラシコト茲ニ謹告候也

販賣品科目

- インザゴーピユニア BEST 純粹青藍
- 人造及天然染料
- 布海苔澱粉膠類
- 印刷用繪具各種
- 麒麟印絹練石鹼
- 色素媒染劑各種
- 印度靛藍各種
- 染物用刷毛類一式
- 各種メートル及驗温器

東京市日本橋區伊勢町十番地

繪具
染料 問屋

守田 定七

特電話本局 千三百五十一番

明治三十年十二月十八日印刷
全三十年十二月廿一日發行
全三十六年六月十二日訂正印刷
全三十六年六月十五日再版發行

定價金壹圓八拾錢

著者兼發行者 東京府下南足立郡南千住町字三ノ輪三百七十三番地
吉田 龜 壽

印刷者 東京市京橋區弓町十三番地
松本 義 弘

印刷所 全所 (電話新橋千四百四十八番)
續 文 舍

發行所 東京市下谷區二長町五十二番地
大日本織物協會

てやゝ複雑なる所に及ぶ然れども序を追ひ順を重に書中總て理論に偏せず實際のみに傾かず加ふるに大竹學士の削繁補遺の勞を取られたれは實にその中庸を得て大に斯業家の爲め好材料を與ふるのみならず近時各地に織染學校を設けあるも機織教科書に供する書籍なかりしは尤も欠點の甚しきものなりしが此書の如きは實に適當なるものなり氏請ふて曰くその尾に跋せよと余答て曰く良著既に價あり何ぞ余の筆を要せんや氏肯かず乃ち筆を採て曰く

夫れ實業の發達を圖るは其理を究めその術を行ふにあり此書の如き好資料と云ふべし氏それ益々進みて撓むなくんば遂に初志を達するを得ん乎と氏曰く諾茲に於てか之を記して跋となす矣

明治三十年八月末日

山岡 次郎

跋

吉田氏はもと皇典講究所の卒業生なり誠に忠君愛國の人たり一朝國家の富强は實に工業の發達隆盛に基くことを悟りてより蹶然意を決して身を工業場裡に投し親しく其業務を修得せんご欲し去る明治十有九年の中夏初て余が居を訪ひ告ぐるに意のある處を以てし兩野の間に遊びて織染の學術を研究せん事を語る余告ぐるに中村氏の八王子にあるあり就きて學ぶべきを以てす氏余の言を諾し直に往きて學ぶ爾來十有余年の久しき拮据黽勵學理の研究を實業發達の上に應用し自ら業務を營みつゝ雜誌に學校に専ら己れの研究せるものを講述して各むことなく終始一貫常に本邦機織業の改進發達を圖るを以て己の任となし孜孜として怠らす

頃日その著す所の織物組織篇を懷にし來り余に示す乃ち受て之を讀むに織物經緯の組織に關しては尤も接近のものより始

以上

六

我邦織物術に關する術語に乏しく其之あるも各地方相同じからざるを以て織物術に關する書を著はさんとする者は一方ならぬ煩悶を感ずるなり著者吉田君の苦心誠に察するに堪えたり想ふに讀者中本書録する所の新なる名稱等を見て之を非難する人なきを保せず然れどもそは右の理由に因れる者なるが故に漫に酷評を下す可らず

術語の區々なるは學者の迷惑するところなり後の此書に類する書を著はす人宜しく之を思ひ既に此書に用ゐられたる名稱は成るべく之を襲用し其本書にも無く亦普通の稱呼にも無き者に至て始めて新しき名を附することよせば研學者の幸福や莫大なるへし

大竹多氣附記す

經一重にして緯の二重なる組織 Weaves with one warp and two wefts.

本畝織 Rib Fabric,

經二重にして緯の一重なる組織 Weaves with one weft and two warps.

莫大小織 Ricot Weave.

經緯共に二重なる組織 Double cloth.

表裏綴結法 Binding

ビケ織 Pique.

耳 Selvage

重織 Treble, Quadruple, Multiple Cloth.

弔織 Gauze

添毛織物 Pile Fabric, Plush.

天鷲絨織物 Velvets,

經毛天鷲絨 Warp pile velvet,

緯毛天鷲絨 Weft pile velvet, velveteen.

畝天鷲絨織 Corduroy.

絨氈 Carpets.

急斜文織 Steep Twill or Diagonal.

緩斜文織 Reclining Twill.

曲斜文織 Curved Twill.

飛斜文織 Skip Twill.

燃斜文織 Corkscrew Twill.

組斜文織 Entwining Twill

重斜文織 Twills Having Double Twill Effects

晝夜斜文織 Twills Weaves Producing Checkerboard Effects.

山形斜文織 Pointed Twill.

曇網斜文織 Shaded Twill.

縐子織 Satin Weaves

重縐子織 Double Satin.

花崗織 Granite Weave

蜂巢織 Honeycomb Weave.

模紗織 Imitation Gauze, Mock Gauze.

二重組織

- 綾の釣り方圖 (足の付け方) Cording Plan.
- 踏木 Treadle.
- 栓植圖 Peg Plan.
- 振機 (シャキ) Doup.
- 原組織 Ground Weaves, Foundation Weaves
- 變化組織 Derivative Weaves.
- 混合組織 Combined Weaves
- 特別組織 Special Weaves
- 平織 Plain Weave.
- 經並子織 Common Rib Weave (Warp Effects)
- 緯並子織 Common Rib Weave. (Filling Effects)
- 重斜子織 Fancy Basket Weave. Mat Weave,
- 飾斜子織 Figured Rib Weave.
- 向斜子織 Oblique Rib Weave.
- 斜文織 Twills.
- 破斜文織 Broken Twill.

緯糸 Weft Filling, Wool.

意匠圖 Design.

綜統(緯取) Harness' Heddle, Healds, Shaft.

箠 Reed

杼 Shuttle.

杼道 Shed.

手織機 Hand Loom.

力織機 Power Loom.

踏木機 Treadle Loom.

ドビー機 Dobby Loom.

紋板 Lag.

栓 Peg

上口 Over shed

下口 Under shed

中口 Over and under shed

完全なる意匠圖 complete Design.

綾通し圖(引込) Draft.

附 録

機織の術語

著 者 述

本書は素より洋書の翻譯にあらず専ら余が研究の蹟を書せしものにして名稱等時に適當の者を得ず或は一地方等に専ら行はるゝものに偏せる事なきにあらず是れ必竟本邦いまた機織書の著述鮮く從て各地共通の名稱の乏しきに依れるなり且つ本邦機業場裡に呼ばるゝ所の名稱は多く一つの廣き名の下に總稱せらるゝものありて之を詳に區別する時は實に新なる名稱を命せざる可らざる場合ありかゝる時にはまゝ洋書を參考して彼の名稱を譯せるものなきにあらず故に本書に記載せるものゝ内にて彼國の名に對照すべきもの少しばかり之を左に列擧して參考に供す（但英語のみを載す）

織物 Textiles, Weavn Fabrics' Cloth.

織物工業 Textile Industry.

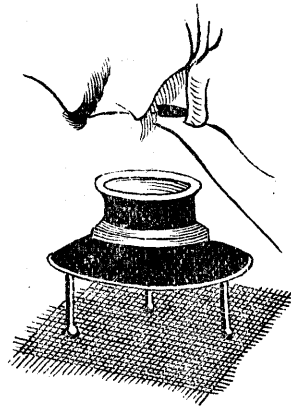
織物術 Art of Weaving.

織物整理 Finishing Textile Fabrics.

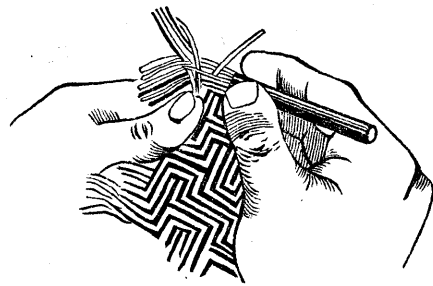
經糸 Warp, chain

て紋織物を除く外の各種の織物に於ける組織は大略了知する事を得て彼の組織は如何にして作れるもの又此織物は如何にして織製すべき等一見胸中に確定して直に手を下し實地に織製する事を得べし是に於てか余が本編を編著せし目的も達せりと云ふべきなり故に本書は茲に筆を止め他日期を俟ちて紋織組織編を述せんと欲す焉

第三百六十五圖



第三百六十六圖



はず故に多くは五六倍なる顯微鏡を用ひて之を見るなり即ち第三百六十五圖に示せる如く布面を熟視する時は經緯糸井然その組織を見る事を得るなり
 されど兩面織物(二重組織)或は重ね織の如きは之が經緯糸を一本つゝ抜き解きて上下の組織を檢せされば容易に知る事能はざるものあり然る時は鋒さきの尖りたる針等にて第三百六十六圖に示せる如く經緯糸いづれかを一本つゝ解き上下せる様を見て意匠紙に圖するなり

又經緯糸等の數を知らんと欲せば織物の端を解き尺度を當てゝその數を檢せば一分に幾本ありて一尺に幾百本なる事を知るべし總て織物はいづれの種類を問はず箴の幅より多少収縮せるものなれば能くその度を推定して箴目を定むべし
 以上説き來れる所に

第拾六章 織物の解剖

前章まで説き來れる處は専ら諸織物の組織上之が性質成立等の理につき説明したれば此等諸織物につきて新意匠を創作し或は新組織を製せんと欲せば右の理に基き之を應用して隨意に意匠すべし然れども一の織物を見てそれと同一の織物を製せんと欲するには能くその織物の組織并に經緯両糸の細太及び一平方内に幾干の經緯糸を組織せるやを知らざる可らず然るを經緯糸太く粗に組織も單純なるものに至りては一目その如何を知るべしと雖ども精緻なる絹織物或は密接せる細經緯糸の毛織物等の如きその組織の複雑せるものに於ては容易に見定むる事能はず然る時は目鏡(小なる顯微鏡の類)の力を借り或は經緯糸等一本つゝ解ぎき放ちて以て其組織の如何を檢するなり即ち之を織物を解剖すとは云ふなり總ていづれの織物にても右の如くして解剖しその組織を意匠紙上に圖せる上は之が完全なる意匠圖を定め以て第四章なる意匠圖の用法により織製法を定むるなり

然れども經緯糸細く且つ緻密なる織物は屢々解剖してその技に習熟せざれば速になす事能はず普通の織物にても織込み多きものは到底肉眼にて視別くる事能

法は本編の説く限りにあらざれば他日篇を改めて説く所あらんと欲す

畝は毛緯糸長く(二)の所は短くなるべし故に之を整理して毛を散解せしむれば(一)圖の如く(二)の畝は太く高くなりて(三)の畝は細く低く毛を生ずるなり是れ同じ組織にても剪毛法の異なるに従ひて恰も組織の異なるが如き畝天鵞絨織を得るなり

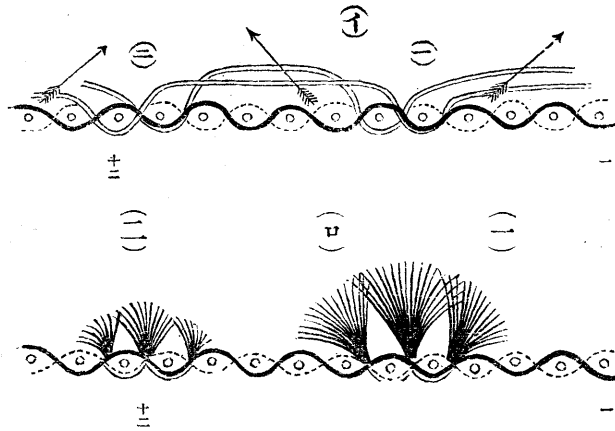
總て緯毛天鵞絨織は剪毛せる後種々の工程を施して仕揚げするものあるがそは他日別に著述する事あるべしと云へども今その工程の概略を記さは先づ左の數工程に分かる

- 一 剪毛 (即ち毛を切る)
- 二 解毛 (即ち毛緯糸の撚を解きて元の纖維になす)
- 三 焼毛 (即ち火力を用ゐて細毛を焼き去る)
- 四 晒染 (即ち晒白し或は染色す)
- 五 整幅乾燥 (即ち幅を整へ乾かす)
- 六 光澤を附す (即ち蠟或は油を附して摩擦し或は壓搾して光澤を出ださしめ兼て毛を柔軟ならしむ)

右の數工程を施し初めて完全の織物となるなり

特り緯毛天鵞絨のみならず凡そ織物の多數は組織後多少の工程を経て初めて市場に出る者とす此工程を名つけて織物整理法俗に仕揚とはいふなりされど織物整理

第三百六十四圖



第三百六十三圖中(二)は平織の地にして毛緯糸は第五經并に第六經第十一經及び第十二經の四本のみ組織第一經より第四經までの四本と第七經より第十經までの四本には組織せず故に矢印の處を剪毛し之を仕揚ぐる時は(二)圖の如く毛の畝を生するなり(三)は斜文織の地にして(四)圖は毛緯糸三本の經糸と組織し之を仕揚

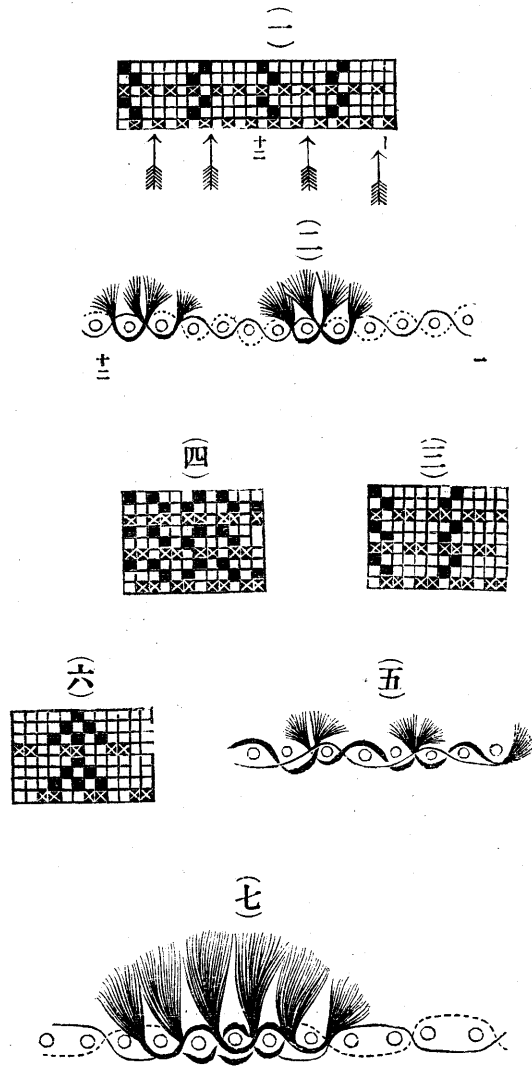
ぐる時は(五)圖の如くなるなり(六)圖は大なる畝を生すべき組織にしてその横断面圖は(七)圖の如し

右の外種々なる組織あるも皆同様のものなれば餘は之を略せん

以上説ける所は剪毛刀の刃を真直に上に向けて切れるものにて剪毛刀の刃を種々の方向になして切る時は大小種々の畝を得べし今圖につきて之を云はゞ左の如し

第三百六十三圖中(二)の如き組織も之か毛を剪る時その刀の刃を第三百六十四圖中(イ)の圖に示せる矢印の如く斜めに向けて切る時は(一)の

第 三 百 六 十 三 圖



畝天鷲絨織
 此種に屬する組織は英名をコールドユロイ稱し前項普通の緯毛天鷲絨織と敢て大差なく総て毛切り法整理法共に同一なれど此組織は毛緯糸をして或る一定の部分に於て經糸と組織せしめて剪毛する故經糸と組織せる所のみ毛を生じ組織せざる部分は毛なきにより茲に豎に毛の畝を生ずるものなり今左に圖を掲げて之を説かん

右の諸圖中六(十二)の二個は毛緯糸經糸三本と組織すればその他の組織よりは毛
抜けさるなり

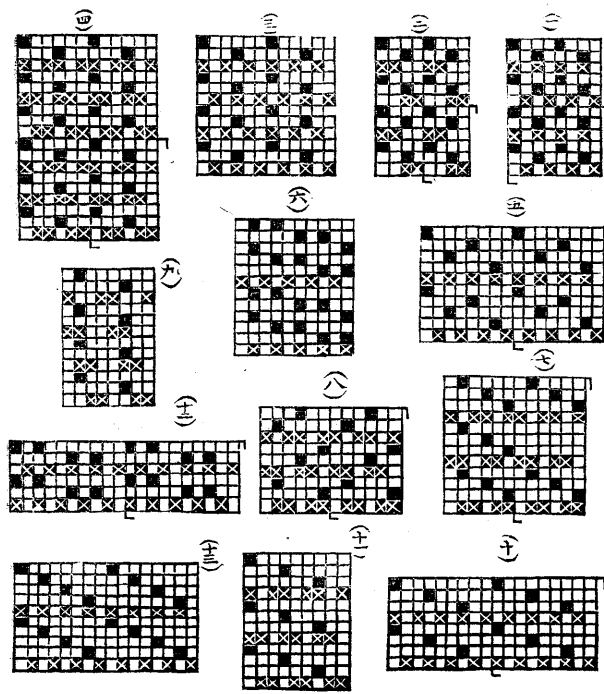
総て毛の長短は毛緯と經糸と組織せる距離の長短によるものにして今假に右數
個の組織はその經糸の精組均一なるものとなして之を云へば(一)(二)は同じ長さの
毛を得て(三)(四)(七)(八)の四圖は亦同じ是れ(一)(二)は毛緯經糸三本を越て組織し(三)
(四)(七)(八)は共に經糸五本を越へたり故に(一)より(三)はその毛長しと云へども(三)(四)
は同じ是れその越ゆる經糸の數同じければなり然れども是れ同じ密度の經糸
につきて云へるものなり蓋し(一)と(三)にても精粗相異なれば同じ長さの毛を
得られざるにあらず學者注意して之を研究せよ

又毛の粗密は第一の地緯糸と第貳の地緯糸の間に組織すべき毛緯糸の組織如何
によるものにして(一)(三)(五)(七)(十三)等は尤も密に(三)(四)等はやく粗なり是れ(一)(二)等
は完全なる意匠圖中その經糸半數だけは皆毛緯糸と組織し(三)(四)等は經糸三分の
一だけ組織すればなり但し右は毛緯糸皆同一の太さに於て組織せる上より云へ
るのみその細太異なる時は敢て然らず

以上説く所の理によりて之を研究する時は毛の長短粗密思ふがまゝ新組織を意
匠する事敢て難きにはあらざるべし

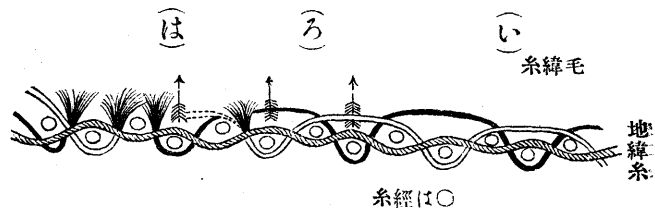
手に持し刀鋒(口)の銷の尖頭を毛緯と地緯の間に入れて切るなり(三)圖は刀の鋒を更に示せる者にて(口)は洋白若しくは眞鍮等にて作れる銷とし之を刀の鋒に嵌入す是れ毛緯先つ(口)の處より(イ)の所に至り及に觸れて切斷せらるゝなり
今此等緯毛天鷲絨織の意匠圖を掲ぐれば第三百六十二圖の如し

第三百六十二圖

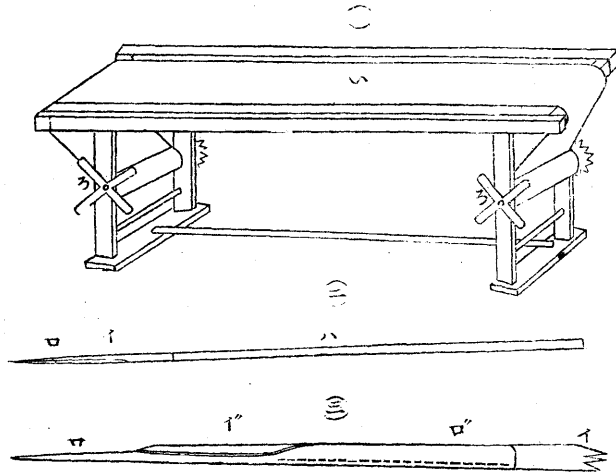


即ち第三百六十二圖中(一)(二)(三)(五)(六)(十)(十二)(十三)等は地を平織になし(二)は經斜子織(四)(七)(八)(十二)は三枚綜統の斜文織(九)にして(九)は四枚綜統の斜文織なり今地緯系と毛緯系の組織を見安からしめん爲め二種の組織點を附し之を分つ即ち■は毛緯系の上に出る經系を現はし□地緯系の上に出る經系を現はせるものと知るべし

第三百六十一圖



第三百六十一圖



糸は(い)の所に示せる如く幾本かの經糸を飛び越へて組織せし爲る後剪毛刀を以て(ろ)の所矢印の如く刀の刃を上に向けて地緯糸の毛經糸の間に入れ以て前に押す時は毛緯糸のみ切れて之を整理する時は(は)の如く切りたる糸頭の纖維散解して毛を爲なり之か毛を切る器機の略

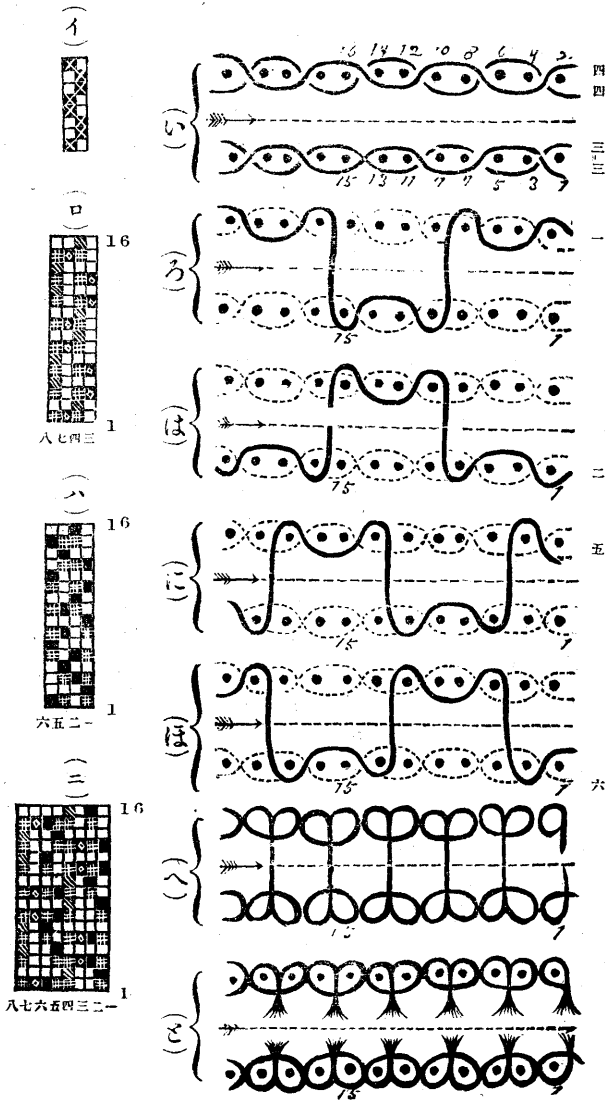
圖を掲げて之を説かんに第三百六十一圖の如し
即ち(一)圖は毛切り臺にして織りたる儘のものを(い)の如く長さ殆んど六尺程に強く張りて毛を切るなり是れ布の兩端を(ろ)の棒に巻きおくものとす(二)圖は剪毛刀にして(イ)は刀(ロ)は之に冠せしむる銷にして(ハ)を柄となす其長さ殆ど三尺之を右

二重(經緯共に二重)に織らんと欲せば(ロ)圖の如く組織點を附するなり而して毛經の組織は(ハ)圖の如くなしこれを地經の間二本毎に毛經二本を入れて上下一本つゝ緯糸を組織せしむるには(ニ)圖のごとく意匠圖を作るなり之れ完全なる二重天鷲絨織の意匠圖にして即ち(ロ)圖と(ハ)圖とを併一して作れるもの今此等組織の縦斷面圖を説かば左の如し即ち第三百五十九圖中(イ)は唯(ロ)圖の縦斷面圖にして上下二重に地を組織せるのみ未だ毛ふらず(ウ)圖は第一の毛經か組織せるところにして(ハ)圖は第二毛經(ニ)圖は第五毛經(ロ)圖は第六毛經が組織せる所を現はしたるものにて(イ)の五個(イ)より(ほ)までを併一して(ハ)圖は作れるなり即ちこれが意匠圖は(ニ)圖にして矢印の方向に毛を切らば(ロ)圖の如く上下二枚の天鷲絨織を得るものとす右のごとくして二重天鷲絨織の組織は理解せられしならん茲に至りて經毛天鷲絨織の事は大略之を記したれば次には緯毛天鷲絨織の事に移りて之を説かん

第二種 緯毛天鷲絨織

此種に屬する組織は専ら綿天鷲絨織に適用せらるゝ所のものにて多く緯糸は一種の糸を用ゐるその糸をして毛をも地をも組織せしむるなり
即ち第三百六十圖に示せる如く地緯糸は平織もしくは其他の組織にており毛緯

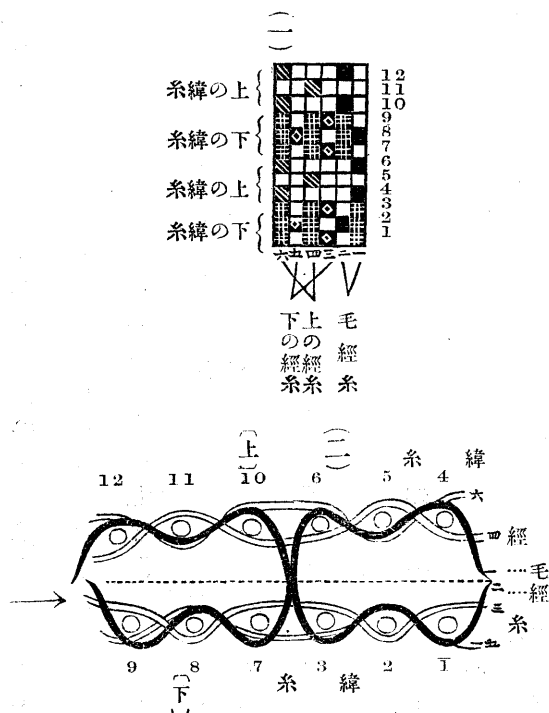
第三百五十九圖



右の如き装置に於て織製すべき二重天鷲絨織の組織は如何にと云ふに第三百五十八圖中(二)圖は之か意匠圖にして地は緯斜子織にて下の經緯糸を組織せしむる時は上の經糸は必ず皆引揚げおくなり(三)圖は之が縦斷面圖にして「二」を毛經となし矢印の所より毛を切り始むるなり

又第三百五十九圖中(イ)は地の組織にして緯斜子織なるが之は一重織にして之を

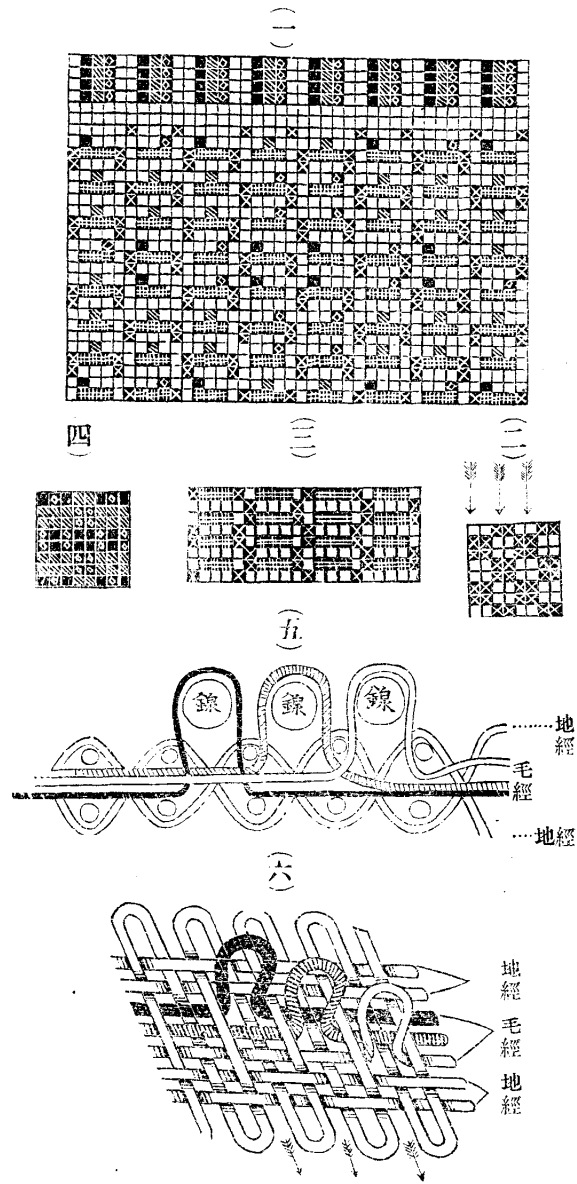
第三百五十八圖



綜統にして(ト)は上の經系(チ)は毛經にして別の膝に巻き上下兩經の中央におく(リ)は下の經系にして此等上下の經系は各別の膝に巻く事もあれど圖の如く(ル)なる膝に共に巻き之を上下に別ちて(ヌ)なる木にて別ち張るも可なり(ワ)は毛切器械にして織りつゝ切り以て二枚に別ち共に毛を生せしむるなり是れ一の毛經は上の經緯糸と組織せる後下りて下の經緯糸と組織するが故に上下經系の間にて於て毛經を中央より切斷せば上下の布面毛を有し茲に二枚の天鷲絨織を得る者とす

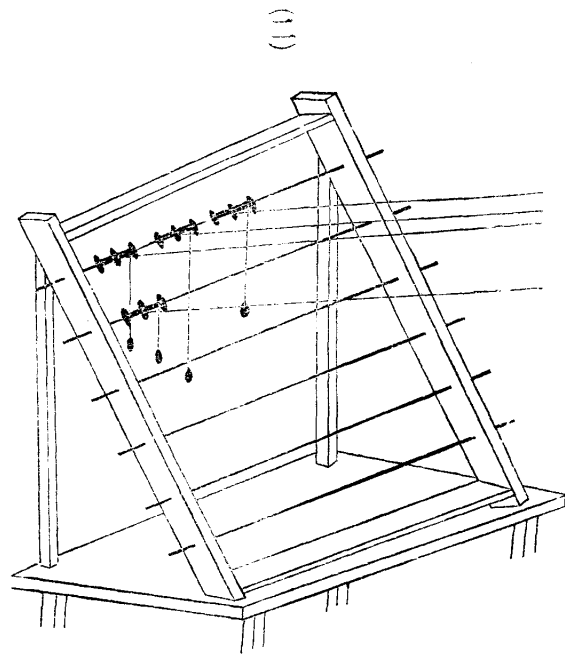
而して綜統の裝置は(ニ)は中口の綜統を用ゐる(ホ)は上口に(ハ)は下口の仕掛を用ゆ又ドビー機にても織る事を得べし然れども多くは力織機によりて織製し手織機には甚だ多からずされど織れざるにはあらず尤も毛切器械等は種々の器具を要し甚だ解し難ければ今は略し

第 三 百 五 十 六 圖



四百二十

糸の間に入り又其色を要する時再び出でしむるものなり今之が縦断面圖を掲ぐれば(五)圖の如し而して表裏緯糸の間に毛經を組織せしめんと欲するには(三)圖の如く附點し針線を織り込む時其處に出づべき色の毛經の所に點を附し以て組織せしむるには(二)圖の如くなるなり故に學者よく(三)圖乃至(四)圖の組織點と之を合すたる(一)圖の附點と比見せば自ら了解すべし但し(二)圖の矢印の所に三色の毛經

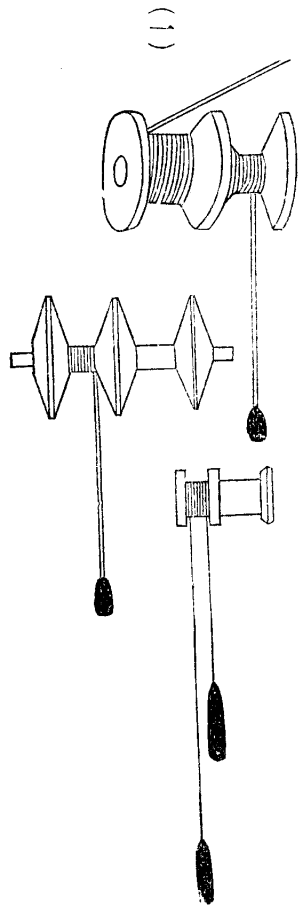


も同じく毛經の綜統一枚毎に膝を別になして巻く右の如き組織は尤も單純簡易のものにして唯其理を示せるのみなれども種々なる精緻の紋様等を織り出すには毛經を一本つゝ別の管くだに巻き壹個毎に重を掛けて張るなり即ち第三百五十五圖に示せる如き管に巻き經糸の數に應じて之を裝置するなり其は(二)圖に示せる如くにして管も經糸の細大又引張

るべき力の強弱等によりて重り并に形狀をも種々なるものを用ゆ
 又第三百五十六圖に示せるものは多く絨氈織に適用せらるゝ紋天鵞絨織の一種にして(一)圖は三色の毛經を用る地は(二)圖の如く重斜子織に組織すと雖ども此緯糸は表裏に別れて二重組織の如くなるべし又た毛は(四)圖の如く三色の經糸その紋様に従ひて出づ即ち(六)圖に示せる如く其一色を出す時は他の二色は表裏の緯

く組織せしむるものあり今右の二種に於ける組織を説かんに
 第三百五十四圖中(一)圖は紋様のみ毛を生せしむべき紋天鷲絨織の意匠圖にして
 即ち(二)圖に示せる如く紋様の所のみ毛あるなり而して地は平織にて二枚の綜統
 なれども(一)圖の下に記せる數字を符號とせる毛經の綜統は五枚を要すべし綜統
 に通入せる經糸は各別の膝に巻きて装置せされば毛の有無により經糸の伸縮不
 同を生じて織製する事能はさるものなり又右側に記せる數字の所に針線を入れる
 ともものとす

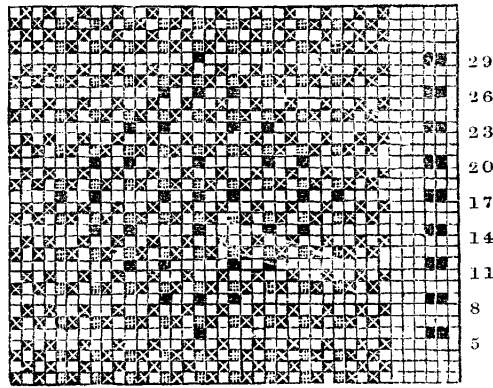
第三百五十五圖



(四)圖は二色の毛經を用る紋様の毛と地の毛と色を異にして現はるべき組織の意
 匠圖にして織りたる所の紋様并に毛色の異なる様は(三)圖に示せるが如し此地の
 組織は斜子織に
 して二枚の綜統
 なれども毛經は
 一色に付三枚宛
 の綜統を要し二
 色にて六枚を要
 する也而して是

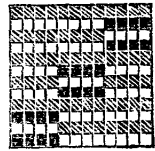
第三百五十四圖

(一)

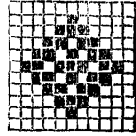


29
26
23
20
17
14
11
8
5

二十九
二十六
二十三
二十
十七
十四
十一
八
五

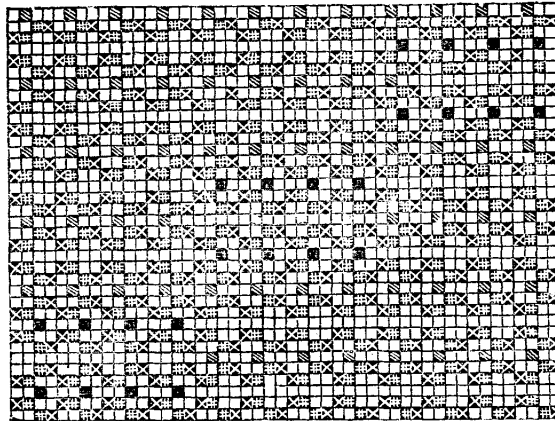


(二)



(三)

(四)



35
32
29
26
23
20
17
14
11
8
5
3

四四
四四
三三
三三
三三
二二
二二
十十
十十
十十
七六
三二
四十六
四十一
三十九
三十五
三十一
二十七
二十三
十九
一四
一

四百十七

し故に茲には云はず
又長き毛經と短き毛經とを混して紋様を生せしむる組織あり
又毛經に二種以上の色糸を用ゐて紋様と地と色を異にしたる毛を生せしむる組織あり
或は一色の毛經なるも紋様の生ずる所のみ針線を織りて毛を生せしめ他は毛な

の經糸一本の割合に整經し(六)圖は地一本毛一本宛を使用せり

又(二)圖は緯糸一本毎に線を織り込み(三)(三)(六)(七)の四圖は緯糸貳本毎に線を織り(四)(五)(八)の三圖は緯糸三本毎に線を織れる組織なり右の内地を平織にせるあり斜子織にせるあり又斜文織あり此等の組織をして見安からしめん爲め異種の組織點を用ゆ學者よろしく注意して意匠圖を檢せは自ら了解すべし然れども今左にその組織を説明せん

■は毛經を揚げ針線を織るべき組織點

☒は地の經緯の組織すべき點

☒は毛經と地緯ちよこと組織すべき附點なりとす

以上述べ來れる所にて普通の經毛天鷲絨織の組織は略ぼ知得せられしならんが此天鷲絨織の一種に紋様を織出せるものあり之を紋天鷲絨織と云ふ此組織に關して詳細なる事は紋織組織篇に述べべけれど左にその大要を摘記せん

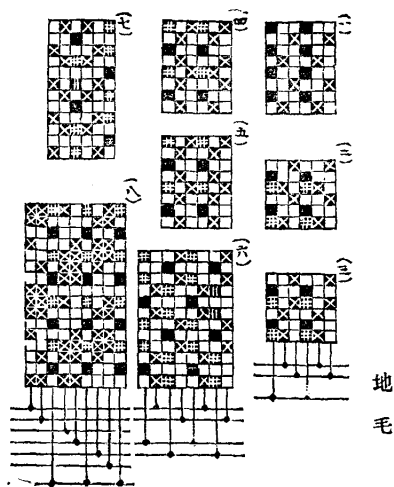
紋天鷲絨織

此種に屬すべきものは種々ありて普通の天鷲絨織(經毛)に於て紋様の所のみ毛を切らずして其他は毛を切りて紋様を現はすあり之に反して紋様のみ切りたるあり然れども此は唯普通天鷲絨に就きて紋様を現はすものなれば組織上に關係な

百五十圖に示せるが如き器械によりて切るものとす然る時は(三)圖の如く切口の纖維は散解して毛となるなり又(五)圖は(三)圖よりも毛粗にして(六)圖は地を緯斜子織と爲したり以上は皆毛の經糸は一本の緯糸にて組織せるものなれば或は毛抜け安きも(七)圖以下は三本の緯糸と組織せるにより容易くは抜け去らざるなりされば毛の短き天鷲絨織には丸き針線にても組織すれど毛の長きものは平き板金を組織す而して板金の厚幅に應じ毛の長短は出來うるものとす故に其幅廣ければ毛長く狭ければ短きあり

今此等二三種の經毛天鷲絨織の意匠圖を揚ぐれば大略左の如し

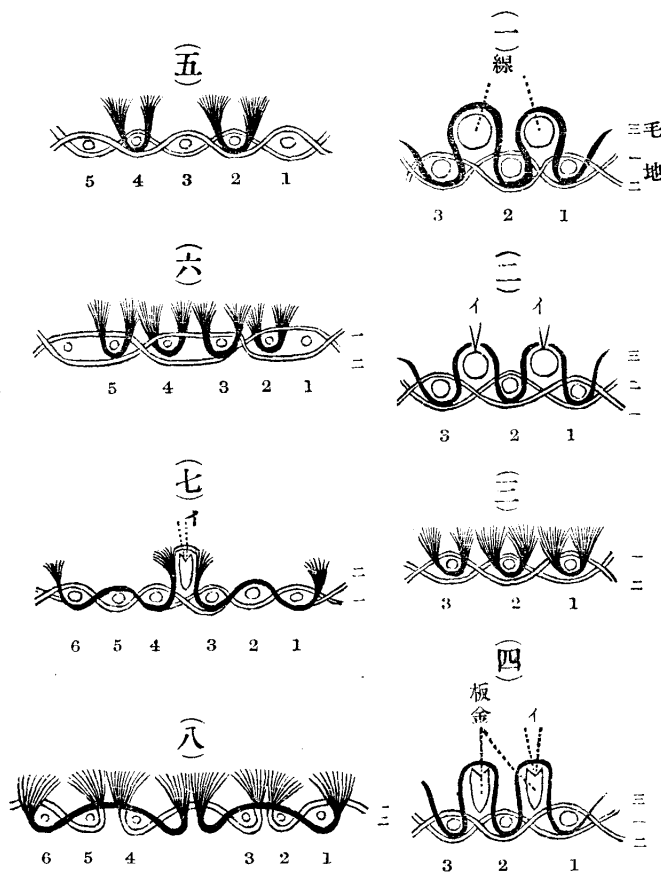
第三百五十三圖



第三百五十三圖は皆經毛天鷲絨織の意匠圖にして(一)圖より(五)圖迄は地の綜統二枚(實地には或は四枚を用ゆ)にして毛の綜統は一枚(實地には又貳枚をも用ゆ)にて組織する事を得べし

(六)圖及び(七)圖は毛の綜統二枚にして(八)圖は地の綜統六枚に毛の綜統一枚なりとす總て右の意匠圖(六)圖を除く外地の經糸二本に毛

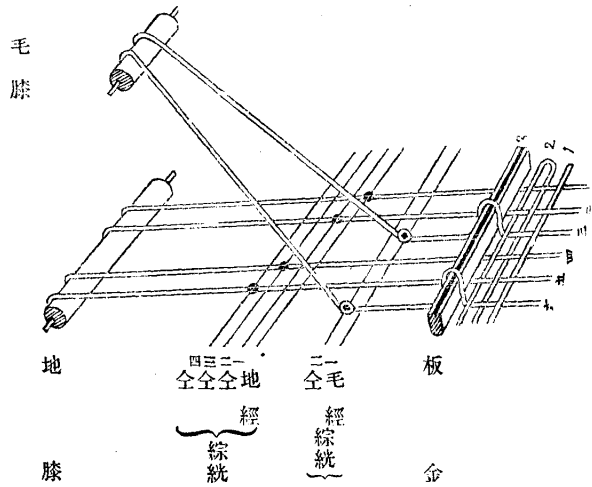
第 三 百 五 十 二 圖



は毛經のみを揚げ針線若しくは板金(毛長天鵝絨)を織り次に又地を織りかく二三回して始の線の毛を切り又織り込むなり而して綜統の装置は多く地の綜統を輻仕掛にして毛經の綜統には弓棚仕掛等を用ひ或は毛地共に唐碓若しくはドビ機等をも使用するなり

第三百五十二圖は各種經毛天鵝絨織の縦断面圖にして(六)を除く外は總て地は平織なり唯毛の長短粗密の別あれど皆(二)圖の如く丸き針線を織り込み或は(四)圖の如く平き板金を織り込み(二)圖の如く(イ)なる小刀の鋒にて第三

第 三 百 五 十 一 圖



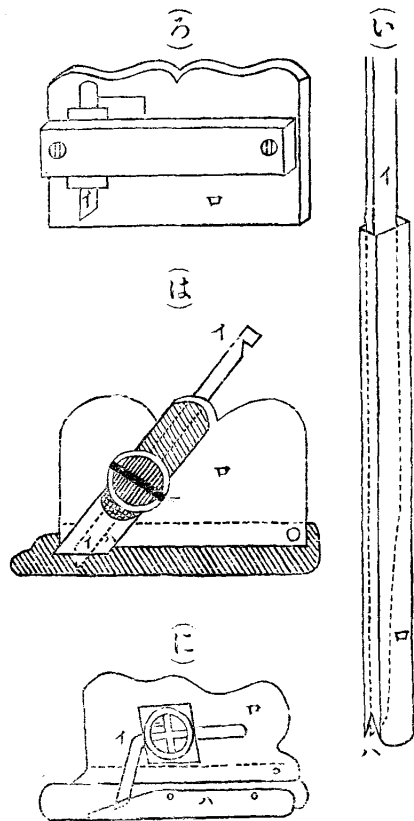
銅線上に強く押し付け其線を挟みて左端より右の端へ引く時は銅線の上なる經糸は切れて毛となり線は自ら取るゝ也是れ従來より本邦にて使用せる具にして(ろ)以下は専ら泰西諸國に行はるゝ者と爲す且つ(ろ)以下三種の具は唯形の異なるのみには使用法は一也即ち「イ」は小刀にして「ロ」の如きは「ハ」と「ロ」の間に織りたる線を挟み上方より押し引きて毛を切る者と

す又(ろ)及び(ハ)は(圖)の器械は單に線の細大に應し「ニ」の螺旋を廻轉して「イ」と「ロ」の距離を自由に定め以て前方に當て引きて切る也第三百五十壹圖は六枚綜統(内貳枚は毛經の綜統なる天鷲絨織の裝置に於ける略圖とす

即ち毛經は二枚の綜統に通入し地經とは別の膝に巻きて地經よりは高く張りおくなり地經は四枚の綜統に通入し別の膝に巻きて強く張るなり而して地と毛兩經糸とも平織に組織し毛を出さんと欲する時

此種に屬する組織は専ら二種の經糸を使用し一を地經糸と稱し一を毛經糸と云ふ又此二種の經糸は各別の膝をまきに巻き地は強く之を張り毛は緩く張りて引けば來るべく装置す地の組織は多く平織或は變化平織(經斜子、緯斜子、重斜子)の簡單なるもの若しくは斜文織等大概六枚以下の綜統にて織り得べき組織を用る毛は緯糸と組織せしめて後切るなり而して毛を生せしむるには多く針線を織り込み其上を切り放ち以て毛となすなり但し針線を織り込みたるものにて毛を切らず之を抜き取りたる儘のものを輪名天鷲絨織と唱ふ

第三百五十五圖



即ち第三百五十五圖に示せるものは其毛となるべき經糸を切る器械にして(イ)は「ロ」なる鐵製の細長き四角の管の中に「イ」なる小刀を入れ「ハ」の所に鋒さきを出し且つ「ロ」の管の下端は二ツに別れをりて織りたる針線を挟むべく作られ其中央に鋒出でたる也故に之を織りたる

第拾五章 天鷲絨織

夫れ天鷲絨織は添毛織物の一種にして尤も廣く應用せらるゝ所の織物の一なりとす

されど天鷲絨織の内に於ても亦種々なる種類ありてその數一二に止まらされど余は之を二種に大別して左の如く區分せり

第一種 經毛天鷲絨織

第二種 緯毛天鷲絨織

抑も經毛天鷲絨織は本邦從來より専ら織製せる所のものにて通常二種の經糸を用ゐる一つは地を組織せしめ一は毛となすものにて専ら經糸にて毛を生せしむる者即ち毛長天鷲絨(坊間ブラッシュ)天と稱するものゝ類(絹或は毛糸製の天鷲絨等とす)

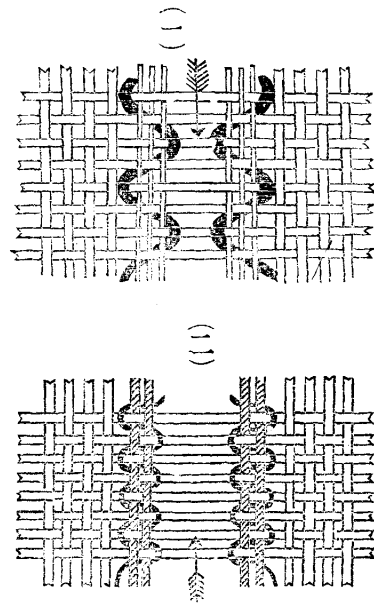
又緯毛天鷲絨織は専ら緯糸を切斷し以て毛を生せしむるものにて綿天鷲絨(坊間唐天)又は本天或は絹天と唱ふるものゝ類(綿畝天鷲絨織同じくコール天など云ふものゝ類)等とす

第一種 經毛天鷲絨織

緩く張りおくべし地の經糸よりは大に長き糸を要するなり

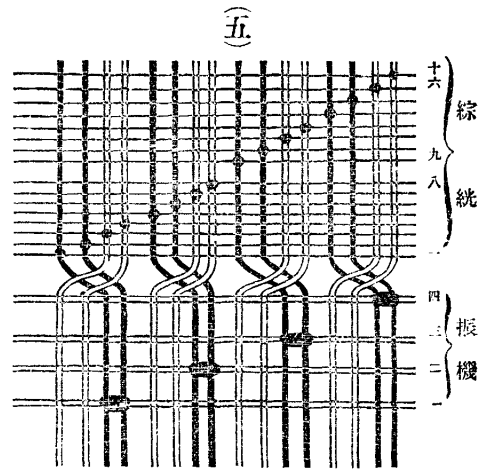
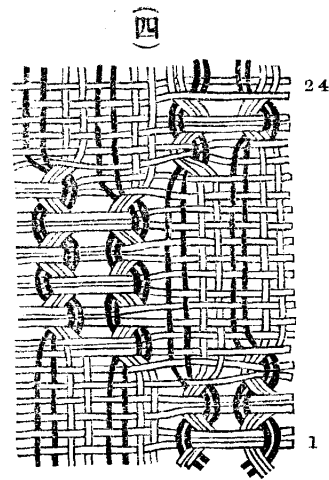
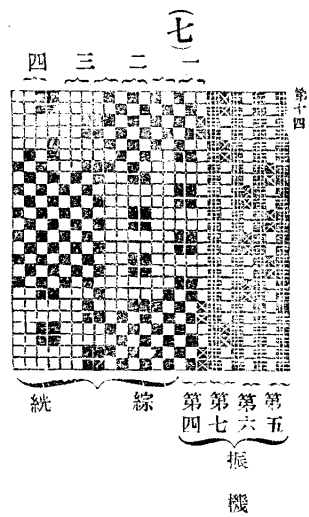
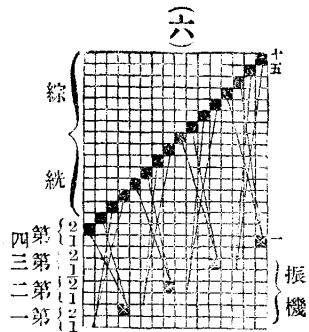
以上説き來れる所にて搦み織の大略は盡したれば次章に於て添毛織物の内に於ける天鷲絨織の事を説かんと欲するなり

圖九十四百三第



所の經糸は必ず第一經と第貳經を
同じ箴目に通入すべし
又廣き機臺にて狭き織物を二幅並
べ織り或は三幅並べて織製する時
緯糸貳幅又は三幅共に一挺の杼に
て通入し織り揚げたる後に貳幅又
は三幅に截斷して販賣する事あり
此の如き時切りたる織物の耳は經
糸解け安く之を引けば引くだけ何處迄も解けて甚だ悪しき者なり然る時は切る
べき耳と耳との間に於て二三の經糸を搦み織になすべし然る時は經緯の組織密
接して決して解くる虞なし其の組織は種々あれども第三百四十九圖に示せるが
如きもの尤も廣く行はる(一)圖は太き糸にて經糸三本をからみ(二)圖は細き糸にて
二經糸を搦みたり是れ織り揚げたる後矢印の所にて截斷せば兩耳共に搦み織り
の爲め解繙する恐れなしとす且つ此等の組織は學者既に前條に於て之が織製法
の如き既に了知せし所ならん故に茲に説かざれども一枚の振機を使用せは織り
得る事直に理解せらるべし又この搦糸即ち轉糸は地の經糸とは別の膝に巻きて

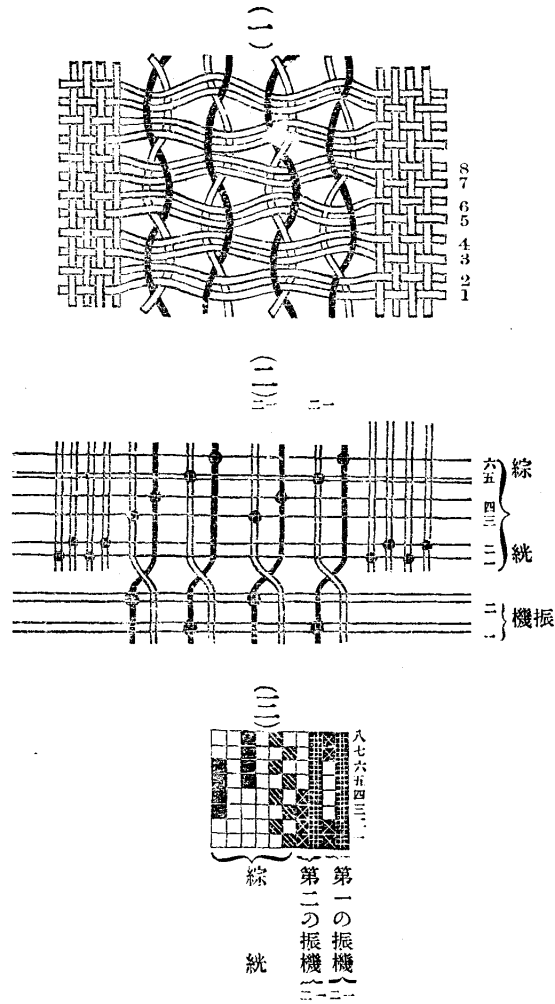
込むなり又三百四十八圖の(二)圖中平織の經系は之を如何に通入するも搦み織の



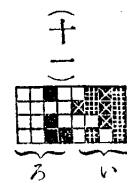
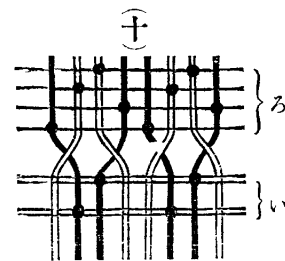
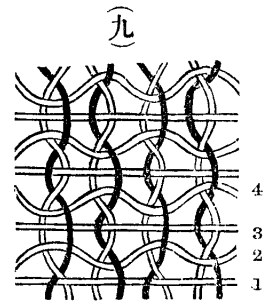
四百八

と通入す
べし又第
三百四十六
圖中の(六)
及び第三
百四十八
圖中の(五)
は第一經
より第四
經まで四
本を箴登
目に通入
し夫より
順次四本
つゝ引き

第 三 百 四 十 八 圖



し此織物は撚み織の間に平織の堅條を得るなり
 (四)圖は撚み織と平織を市松形に組織せるものにて之か綾通し圖は(五)圖の如し又
 或は意匠紙を用ゐて(六)圖の如く記する事あり而して之が栓植圖は(七)圖の如し
 總て撚み織の經糸を箴に通入するには必ず轉糸より轉糸までを一目に通入すべ
 し然らざれば必ず箴齒に妨げられて轉織する事能はざるべし故に第三百四十三
 圖より第三
 百四十六圖
 中(六)を除き
 第三百四十
 七圖までの
 撚み織は皆
 第一經と第
 二經を同一
 の箴目に通
 入し夫より
 順次二本つ
 四百七



圖解

ろは綜統
いは振機

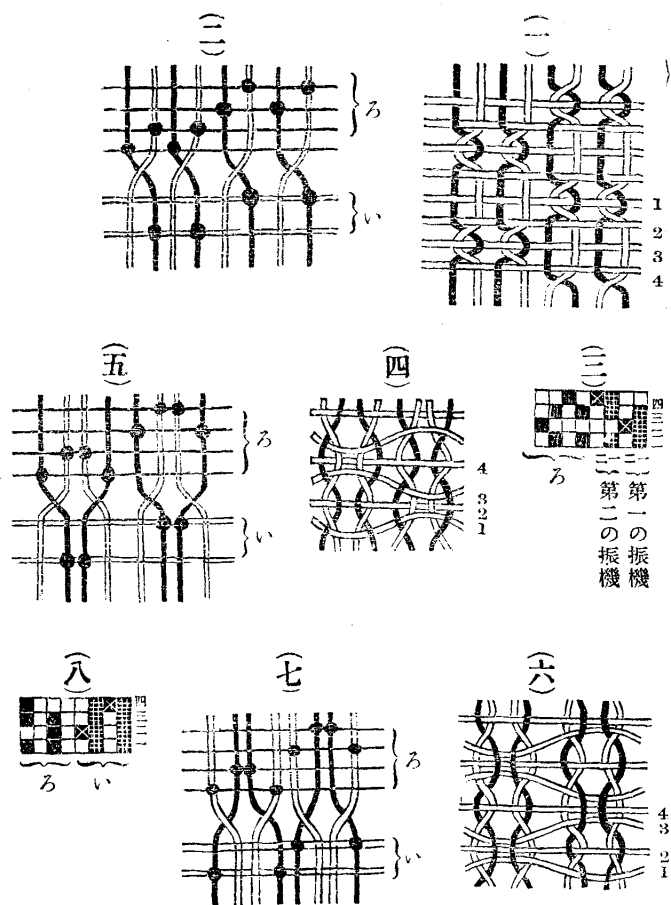
(二)圖の如く綜統を貳枚に減する事能はざるも三枚となす事は得へし

又六圖の經系は(七)圖の如く綾通しをなし之が栓植圖は(八)圖の如しとす但しこの組織も(二)圖と同じく綜統を二枚に減する事を得べし

第三百四十七圖の組織は總て綜統四枚に振機二枚を要す即ち(二)圖の組織は(二)圖の如く綾通しをなして(三)圖の如く栓を植うるなり(四)圖の經系は(五)圖の如く通入して(二)圖と全しく(三)圖の如く栓を植うるなり(六)圖の組織は(七)圖の如く引込をなし(八)圖の如く栓を植うべし又(九)圖の經系は(十)圖の如く綾通しをなし(十二)圖の如く栓を植うるなり

第三百四十八圖は平織と搦み織の混合組織にして(二)圖は綜統六枚に振機貳枚とす之か栓植圖は(三)圖の如くにして經系を綜統に通入する法は(二)圖に示せるが如

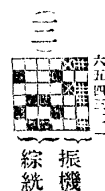
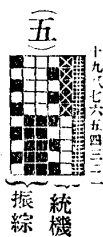
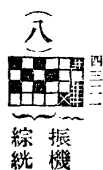
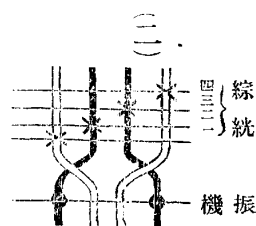
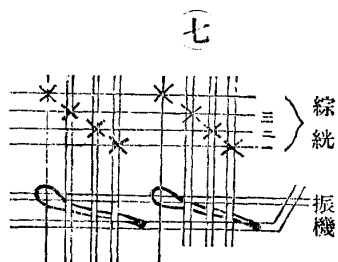
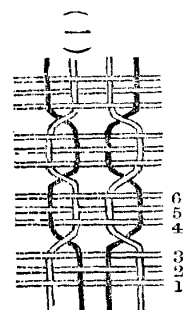
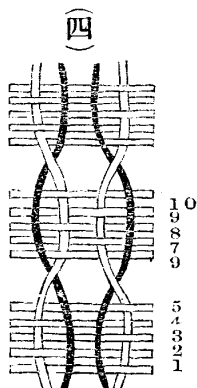
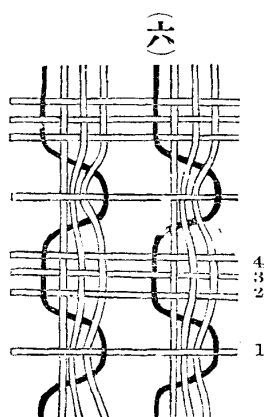
第三百四十七圖



が栓植圖は(四)圖の如くにして紋板貳枚なりとす
 第三百四十六圖は各綜統四枚振機一枚にして(二)圖の經糸は(三)圖の如く通入し之
 が栓植圖は(三)圖の如し尤も踏木式ならば踏木にても織り得べし其足の付け方は
 前數個の圖にて既

に理解せらるれば
 之を略す(以下之
 に做ふ)蓋し此組
 織の綜統は綾通
 し方を變せば貳
 枚にても織り得
 るなり又(四)圖の
 經糸は(二)圖と同
 一に綾通しをな
 し之が栓植圖を
 (五)圖の如くすさ
 れどこの組織は

第 三 百 四 十 六 圖

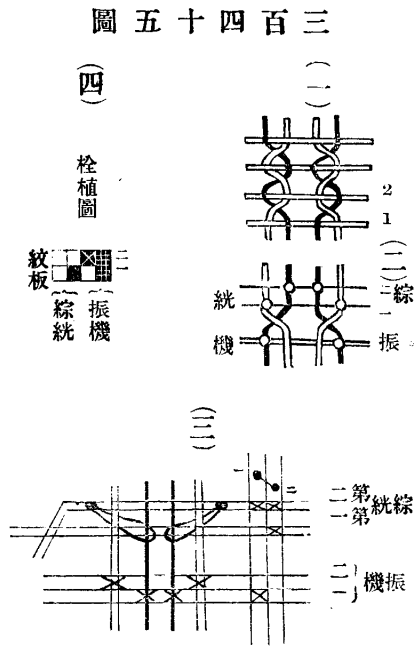


四 百 四

而して此が栓植
 圖は(五)圖の如し
 とす
 第三百四十五圖
 中(二)の如き組織
 は綜統貳枚振機
 一枚にして(三)圖
 の如く綾通し并
 に綾の釣り方を
 なし一二と踏ま
 ば織製せらるべ
 し又右の如き綾
 通し圖を(二)圖の
 如く書き現はす
 事ありいづれに
 ても妨げなし之

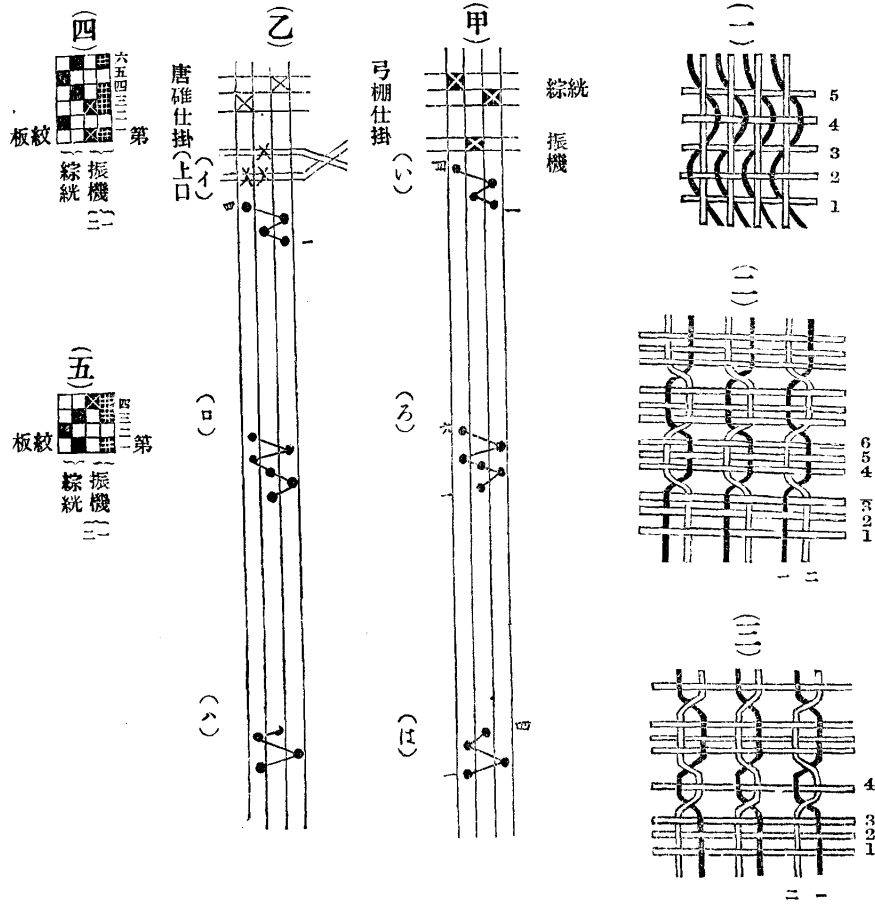
となす是れ初學者の解し安からん爲かくは異種の符點を用ゆ(以下之に倣ふ)第三百四十四圖に示せる組織は皆前の第三百四十三圖中(二)若しくは(五)の綾通し方により唯足を付けかへて踏順を定むれば皆織る事を得べし即ち(二)圖の如き組織にして第三百四十三圖中(三)の綾通しによれば(甲)の如く綾を釣り(い)に示せる如く踏むなり又第三百四十三圖中(五)の如き綾通しならば(乙)の如く足を付けて(い)に示せる如くふむべし

又(二)圖の如き組織を紹織と稱し或は三越し紹と唱ふ是れ緯糸三本つゝ並べて組織すればなり五本宛並べたるを五越し紹と云ふ之を織製するに前法ならば(甲)の



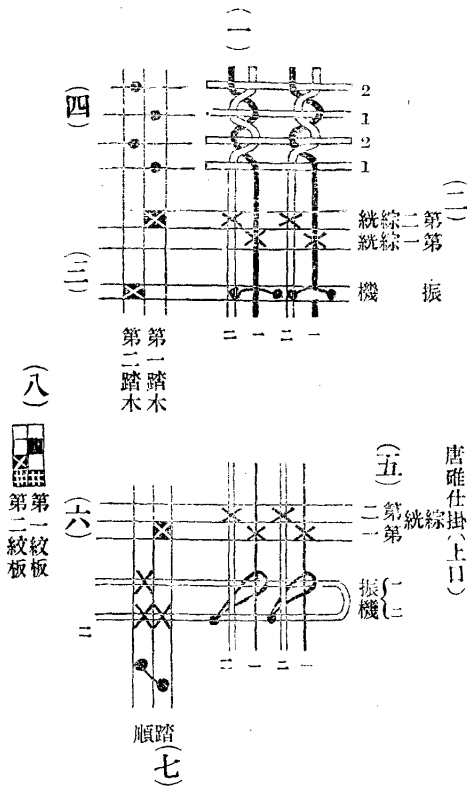
如く足を付けて(ろ)の如くふみ後法ならば(乙)の如く綾を釣り(ロ)の如く踏む而して之をドビーにて織る時は(四)圖の如く栓植圖を作る但し見安からん爲め前圖第三百四十三圖の(八)とは其圖の向を變せり以下皆之に倣ふ
又(三)圖の如き組織も前法からば(は)の如くふみ後法ならば(ハ)の如くふむ

圖四十四百三第



四百一
 貳經の左方より第一經に掛く(六)圖は綾釣を踏順となす又之をドビール機にて織らんと欲せば(八)圖を栓植圖となすなり但しは振機の「一」を揚ぐべき栓にして「二」は振機の「二」を揚ぐべし
 ■は地の綜統を揚ぐべき栓

第三百四十三圖



是に至りて搦み織に於ける綜統の装置并に運用の理は最早會得せられしならん
依りて之が種々なる組織につきその用法を説明せん
第三百四十三圖中(二)圖は通常に紗織しよぢりと稱せる搦み製にして之を織製するには綜
統一枚振機一枚を要す之に經糸を通過せる順序は(二)圖の如し即ち第一經を第一
の綜統に通入し第貳經を第貳の綜統に通入す且つ振機は第一經の右方にありて
第貳經を通過すべきなり之を圖に現はさば第一經の右方に點を記し夫より線
を引き第貳經の上に止め茲にも點を附す是れ第一經の右方より第貳經に掛けたる

唐確仕掛(上口)

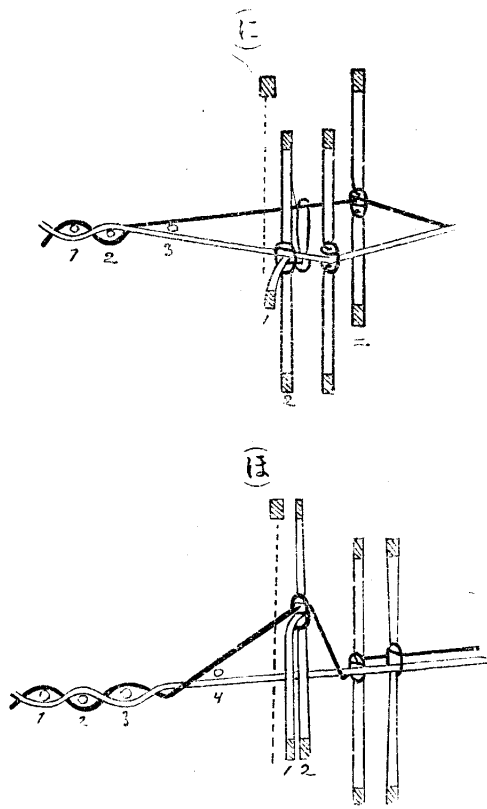
符標なり(以下之に倣ふ)
(三)圖は之か足の付け方
にして(四)圖を踏順とな
す此れ前法(第三百四十
一圖)の法方によれる装
置なりとす
(五)圖は後法(第三百四十
二圖)の装置に於ける綾
通し圖にして振機は第

經の左方より出して第三第二の貳經系の上を飛び越へて第壹經に導入するなり
然る時は第壹經は第貳第三の二經系の上に重り轉じて左方に組織するなり

又第三百四十二圖の裝置に於て第二經を第一經の右方へ轉せんと欲せば振機を
第一經の右方へおき第一の綾糸を第二の綾糸の目硝子の穴より出し第一經の下
をくぐりて第二經に掛くるなり(イ)圖の如し若し第一經を第三經の左方へ轉せんと
欲せば振機を第三經の左方におき第一の綾糸を第二の綾糸の目硝子の穴より
出し第貳第三の二經系の下をくぐりて第一經に通ずるなり然る時は第壹經は第
二第三の二經系の下に重り轉じて左方に組織するなり

されば第三百四十一圖と第三百四十二圖との裝置に於ては前者は轉系上に重り
後者は轉系下に重るなり

今兩者の裝置に就きてその優劣を云はゞ前者は振機の製作甚だ單簡にしてやゝ
便なるが如きも(ニ)圖に示せる如く時に振機を屈折せしめて杼道を作る事あり而
して此杼道は甚だ廣く開き難く且つ尤も振機を損傷するものなり之に反して後
者は決して屈折せしむる事なく適まに圖の如くなす事あるも杼道を防ぐる敢て
甚しからず唯振機を揚ぐる時第一の綾糸を強く引かざればやゝ杼道を小になす
憂あるのみ然れども兩者いづれも其技に熟練せば敢て甚しき不便はなきなり



又之を轉じて第二經を
 第一經の右方に組織せ
 しめんと欲せば
 先づ振機の第一第二の
 綾糸を掲ぐべし

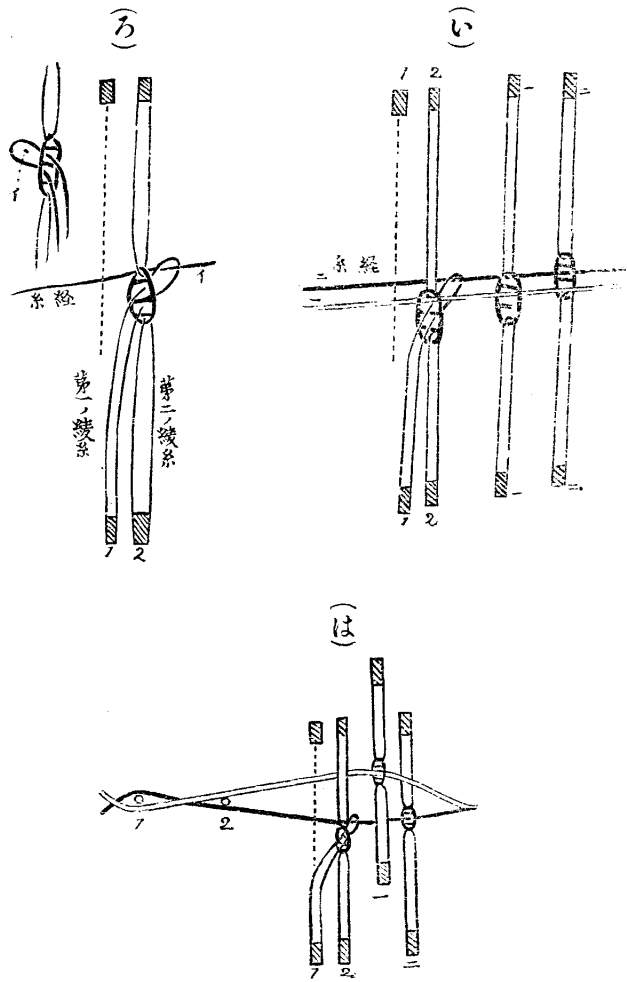
然る時は(ほ)圖の如く
 墨色の經糸右方に轉
 じ屈曲して上り杼道
 を作る

次に白色の經糸を上に掲げんと欲せば(三)圖の如く第一の綜統を上ぐるなり

右の外又別種の装置なきにあらざるも其理同じければ之を省きぬ

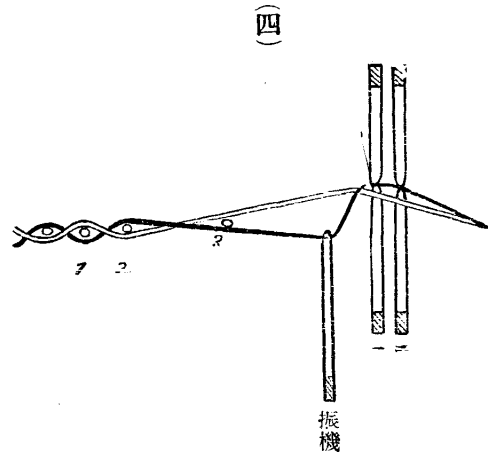
總て振機は轉せんと欲する所におく即ち第二經第一經の右方に轉せんと欲せば
 第一經の右方に振機をおき又第一經を第三經の左方に轉せんと欲せば第三經の
 左方におくなり而して第三百四十一圖の如き装置に於て第二經を第壹經の右方
 に轉せんと欲せば先づ振機を第壹經の右方より出して第壹經の上を越へ第二經
 に掛るなり(壹)圖の如し若し第一經を第三經の左方へ轉せんと欲せば振機を第三

第 三 百 四 十 二 圖



げなければ四ツ穴を使用せば一層便なりとす今此装置によりて織製せんと欲せば左の如くす
 先づ第一經を上ぐるには第一の綜統を揚ぐべし
 然る時は(は)圖の如くなりとす

次に第二
 經を上ぐ
 るには第
 二の綜統
 と振機の
 第一綾系
 (I)を揚ぐ
 べし
 然る時は
 (に)圖の如
 くなるな
 り



然る時は(三)圖の如く振機は直立して杼道を作る

又之を轉じて第二經を第一經の右方に組織せしめんと欲せば先づ振機のみ下ぐべし

然る時は(四)圖の如く黒色の經糸右方に轉じ屈曲して下り杼道を作る

次に黒色の經糸を上によぐるには(三)圖の如く第貳綜統をあぐべし

此にて搦み織の織製法は理解せられしならん此他にも或は人代を用ゐる装置あり且つ

地機跛機ちほたいざりはた又は下機おしはたとも云ふにて織る装置なきにあらざるも大略前圖と大同小異なれば之を略す

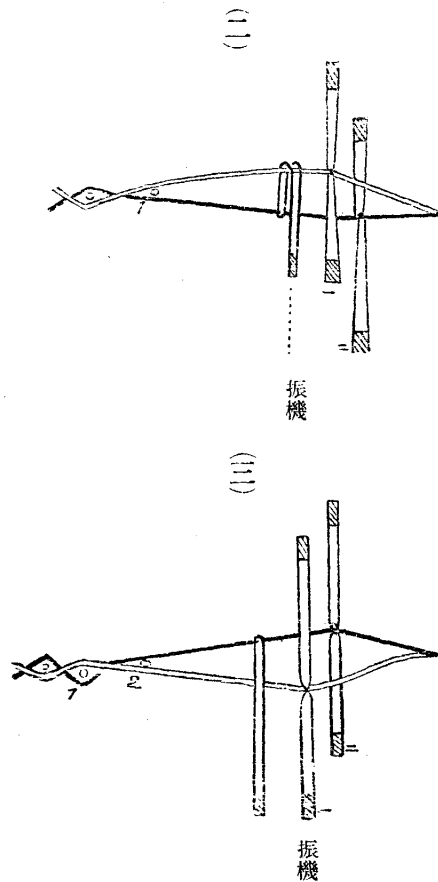
第三百四十二圖は専ら歐洲にて使用せらるゝ所の装置なるが普通唐確掛(上口)によれり但しドビー機又はシャクワード機にても織る事を得るなり

(い)圖は經糸を引こみたる所にして振機の装置は(ろ)圖の如く第一綾糸(上)は下のみの綾糸にして目硝子の穴に通し經糸を通過するなり此目硝子は三ツ穴にても妨

左の如し

第三百四十一圖は絹及び紗など平織に組織する搦み織の装置にして専ら本邦從來より使用せる所のものなるが(一)圖は綜統の全部を示せり即ち地を織るべき二枚の綜統は轆轤仕掛にして振機は弓棚仕掛なり

右の装置により絹を織らんと欲せば乃ち解し安き爲め黑白貳種の經糸を用ゐてなすに第一經は白く第貳經は黒し今右の如く整經せる者にて白色經糸の左に黑色經糸を組織するには地の綜統の二枚にて織るべし



先づ第一經(白)を上

現はさんと欲せば第

一の綜統揚ぐべし

然る時は(二)圖の如

く振機は折れて杼

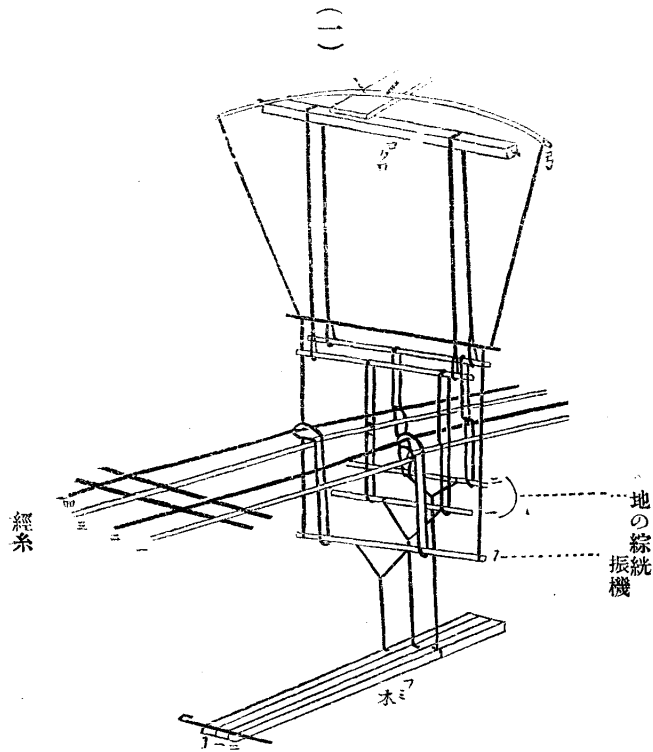
道を作る

次に第二經(黒)を揚げ

んと欲せば第貳の綜

統をあぐべし

第三百四十一圖



機の装置また種々ありて一ならざれど要するに甲の經系の右方なる綜糸を左に組織せしめ或は左方なる經糸を右に組織せしむる爲に使用するに外ならず然れども甲の經より右方なる經糸をして同じく右方に於て組織せしめんと欲せば此振機を以てせしむる事能はず是れ振機は轉じて組織せしむる爲にのみ使用するものなればなり是を以て

右方なる經糸を右方に左方なる經糸を左方に於て組織せしめんと欲するには普通の綜統の装置によるなり故に振機は普通の綜統の装置の外に使用するものにして總て普通の綜統より手前におくを常とす今振機の異なるもの一二を掲げその装置并に運動の方法を説かば大略

糸の纖維を搔出して毛を生せしめたるものを云ふ即ち羅紗フランネル、ブランケット、リントの類是れなり然れども是れ又組織上敢て普通織物の組織と異なる所なければ本編に於ては之を云はず以上三種は組織上よりいふ時は同一種と見做して可なり

第四擲み織物これ本章に説かんと欲する所にして一種前者と異なる所あればその詳なる事は次に説くべし即ち絹紗、羅、レース織等これなり」

第五添毛織物は特に毛となる糸を添織して製し或は織りたる經糸若しくは緯糸を切りて以て毛となす即ち次章第十五章に於て説かんと欲する所のものにて天鵞絨織、絨氈、氈通の類是なり

抑も擲み織は既に云へる如く普通の織物とは異なりて甲乙二種の經糸あり甲は終始同一の方向に緯糸と組織すれども乙は甲の右にありて組織する事あり又左に轉じて組織する事あり而して乙が轉せる所甲の經糸と相交叉して恰も燃りたるが如くなる是を擲むとは云ふなり

今乙をして轉じて組織せしめんと欲せば勢綜統の作用を藉て之を爲さしめざる可らず是れ前に述べ來れる所の製作ある普通綜統にては能はず故に特種の綜統を作り以て組織せしむ即ち此綜統を振機と稱し又「モヂリ」共云ふ所あり而して振

第拾四章 搦み織

夫れ織物は布面の状態により之を區別する時は種々に區分する事を得べし即

第一 普通織物

第二 縹縮織物

第三 搔毛織物

第四 搦み織物

第五 添毛織物

右の五種に大別する事を得べし今試に之を云はゞ

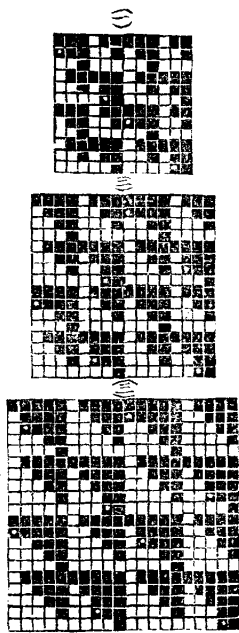
第一普通織物とは平織より斜文、縹子等總て布面經緯の組織織製せる時の儘にして長短厚薄に關せず有紋無紋に論なく本編第六章より第十三章までに説明せる織物を指して稱せる名なり

第二縹縮織物は布面縹縮して畝をなし或は縹しわを生せるものにて縮緬、知々良織縮みの類是れなり然れども組織上敢て普通織物の組織と異なる所なければ本編に於ては説く所なし

第三搔毛織物(又一つに起毛織物とも云ふ)は織製せる後種々の方法によりて經緯

織にして(二)圖は經緯共に四重なり又(三)圖は經緯共に五重なる組織なりとす

第三百四十四圖

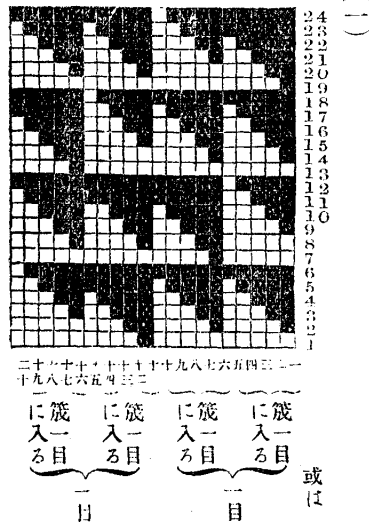


總て此等重織の經糸を箴に通入するには第三百三十九圖の下部に記せる如く各層皆同一の箴目に通入すべし

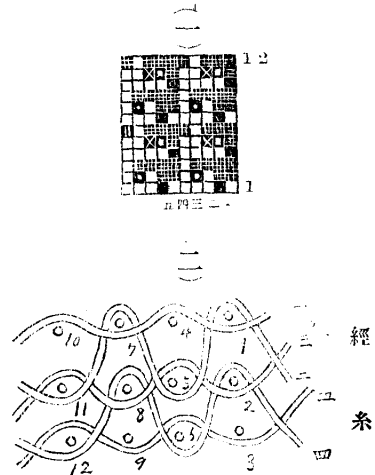
即ち第三百三十六圖及び第三百

三十七圖并に第三百四十圖中(一)の如く經糸三重なる組織は第一經より第三經迄を一ツの箴目に通入すべし第三百三十八圖の如きは第一經より第五經まで五本の經糸を一ツの箴目に通入すべし然らざれば經緯糸をして密接せしむる事難きのみならず堅固に組織せしむる事を得ず故に箴目に經糸を通入する時よく注意して之を爲すを要す

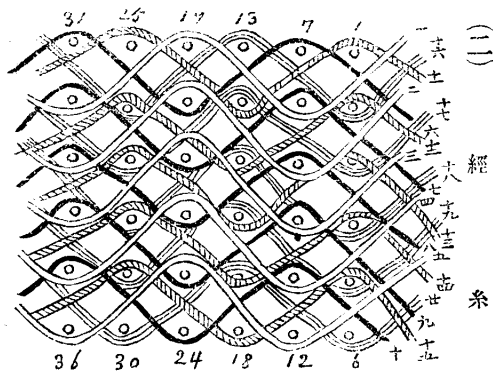
圖九十三百三第



圖八十三百三第

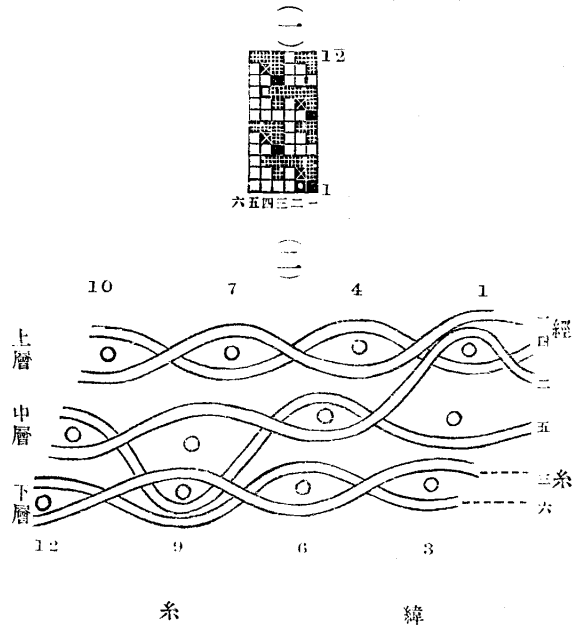


面圖は(二)圖の如くなり尤も此組織は前二個の組織とは異なりて綴結堅固にして尤も強力ある織物を得べし
 今一二綴結點の異なる意匠圖を掲ぐれば左の如し
 第三百四十圖中(一)圖は經緯共に三重の重



三百九十一

第三百三十七圖



一枚に綴結せしめて組織するなり
 其法種々あり今只一例を第三百三十七圖に示す

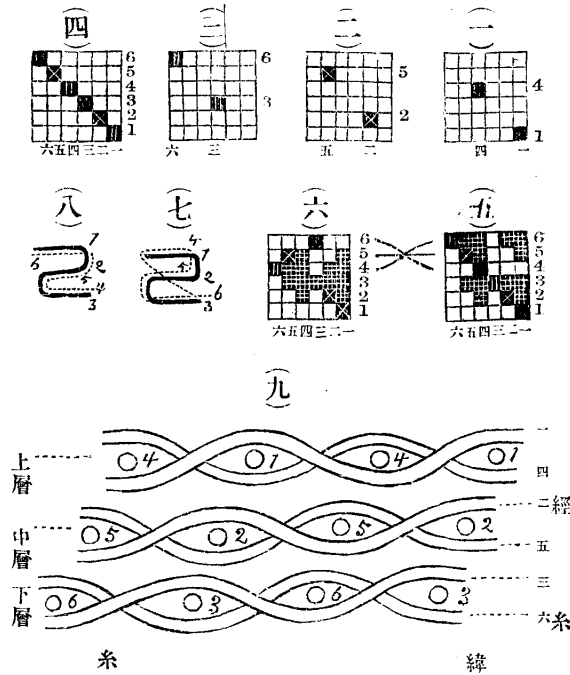
(一)圖は三重織の意匠圖にして第三百三十六圖の(五)を二つ重ね而して第一緯(上層の緯糸)の時第二經(中層の經糸)を掲げて組織し以て上中二層を綴結し第九緯(下層の緯糸)を通入する時第五經(中層の經糸)を下げて以て上中二層を綴結せし第九緯(下層の緯糸)を通入する時第五經(中

層の經糸)を下げて以て中下二層を綴結せしめたるものなり而して之か縦斷面圖は(二)圖に示せるが如し

又第三百三十八圖の如き重ね織あり之が縦斷面圖は(三)圖の如くにして經糸五本なるも緯糸は六本にて一つの完全なる意匠圖をなす

第三百三十九圖は經糸五重の緯糸六重なる重織にして各緯皆綴結せり之が縦斷

第 三 百 三 十 六 圖



層に至れども(六)圖の組織はその緯糸(八)圖の如く下層より中層より上層より直に上るゝ故に織卸したる後一枚となるなり古傳に狭き機具にて廣き布を織製せりと云ひ傳ふるものは蓋しこの法によりしならんされど此組織の目的たる數重の織物を別々に分るべく織るにあらすして厚く且つ強き織物を得んと欲するにあれば右の如くは組織せずして此等三層の組織を前章に云へる如き綴結法によりて

と欲せば上中下三層とも各別の緯糸を組織せしめざる可らず之を一種の緯糸にて織らば袋織の如くなるなり又(六)圖の如く第一緯より第三緯まで織りたる後下層より中層上層と織る時は織り卸したる後一枚となるべき織物を得るなり即ち(五)圖の組織はその緯糸(七)圖の如く下層より上層に組織せらる是れ點線の如く第四緯は第三緯の下層より直に上

第拾參章 重ね織

三百八十八

此の種に屬する組織は多層織物即ち經緯両糸共に三重以上にて組織せる織物を云ふ専ら調帶の如く尤も力の強きを專一となす織物にて此等は多く木綿若しくは麻糸を使用して組織するなり或は又厚きを欲する織物にも適用せらる然る時は多く毛糸等にて織製するなり

今尤も簡單なる三重織より説き始めんと欲す抑も三層織物は經緯糸共に六本にて完全なる意匠圖をなす而して第一經と第四經にて上層をなし次に第二經と第五經にて中層を組織し第三經と第六經にて下層を組織せんか緯糸も之に同じく之が意匠圖を作る事第三百三十六圖の如し

即ち(一)圖は上層の組織にして(二)圖は中層(三)圖は下層となす然れども之を合する時は(四)圖の如しされば之にて三重織は織製すべきやと云ふに決して然らず先づ第一層を織る時は(一)圖の如き組織點にて事足ると雖ども第二層即ち中層を織る時は第一層の經糸は皆盡く中層の緯の上に掲げざれば第一層の經糸中層の組織に入るを以て二重に組織する事能はず又下層を組織する時は必ず上中二層の經糸は盡く下層の緯の上に掲げざる可らず今之が組織點を附せば(五)圖の如し此意匠圖にて織製せば(九)圖に示せる如き三枚の織物を得べし尤も三枚に離れしめん

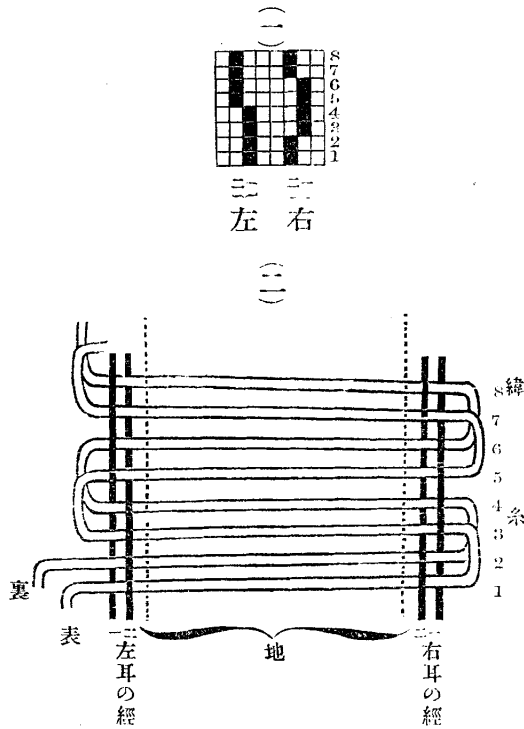
ならば同一の杼道を三度以上開けば一度通入せる緯糸も再び後あきに返るなり今之を防ぐには左右の耳をして其組織を異にせしめざるべからず即ち第三百三十五圖に示せるが如し

(二)圖は左右共に一つの杼道に緯糸四本を入るべく組織點は附しあるも左右共に同一ならず(三)圖に示せる如く二本の緯糸にて四本宛緯斜子織になす事を得るものなり此耳の織方を地方により枕耳とも稱せり然れども此より以上の糸數を一つの口に織り込まんと欲するには杼數を増加し以て組織するにあらざれば能はざるなり

第五 二重組織に於ける耳織の解

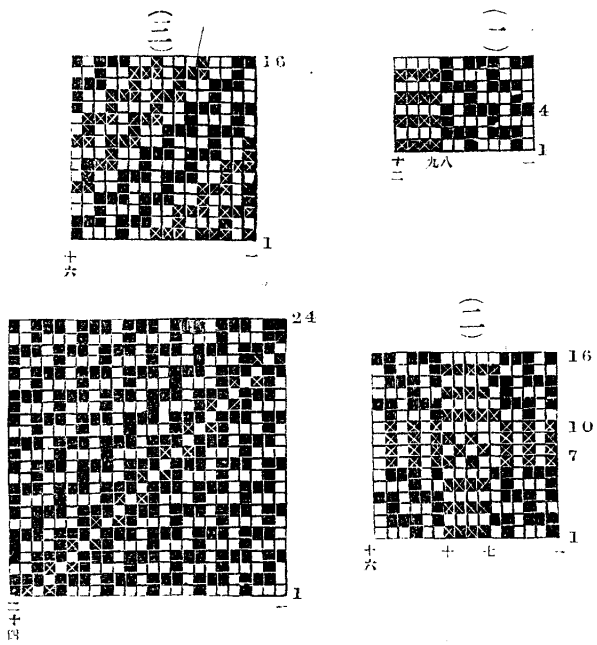
夫れ二重組織にして眞田織若しくは唧筒の吹管(ホース)等の如く丸く袋に織りて殊更に耳織を要せざるものは別に云ふべき條件なきも通常衣料に充つべき此組織の織物即ち二重組織の衣服地或は帶地等に至りては兩側の耳は必ず一重に組織する者なり然るを此耳を一重に組織する時平織は勿論何れの組織に依るも緯糸二本つゝ一つの杼道に織込む位にては地と平均せずして耳の所は必ず前に伸

第三百三十五圖



ひるあり之を防くには一つの杼道に數本の緯糸を通入せざる可らず然るを此等の二重組織は多く緯糸二色にして杼二挺を使用するを常とす故に二本つゝ緯糸一つの杼道に織込む事を得へしと雖ども三本若しくは四本等多數の緯糸を同一の杼道に織り込む事能はず如何と

第 三 百 三 十 四 圖



も是又その窪み甚だ低からざるものなり
 以上説き來れる所にて經緯兩糸共に二重なる組織に於ける諸種の組織は略ぼ説
 明し終りたれば此より次章に移りて多層織物即ち重織の事を説かんと欲す然れ
 ども二重組織に於ける織物の耳に關し少しく述べおきたき事ぬれば更に一項を
 設て之を圖解せんと欲す

なれば高まりて畝をなすべし
 (三)圖は畝斜に右に走りて表裏異
 種の色糸を経緯兩糸に使用せば
 一畝毎に異なる色の畝を得るな
 り然れどもこは畝と畝の間甚だ
 低からず又畝の所は表裏共に平
 織なりとす
 (四)圖は同じく兩面平織にして畝
 右に走り表面の緯糸と裏面の經
 糸と組織せしめて所謂綴結法に
 より以て此所を沈ましむ然れど

緯糸は常に中間に在り紋様の所に至り始めて組織するものなり即ち(一)圖は紋様の形にして之か完全なる二重組織の意匠圖は(二)圖の如し

總て右の如く表二裏一の比例なる組織の紋様は先づ完全なる意匠圖の經緯糸の三分の一なる糸數に於て紋様を作りその圖の經緯兩糸の間に二本つつ經緯糸を入れ以て意匠圖を作るを便とす

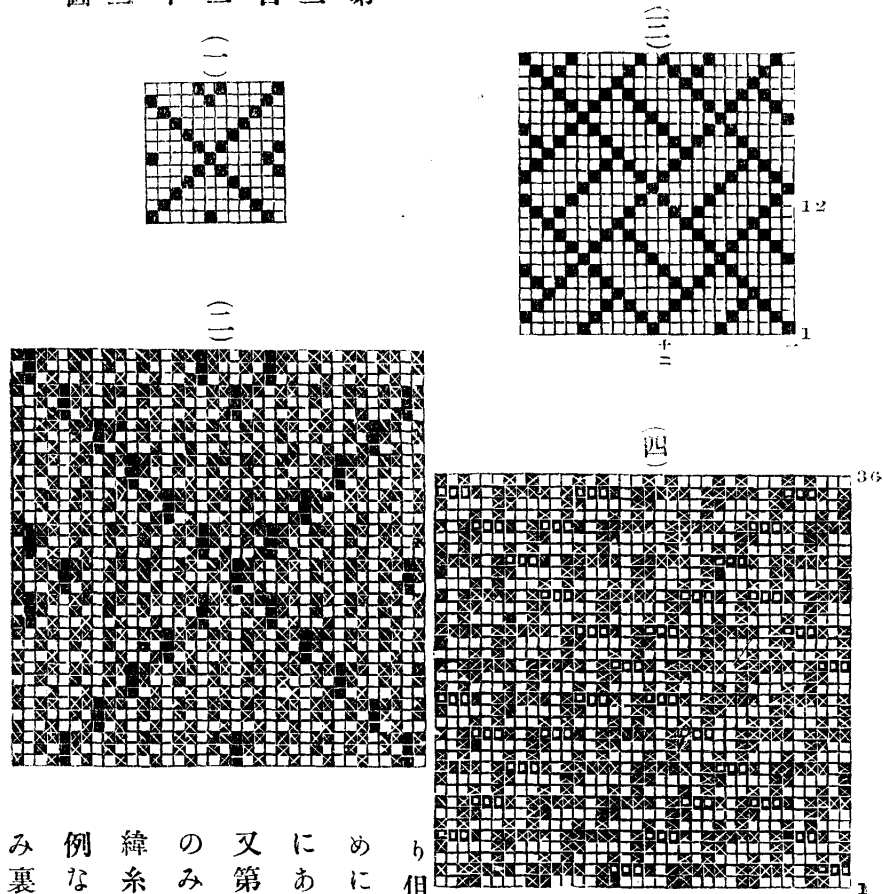
第四 本畝織

此種に屬する組織にして經一重に緯二重なるもの及び經二重にして緯の一重なるものは本章「第一」の第四項に於て既に説きたり故に此種の性質并に織物の品質は既に知られしならんか今茲には經緯兩糸共に二重なる組織に於ける本畝織の圖解を示し以て此章を終らんと欲す

第三百三十四圖中(一)圖の組織は袋織の一部分を一重に組織し以て豎に畝を生せしむるなり即ち第一經より第八經までは兩面平織に二重に組織せられ第九經より第十貳經まで經斜子織の如く一重に組織せられ此所窪み二重組織の所畝をなすなり

(二)圖は第七經より第十經までの四經糸と第七緯より第十緯までの四緯糸の所(一)圖に於ける一部の如く一重組織となりて沈み他の四隅は皆兩面平織の二重組織

圖三十三百三第

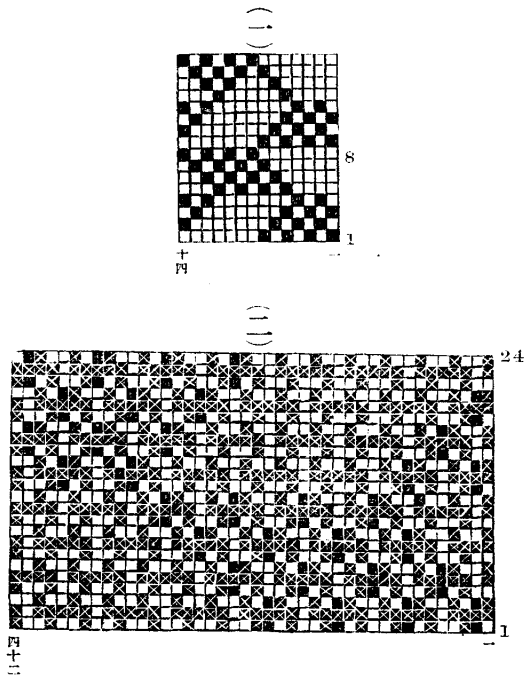


一本の比例たる
 經緯數に於て表
 は四枚綜統の斜
 紋織(二)にして
 裏は平織なり而
 して裏面の緯糸
 を表面に出し窪
 き紋様を作るな
三十六
 り但し見安からしめん爲
 めに説を附す此は組織點
 にあらず空角と知るべし
 又第三百三十三圖は表面
 のみ平織にして両面の經
 緯糸は表二本裏一本の比
 例なり而して紋様の所の
 み裏面の經糸表に出でて

のを常となす而して裏面の經系は強く張り表面は緩く張りて織製すべし然する時は紋様の窪尚ほ深くなるなり
第三百三十一圖中一圖は裏面の經系を以て窪所を作り三圖は緯糸にて作るなり而して(二)圖は裏面の緯糸組織せられずして中間に挟り(三)圖は裏面の緯糸組織せるなり

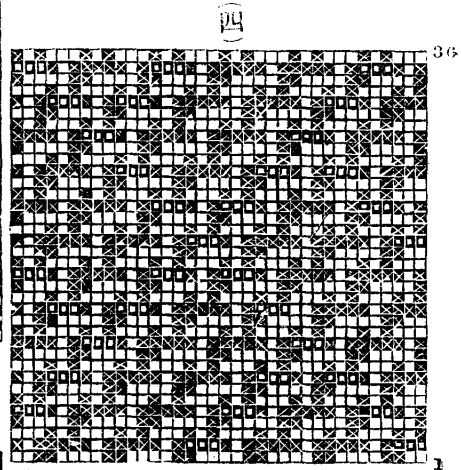
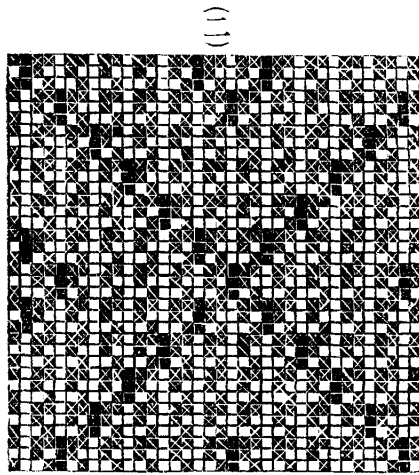
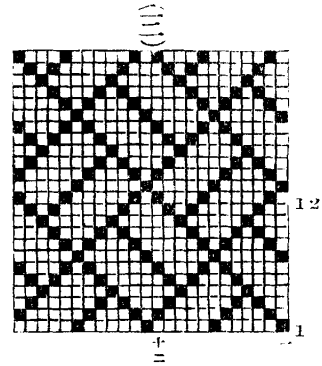
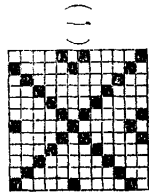
今右の組織により紋様を織製すべき圖を掲げ之を略解せん

第三百三十二圖



第三百三十二圖中(一)の如き紋様を織出さんと欲せば(二)圖の如く意匠圖を作るべし之れ表二裏一の比例なる糸數にて表裏共に平織に組織し裏面の經糸を表面に出して窪き紋様を作りしなり
又(三)圖の如き紋様を現さんと欲せば(四)圖の如く意匠圖を製すべし尤も之は表面二本裏面

圖三十三百三第

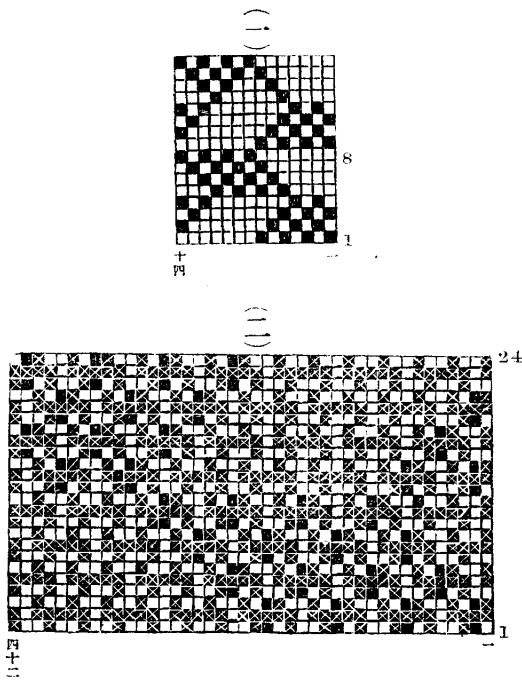


一本の比例たる
 經緯數に於て表
 は四枚綜統の斜
 紋織(四)にして
 裏は平織なり而
 して裏面の緯糸
 を表面に出し窪
 き紋様を作るな
 り但し見安からしめん爲
 めに説を附す此は組織點
 にあらず空角と知るべし
 又第三百三十三圖は表面
 のみ平織にして両面の經
 緯糸は表二本裏一本の比
 例なり而して紋様の所の
 み裏面の經糸表に出でて

のを常となす而して裏面の經糸は強く張り表面は緩く張りて織製すべし然する時は紋様の窪尚ほ深くなるなり
第三百三十一圖中一圖は裏面の經糸を以て窪所を作り三圖は緯糸にて作るなり而して(二)圖は裏面の緯糸組織せられずして中間に挟り(三)圖は裏面の緯糸組織せるなり

今右の組織により紋様を織製すべき圖を掲げ之を略解せん

第三百三十二圖

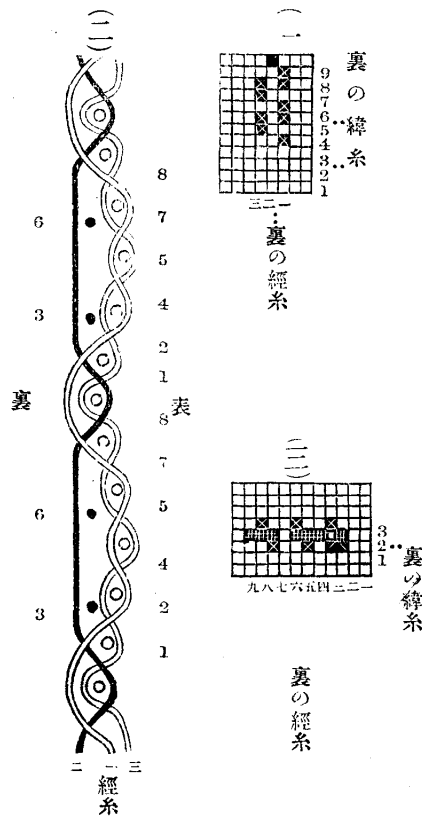


第三百三十二圖中(一)の如き紋様を織出さんと欲せば(二)圖の如く意匠圖を作るべし之れ表二裏一の比例なる糸數にて表裏共に平織に組織し裏面の經糸を表面に出して窪き紋様を作りしなり
又(三)圖の如き紋様を現さんと欲せば(四)圖の如く意匠圖を製すべし尤も之は表面二本裏面

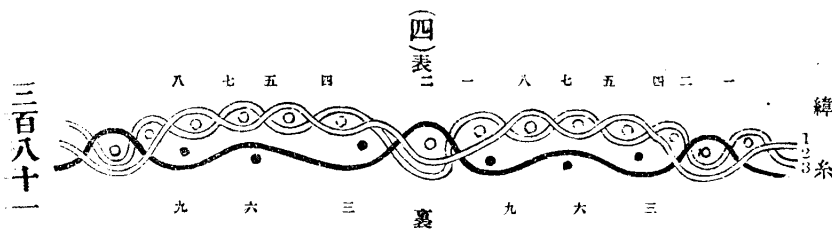
第三 ビケ織

此種に屬する組織は本邦いまだ適當なる名稱なし故に暫く佛名を呼べり尤も強

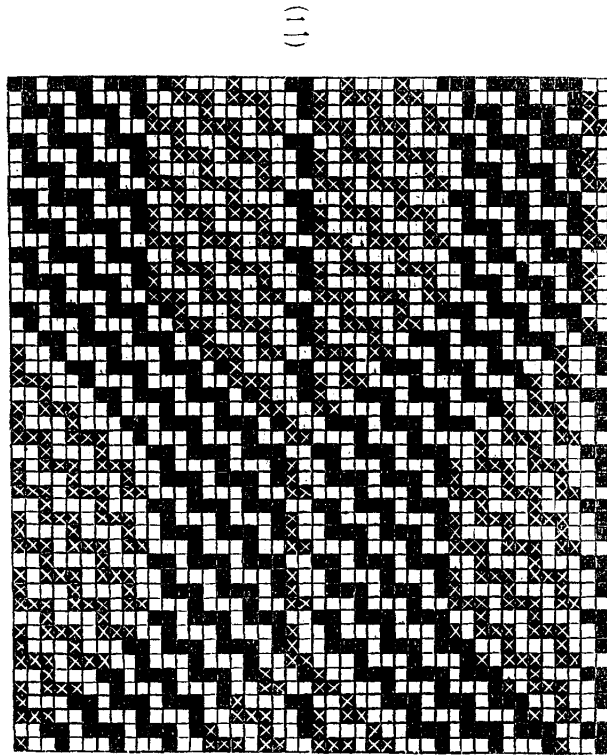
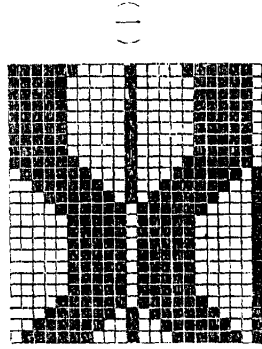
第三百三十一圖



ひて云はく窪み織とも云ふべき乎總て此種の組織は裏面の經系若しくは緯糸をして紋様に從ひ表面に出でしめ以て組織す故に裏面の糸が牽縮する時其處は低く窪み恰も形付けロールにて壓搾せし如く紋様を生せるものなり此組織の織物は多く表裏共に同色にして表面には細糸を用る裏面は太き糸を使用すその比例は表二本裏一本のも

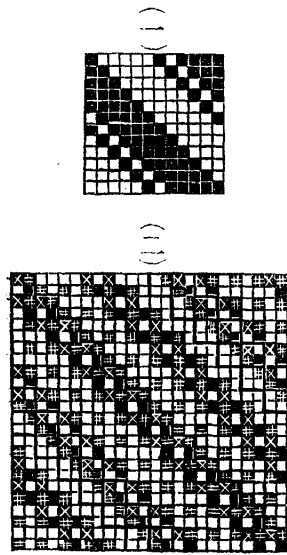


第三百三十圖



第三百三十圖は表裏両面共に平織にして(一)圖の如き紋様を織り出すなり是風通織の紋織に於ける組織にして之が意匠圖は(二)圖の如し然れども最早組織點の理は了解せられしならん故に本圖には紋様をして見安らかしめん爲めその圖に従ひて組織點を異にせしめたるなり

第三百二十九圖



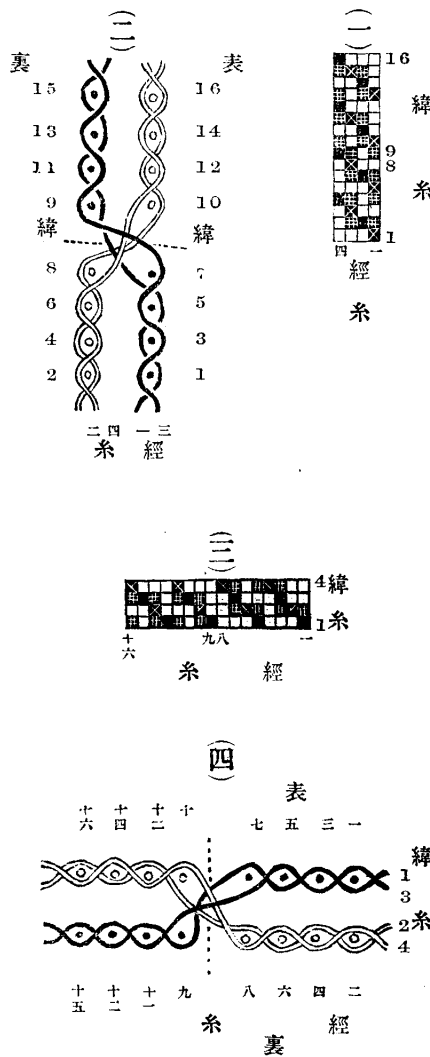
緯迄は偶數の經糸と偶數の緯糸(同色)にて表面を組織す故に右の如く色を異にせしむるなり尙ほ(二)圖の縦斷面圖を檢せば理解すべし
 又(三)圖は第一經より第八經までと第九經より第十六經までとは色を異にせり今之が意匠圖上組織點の附加法を説かば第一經より第八經までは(二)圖の第一緯より第八緯までの如く奇數の經糸と偶數の緯糸の重れる所又第九經より第十六經までは(一)圖の第九緯より第十六緯までの如く偶數の經糸と奇數の緯糸の重りたる所に裏面を織る時表面の經糸を揚ぐべき組織點を皆盡く附點して織製せば(四)圖の如く織ることを得るなり

右の理により第三百二十九圖中(二)圖の如き斜線を色を異にして兩面共に四枚綜純の斜文織(註)に織製せんと欲せばその完全なる意匠圖は(二)圖の如く製するなり
 即ち奇數の經糸と偶數の經糸とは色を異にし緯糸も奇數と偶數は異種の色を使用す然れども奇數の經緯糸は同一の色合にして偶數の經緯糸も亦同色なるべし然る時は(一)圖の如き斜文を得るなり

は左の如し

第三百二十八圖中(二)圖は第九緯より表面の經緯糸裏面に入り裏面の經緯糸代りて表面に現はれ出て、第一緯より第八緯までと第九緯より第十六緯迄とは色を異にせるなり今之を組織せしめんと欲するには意匠圖上先つ表裏両面の組織點

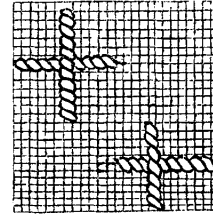
第三百二十八圖



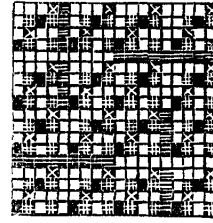
を附し終らば次に裏面を織る時表面の經糸を揚ぐべき組織點を第一緯より第八緯までの間は皆盡く奇數の經糸と偶數の緯糸と重る處に附し第九緯より第十六緯迄の所は偶數の經糸と奇數の緯糸と相重る處に附點すべし然る時は第一緯より第八緯まで奇數の經糸と奇數の緯糸(同色)にし表面を組織し第九緯より第十六

第三百七十二

(一)



(二)



下全

糸指の緯

經の指糸

全上

して第三經を異種の經糸と
なすなり

又第三百二十七圖に示せるも
のは坊間指子織と稱する組織
にして二枚の織物を重ね之を
他の糸にて縫合せたる如くな

ればかくは云ふなり即ち布面に太き糸を用ゐて十字形に經緯糸を交叉せしめた
るものなり即ち(一)圖の如し而して表裏共に平織なりとすその意匠圖は(二)圖の如
し

此他種々なる組織あれども今は之を略しぬ

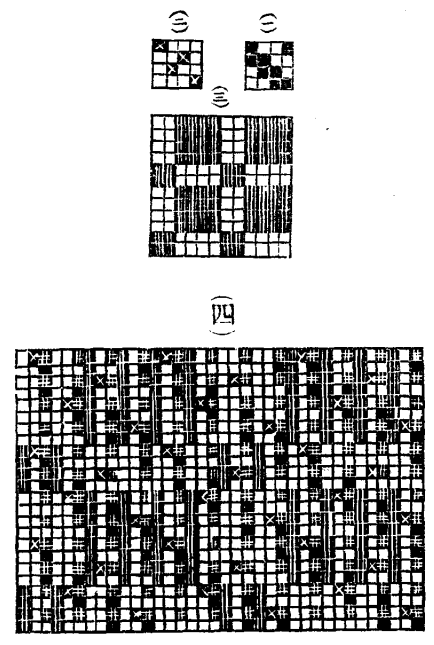
第二 別種

前項既に説ける所の組織にして表面の經緯糸と裏面の經緯糸に異種の色糸を用
ゐて織製せは表裏色を異にして或は表白に裏黒く又は表縁にして裏赤く隨意の色
を得べしと云へども若し白き表面に裏の黒色を出して縞を作り或は紋様を織り
出さんと欲せは各組織を變せしめざる可らず本項に於ては此に屬する組織を説
かんと欲す是れ専ら風通織と稱せる所のものにて今之か組織を圖につきて示さ

面圖は(六)圖の如くにして(七)圖は異種の緯糸表裏に現出せる者之れか横断面圖は(八)圖の如し又(九)圖は異種の緯糸表面に出で夫より入りて中間に挟り裏面よりは見えざるなり而して之か横断面圖は(十)圖の如し次に(十一)圖の組織は異種の緯糸表面に現出せるも中間に入りては表裏両面の緯糸より内部に現はれたる諸經糸と組織し以て表裏を綴結す是れ第四の綴結法にして紋様なき所は此異種の緯糸所謂補充緯糸となりて表裏二重の間を綴結す即ち之が横断面圖は(十二)圖の如しとなす

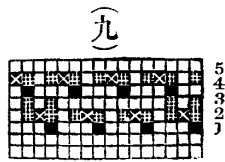
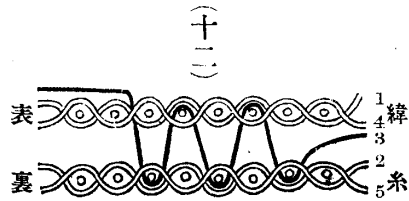
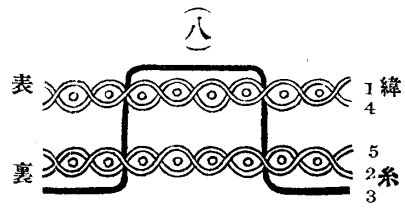
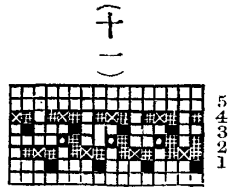
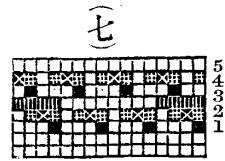
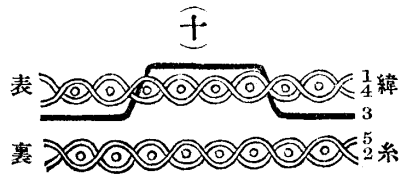
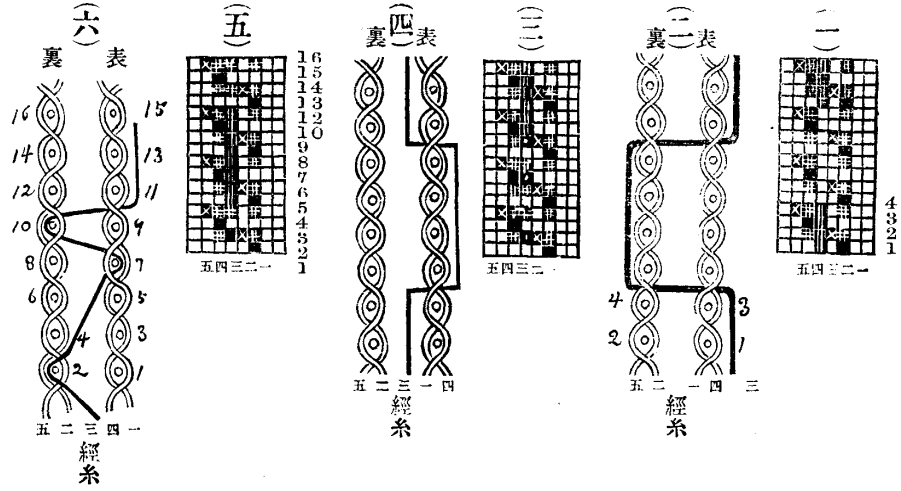
今右の組織に於ける意匠圖一二を掲ぐれば左の如し

第三百二十六圖



第三百二十六圖は第三百二十五圖の(一)と同種なる組織にして表面は(一)圖の如く裏面は(二)圖の如き組織にして其表面に異種の經糸を以て(三)圖の如く重斜子織の如き柄がらを織り出すなりその完全なる意匠圖は(四)圖の如くにして第一經は表第貳經は裏の經糸に

圖 五 十 二 百 三 第



是れ意匠家の尤も知らざる可らざることなりとす是理だに明かならば他の比例の二重組織に於ける綴結法も容易に了解することを得べし第三百二十一圖乃至第三百二十四圖をみよ


第一 別種 重織の一種


此種に屬する組織は前項に説ける所の組織に於て更に經系若しくは緯系或は經緯兩糸を加へて縞又は紋様等織り出すべき組織を云ふ且つ加へたる異種の經緯糸は表面のみに出せるあり又は表裏に出せるものありて此等異種の經緯糸を組織せる所は即ち三重織なり故に次章重織の條下に編入すること適當の分類なれ、されども初學者の解し安からん事を思ひ前例に倣ひて第一別種となし此處にはおく事となしぬ今之が一二の圖を掲げ之を略説せん

第三百二十五圖は織物の一部を示せるものなるが(一)圖は異種の經系表裏に現出せるもの之が縦斷面圖は(二)圖の如くにして(三)圖は異種の經系表面のみに出で夫より入りて中間に隠れ裏よりは見えざる組織とす之が縦斷面圖は(四)圖の如くなり(五)圖は異種の經系表面に現出せるも中間に入りては表裏の緯糸その内部に出たるものと組織し以て表裏を綴結す是れ第三の綴結法にして異種の經系表面に出ざる所は此異種の經所謂補充經系となりて表裏二重の組織を綴結す之が縦斷

第二第五第六第九第十第十三第十四の緯糸も同じく表面を組織する糸となす

以上述べたる如く經緯共に二重なる組織の意匠圖の作り方は先づ表裏の組織を定め次に綴結點を定むるものなり然れども此綴結點を定むるは頗ぶる意匠家の注意を要するところにして第三百十八圖乃至第三百二十四圖に於て示したるが如き容易なることのみには限らざるなり學者宜しく之を試むべし但し綴結點の位置に付ては左の事に注意すべし

一  の左右には可成的表面の經糸の組織點あるを要す第三百十八圖第三百十九圖に於けるが如し

一  の上下は可成的表面の緯糸の在るべき所なるを以て各空角ならざる可らず第三百十六圖(三)に於けるが如し

第三百二十圖も亦不完全ながらも此法に従ひたるなり

此注意は表裏經緯の比例一と一の場合に於ける者なりとす要するに綴結の爲め裏の經表の緯の上に出づるとき左右に表の經ある時は裏の經かくれて見えざるべく又若し裏の緯綴結の爲め表の經の上に出づるとき上下に表の緯あらば是れ亦かくれて見えざるべし即ちちかくなせばいづれの場合にても裏の糸は表の布面を害はざるなり

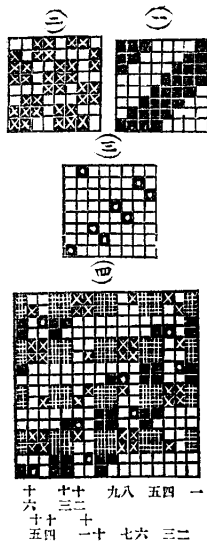
織は即ち第三百二十二圖の如し
 即ち(一)圖は表面の組織にして斜文織とす(二)圖は裏面の組織にして(三)圖の如く綴結したる意匠圖は(四)圖の如し

又第三百二十三圖は表裏共にその緯糸は同數にして經糸のみ二と一の比例なる組織なるがその表面は(一)圖の如くにして裏面は(二)圖の如く平織なり之を綴結する事(三)圖の如くなしたる意匠圖は(四)圖の如しとす

右の外種々なる比例の表裏に於る二重組織あれども皆この理を應用する時は學者隨意に新意匠を作る事を得べし

又表裏同數なる經緯糸の組織の内に第三百二十四圖の如く表の經糸二本次に裏の經糸貳本と二本宛並べて整經し緯糸も表裏を二本づゝ交互に組織せるものあり是れ又二重の組織する事を得べし

第三百二十四圖



即ち第三百二十四圖中(一)圖は面の組織にして(二)圖を裏面とす又(三)圖は綴結點にして之が完全なる意匠圖は(四)圖の如しされば第一第四第五第八第九第十二第十三第十六の經糸は表面にして第一

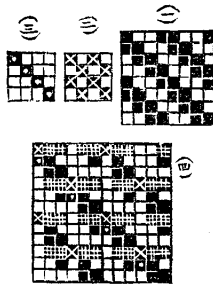
圖となすなり

以上説ける處は専ら表裏同種の經緯糸にして同一寸法内に同數の經緯糸を組織せる二重織の例にして又或種のものゝ表面に善美なる毛糸二本を用ゐる裏面には粗質なる毛糸一本を用ゐて織れるものあり又は經糸のみかくの如くせるあり或は緯糸のみなせるあり又裏面に絹糸二本を用ゐて表面に太き綿糸一本を組織せるあり此等の數は種々ありて盡く出し難きも左にこの一二の例を掲げ聊か説く處あるべし

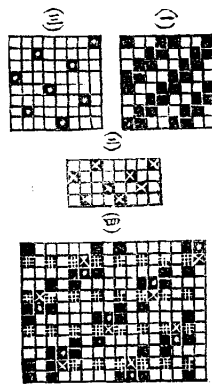
第三百二十一圖は表面の經緯糸共に二本に對し裏面は經緯糸共に一本宛組織すべき二重織にして表面は(一)圖の如く斜文織に裏面は(二)圖の如く平織に綴結點は(三)圖の如く斜文織となし之が完全なる意匠圖を作らば(四)圖の如くなりとす

又經糸は表裏共に回數なれども緯糸のみは表緯二本に對する裏緯一本の如き組

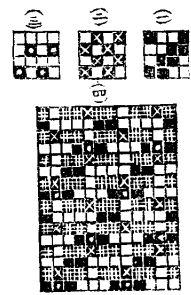
第三百二十一圖



第三百二十二圖



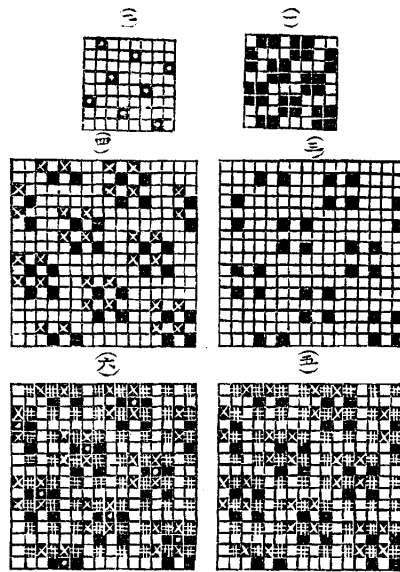
第三百二十三圖



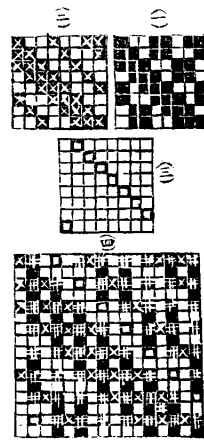
て完全なる意匠圖となすなり

以上述べ來れる所は表裏同一の組織に於ける例にして是より左に表裏種
の組織なる二重織の例を掲げて之を説かんと欲す

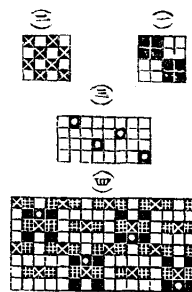
第三百八十八圖



第三百九十二圖



第三百九十九圖



第三百十九圖は表面斜子織(一)にして裏は平織(二)なり而して(三)圖の如く綴結する
時は是が完全なる意匠圖は(四)圖の如し學者注意して前例を検し之の圖を視ば自
ら了解せらるべし

第三百二十圖は表面飾り斜文織(一)にして裏面は正則斜文織(二)なり又之を綴結す
るに「第壹種」の法により(三)圖の如く斜文織に綴結すればその完全なる意匠圖を(四)

結せしむべき所即ち元の組織點を削りて空角とせる印なり以下之に倣ふ
 右「第一」及び「第二」の綴結法に於て其良否は組織と場合によるものにて一概に之を
 定むる事能はざれども表白にして裏黒の如き場合には裏の經緯の内綴結の爲め
 表に出ることあるも最も表の白色に影響を及ぼさざる方を撰むべし總て綴結せ
 しむべき組織はいづれにても隨意なりと雖ども布面平坦に綴結するを要す故に
 多くは縹子織の組織による然れども亦場合によりては斜文織の如く綴結する事
 もありされど綴結すべき糸は第三百十七圖中(一)の如く余り曲り方急なる時は織
 物を弱からしむるにつき出來得べくんば可成緩なるを要す即ち(二)圖の如くに

又「第三」及び「第四」の綴結法

は下なる「第一別種」「第三百

三十五圖」の所に云ふべし

第三百十八圖は表裏共に

第三百十七圖



(一)圖の如き花崗織にして(二)圖の如く第二種の綴結法により縹子織に綴結せるものなり

即ち(三)圖は表面の組織のみにして(四)圖は之に裏面の組織を加へ(五)圖は表面の經糸を裏面の緯糸の上に揚げたる所(六)圖は即ち綴結點を加へたる圖にして此を以

第二種 裏面の經糸と表面の緯糸と組織せしめて綴結す

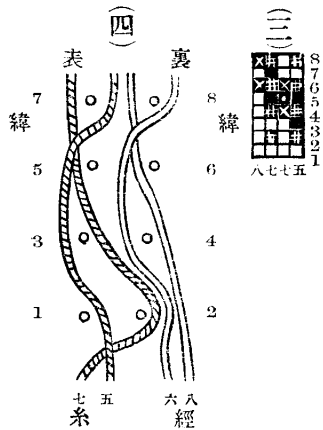
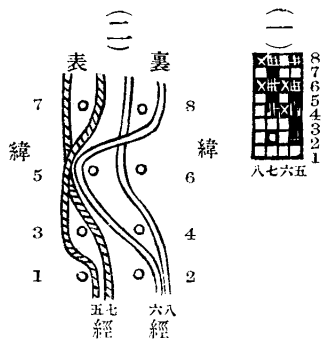
第三種 表裏両面の中間に補充經糸かみたてを入れ表裏の緯糸と組織せしめて綴結す

第四種 表裏両面の中間に補充緯糸を入れ表裏の經糸と組織せしめて綴結す

総ていづれの綴結法も既に云へる如く何處を綴結せしや外面よりは知り得ざるが如く爲すを肝要とす故に綴結糸の外面に現はるゝを忌むされば両面平織の如き完全に外面より知れざる如くなす事能はず斜文織に至りては多く表面に經糸の並び浮べる下に於てその緯糸と裏面の經糸とを組織せしめ以て綴結す然る時は表面の經糸浮べる下に裏面の經糸隠れて表面よりは知れざるなり

即ち第三百十六圖中(一)は第三百十四圖(四)の半面にして更に裏面の經糸を表面の緯糸と組織せしめて綴結せるも(三)圖は之に反して表面の經糸と裏面の緯糸とを

第三百十六圖



組織せしめて綴結せるものなり(二)圖及び(四)圖は各縦断面圖となす但し(二)は第二の綴結法によりて綴結すべき組織點にして(四)は第一の綴

即ち(一)圖は表面の組織點にして(二)圖は之に裏面の組織點を加へたるもの(三)圖は裏を織る時表の經糸を掲げたる完全の意匠圖なりとす

然れども是れ又表裏二枚に織り成されて表は表、裏は裏、と互に相關せず總て二枚に織製せらる

されど二重組織の目的たる二枚を別々に造るに非らずして二枚相合すべく製するにあり而して二枚相合せしむべくなすを綴結とじつすと云ふ蓋し綴結法は能く注意して施さざれば布面に惡結果を來たし或は波狀しは皺しわを生せしむるの憂あり必竟かゝる結果を生せしむるものは或一所は綴結して又或所は綴結せざる時に多くは生するものなり然れども綴結點余り相接近する時は容易に二重組織なる事を知り得て宜しからず故に綴結點は之を余り接近せしむる事を忌む即ち裏の糸が表面の糸を強く引き寄せ或は表の糸が裏面の糸を強く引く事を嫌ふ之を換言せば表と裏とは相關係せざるが如くなすを望むなり今之が一二の法を説述せんに概ね左の如し

表裏綴結法

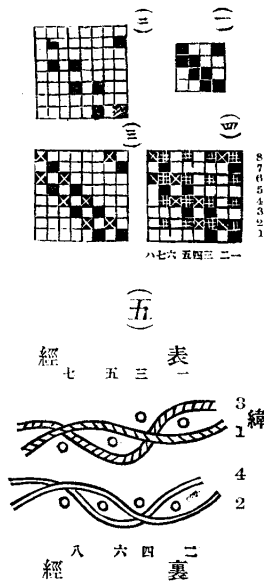
此綴結法は概ね左の四種とす

第一種 表面の經糸と裏面の緯糸と組織せしめて綴結す

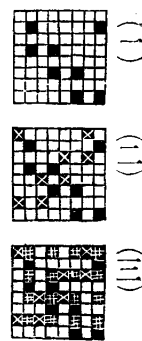
於ては表の經は悉く裏の緯の上に顯るゝが故に表の經を表せる組織點は必ず裏の緯の位置の空角の上に置かれざる可らず)

第三百十四圖は両面綾織の二重組織にして表裏共に(二)圖の如き四枚綜統の斜文

第三百十四圖



第三百十五圖



織になす時は先つ(二)圖の如く表面の組織點を附し次に之が上に(三)圖の如く裏面の組織點を加へ終りに裏面を織る時表面の經糸を裏面の緯糸の上へ上ぐべく附點せは(四)圖の如し是れ完全なる意匠圖にして之が横斷面圖は(五)圖の如く又前圖と均しく表裏二枚になるべく組織せらるゝものなり是れ表裏共に同一の組織なりと雖ども此織物を裏返して見る時は斜文の走りかた右となるべし即ち意匠圖上は表裏共に左に走るべく附點せるも裏返して見る時は反對に走るべき故若し表裏いつれより見るも同一方向に走らしめんと欲せば第三百十五圖の如く裏面の組織點は表面と反對の方向に走るべく附點するなり

第二經と第四緯と重りたる所經系下にありて

第四經と第四緯の重りたる所は經系上にあり

是れ(三)圖の如く表面の組織點を附したると同一の理に従ひ加點せば(四)圖の如くなるべし今此等表(三)圖裏(四)圖の組織を併一する時は(五)圖の如くなるなり然らば此圖の如くにて兩面平織は織製せらるべきかと云ふに決して然らず此(五)圖を檢するに第貳及び第四等裏面の緯糸を組織する時彼の圖の附點による時は表面の經系裏面の緯糸の下にあり故に之か横斷面圖を作らば(三)圖の如くにして(六)圖の如くならず語を換へて言へば(五)圖は純然たる斜文織(七)なりとす是を以て(六)圖の如くせんには裏面の緯糸を通入する時は盡く表面の經糸を裏面の緯糸の上に掲げざる可らず今之が組織點を施さば(二)圖の如し然る時は(一)圖と同一の附點となるなり只(二)圖は表裏并に裏面を織る時表面の經糸は盡く裏面の緯糸の上に在らしむべき組織點を特に見安からしめん爲めに異種にせるのみされば學者よく注意して各種の附點を檢し熟考せば自ら了解する所あるべし今添て附點を解説せば左の如し

即ち■は表面の組織點にして☒は裏面の組織點なり而して☒☒は裏面を織る時表面の經糸を上に掲ぐべき組織點となす以下皆之に倣ふ(因)に云ふ二重組織に

は(イ)圖の如き組織を云へる者にして表裏をこの組織と爲さんと欲せば先づ(ニ)圖の如く表面の經糸即奇數の經緯糸即ち奇數の經緯に平織の組織點を附すべし即ち

第一經と第一緯の重りたる所經糸上ならば

第三經と第一緯の重れる所は經糸下なるべし

又た

第一經と第一緯の重りたる所經糸上なる故に

第一經と第三緯の重れる所は緯糸上なるべし

是を以て

第一經と第三緯の重りたる所緯糸上ならば

第三經と第三緯の重りたる所は經糸上なるべし

右の理によりて組織點を附したらば(三)圖の如くなるなり次に裏面の經緯糸即ち偶數の經緯にも同じく平織の組織を附さば(四)圖の如し(尤も此の附點は裏面の組織を表面より見ゆる如くせしものにて之を裏返して見る時は實物は此附點と反對に見ゆるものと知るべし)即ち

第二經と第二緯と重りたる所經糸上にありて

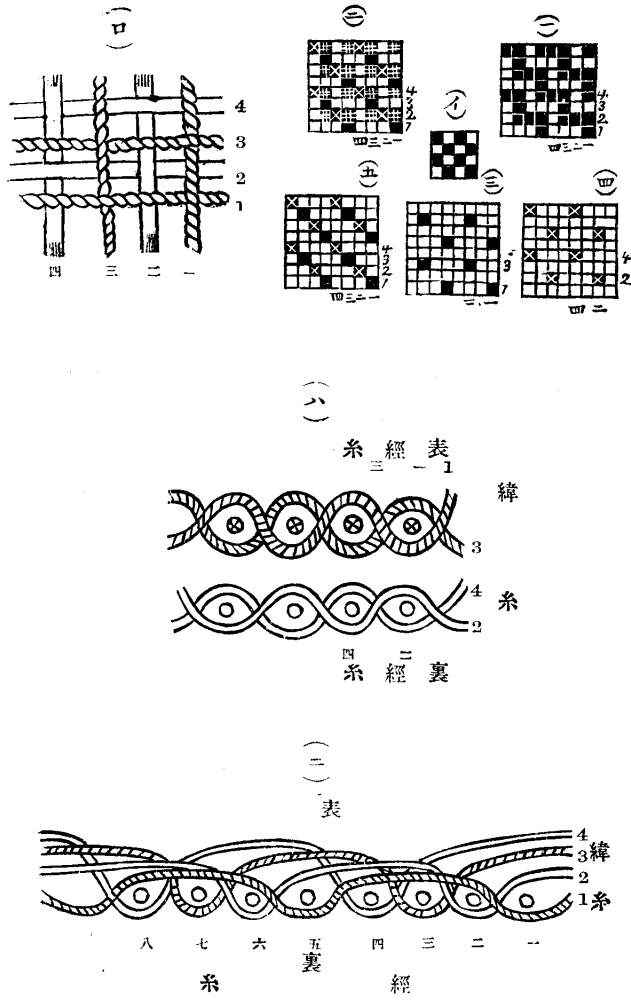
第四經と第二緯の重れる所は緯糸上になる

異りたるが如き觀あれども決して然らず且つ兩面平織の如き其組織點を見るに恰も斜文織の如くなるも敢て斜文織に非ずして二枚の平織物を得るなり第三百十三圖中(一)は表裏平織なる二重組織の意匠圖なりとす即ち奇數の經糸は表面の經糸にして偶數は裏面の經糸なり又緯糸も經糸と同じく奇數は表面偶數は裏面の緯糸なりとす而して之が組織せる表裏經緯の關係を圖せば(ロ)圖の如く恰も一、三の經糸と1、3の緯糸と平織を組織して二、四の經糸と2、4の緯糸と平織を組織せる上に重ね置かれたるが如し即ち之か横斷面圖は(ハ)の如くにして此の圖を檢するに表裏は關係せず表は表裏は裏と二種の織物を同時に得るか故に袋の如く中心は空虚となる故に又袋織とも唱ふるなり此組織の綜統は四枚にして元組織の平織は貳枚なるもかく表裏二重の經糸なれば必ず四枚を要す而して此組織を一種の緯糸にて織る時は眞田織と同じく袋織を得べければ唧筒の吹管の如き皆此組織による若し耳を一重にして組織せんと欲せば耳の綜統二枚を増して六枚の綜統にて織るなり

然れども元來二重組織の用ゐらるゝ所以は袋を造るよりは寧ろ織物を厚く織製するに在るものなりとす、

今兩面平織の組織圖を檢するに何か故に(一)圖の如く附點するやと云ふに蓋し平織

圖三十百三第



二重に組織す而して組織したる實物は表裏の糸上下に重りて表の下に裏の糸ありと雖も之を意匠圖に描寫する時はかく重ねて畫く事能はず故に經糸は整經の順次に従ひ緯糸は織製の順序により之を一重の如く並列せしめて組織點を附する故第一「經一重緯二重」第二「經二重緯一重」の組織と同じく實物と意匠圖とは甚だ

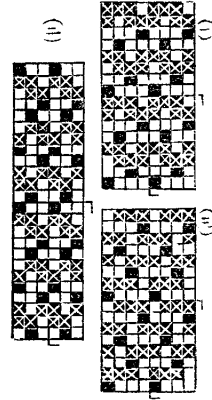
て經緯共に二重なる組織を説明せんと欲す

第三 經緯共に二重なる組織

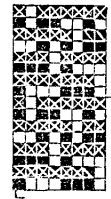
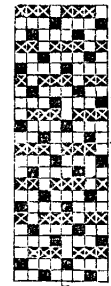
此種に屬する組織は眞正の二重織にして即ち一重組織を表裏二重に併合して組織せるものなり而してその綾組は表裏同一なる組織あり或は異種あるものありて表裏平織なるを兩面平織とも稱し風通織の如き皆この組織による又之を袋織とも稱す尤も多く表裏二重を一つに纏綴せざるものを云ふ表裏斜文織なるを兩面綾織とも唱へ絹綿毛いつれの織物にも適用せられ殊に羅紗織には要用なる組織となす彼の洋燈心の如き或は眞田織の類又はポンプの吹管(ボース)等多くこの組織による且つ諸種の圓筒に覆ふ羅紗の如きも此の組織に織製せらるゝものなり

抑も此二重組織は表裏の經緯糸その細大同一にして同一寸法内に表裏同數を使用するあり或は細太を異にして異數の糸を使用する事あり又細太は同一なるも表面は緻密に織製して裏面は粗に織りなすが爲め表裏異數の糸を使用する事等ありて種々なるも今表裏同數なる者より説かんに總て表裏の經糸は交互に整經し緯糸も交互に打込むを通例の組織法となす即ち表の經一本次に裏の經一本と順次整經し緯糸も表面を一本組織せば次に裏面を一本組織しかくして遂に表裏

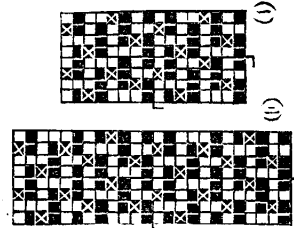
第三百十圖



第三百十一圖



第三百十二圖



第三百十一圖中(一)は同じく經一重にして緯の二重なる組織なるも表面の緯糸二本にして裏面は一本にて畝をなし伸縮す又(二)圖は永き畝をなして伸縮尤も甚しとなす

第三百十二圖は經二重にして緯の一重なる組織なるか豎に畝をなし横に伸縮すへき組織なり(一)圖は八枚綜統にして經糸四本(表裏)にて畝をなし伸縮す(二)圖は四枚綜統にして經糸六本(表裏)にて伸縮せしむべき組織なりとす
 總て此組織は既に述べ來れる如くその畝をなして伸縮せしむべき界は第二百八十二圖の(ろ)及び(は)の如き組織或は第三百一圖の(二)の如き組織を應用して一つは縮むべく一つは之を妨ぐべく組織せるものなり

以上説ける所にて略、經二重にして緯の一重なる組織は盡せるにより此より進み

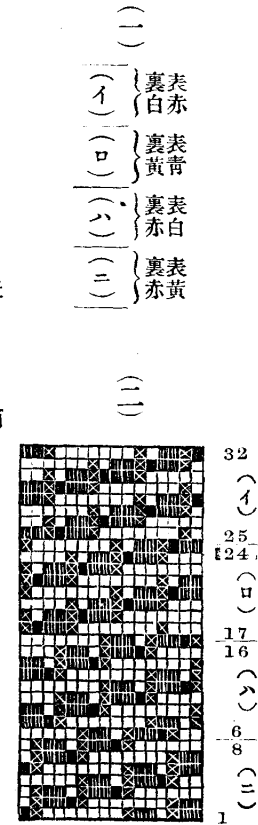
第四 莫大小織

此組織は佛名をトリコー織と稱せるものにて専ら毛糸の如く弾力強くして伸縮自在なる原糸を用ゐる織製するを適當となす

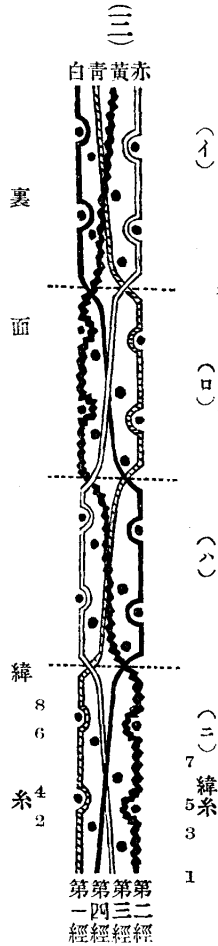
総て織物は縞縮織物(縮緬等の類)を除く外は之を斜に引張る時にのみ伸ふと雖も堅に引くも横に張るも多くは伸縮する事鮮し然るを此織物はその組織によりて堅に伸ぶるものあり横に伸ぶるものあり敢て莫大小の如く甚しからずと雖どもやゝ僅少ながらもその伸縮する事殆んど莫大小に類すればかくは命名せるなり

又此組織は經二重にして緯の一重なる組織のみに限らず經一重にして緯の二重なる組織にもあり故に第一經一重にして緯の二重なる組織の條下にも出すべき組織なれど二ヶ所に出すも煩しき故一に纏めて此處には出せる事となしぬ學者幸にその心して見よ

第三百十圖の組織は横畝を生じて堅に伸縮すべき織方なりこはみな經一重にして緯の二重なる組織なるが(一)圖は四枚の綜統を要し緯糸八本を要す即ち第一緯及び第二緯は表面に出で第三緯及び第四緯は裏面を組織せり是れ緯糸四本(表裏)にて畝をなし伸縮するあり(二)圖は三枚の綜統を要し(三)圖は四枚を要せり



第三百九圖



圖と縦断面圖
 とを比較檢視
 せばその經緯
 兩糸が相組織
 せる所必ず二
 種の經糸中間
 に織り込ま
 るべき事を知得
 すべし

此組織も亦斜文織のみに限らず縹子織或は縹子織と斜文織とも併一すべく其他種々の組織を併一して二重組織を製する事を得るものなり
 又右の外五種六種等何程の經糸をも組織する事を得且つ以上の如き横縹のみにては甚だ趣味なれども之を紋織に應用して數種の經糸を用る巧に配色組織せしむれば大に美麗なる織物を得べし
 總て以上の如き組織には經糸を多く密接せしめて可成的緯糸の外方より見ぬざる様に組織するを適當となす

糸出て赤色の經糸はその中間に組織す又(ハ)の所は表黒く裏赤く中間に白色の經糸あるなり故に此織物は經糸三段に重りて組織せらるゝものなるが表裏両面に異種の經糸を組織せしむる事敢て前項第三百六圖及び第三百七圖と異なる所なきも一種の經糸を中間に入れんと欲するには先づ表裏両面の經糸の内にある緯糸即ち(ハ)の所ならば第三緯と第四緯(ロ)の所ならば第五緯と第八緯(イ)の部分ならば第九緯と第十一緯等貳本つゝなる緯糸を表裏に別ち其中間に組織せしむべし然る時は(ハ)の所第四緯表になりて第三緯裏にあり故に第二經は第四緯の爲め表面に出づる事なく又第三緯の爲め裏面にも出づること能はずして中間には必ず組織せらるゝものなり即ち(ロ)及び(イ)の部分も皆此理によりて織り込まるゝものなり依りて(六)圖の縦斷面圖につき講究せば自ら了解せらるべし

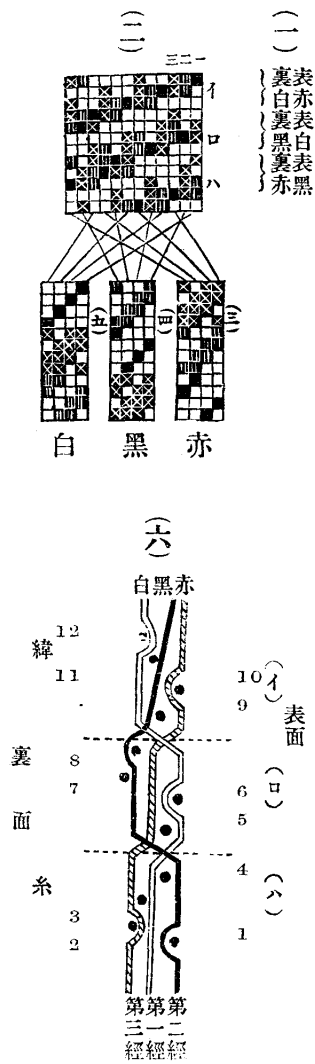
第三百九圖は四色の經糸を使用せる二重組織にして四枚綜統の斜文織を應用せり即ち(二)圖の如く四色の經糸を表裏及び中央の三段に組織せしむるものなり是れその組織方は前圖と大同小異にして三種以上の經糸は如何に多數なるも表裏二種を除く外は皆同一の杼道に於て中央に組織せしむるなり

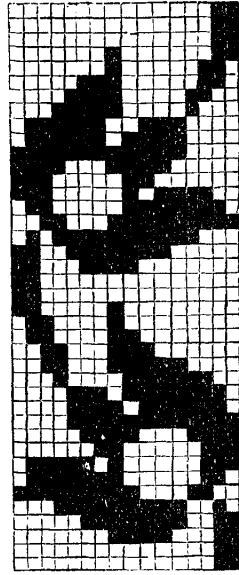
(二)圖は緯糸八本毎に異種の經糸表裏に現はれ二種の經糸は常に中間に組織せらるゝ所の二重組織の意匠圖にして之が縦斷面圖は即ち(三)圖の如し學者幸に意匠

も此種の組織は所謂緯一重にして經數重なる組織なれば第十三章なる重織の條下に編入すべきこそ適當なれされども前項の組織と甚だよく似通ひたる所ありて尤も密接の關係を有し初學者の爲め大に解し安き所あれば前の「第一經一重にして緯の二重なる組織に於ける第三別種の例に倣ひ特に茲に出せるなり抑も此組織も亦重に紋織物に多く適用せらるゝ所の兩面織にして緯糸四本以上の完全なる意匠圖に於ける組織はよく之を織製し得るものなり例之は第三百八圖の如し

此織物は即ち(二)圖に示せる如く三色の横縞を得へき組織にして四枚綜統の斜文織なり(イ)の所は表面に赤色の經糸現はれ裏面に白色の經糸出て黑色の經糸は其中間に入るべく組織するなり(ロ)の所は表面に白色の經糸現はれ裏面に黑色の經

第三百八圖

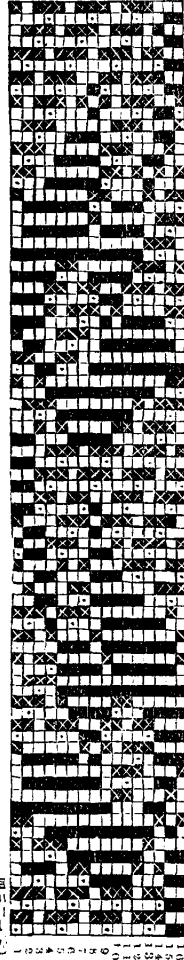




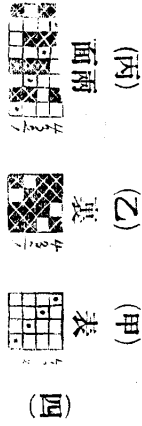
(1)



(2)



(3)



組織紋様等を意匠する事を得べし

第三 別種 重織の一種

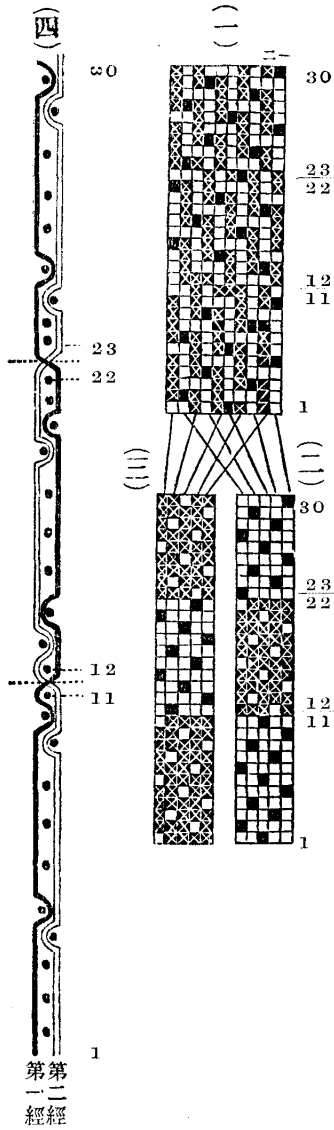
前項第二別種に於ける二重組織は専ら表裏両面に二色の經糸を使用して之を表
面に出し或は裏面に入れて以て縞若しくは紋様を織製すべき組織なりしも本項
に於ては専ら三種以上の經糸を使用して織製すべき二重組織を説かんと欲す尤

二十三緯より再び裏面に入る次に第二經は之に反して第十二緯より裏面に入りて第二十三緯より又表面に出づ故に第一緯より第十一緯までは表面白色ならば裏面黒色に組織せられ第十二緯より第二十二緯までの所は之に反して表面黒く裏面白に織製せられ第二十三緯よりは再び表白色に裏黒色となり茲に白色の地に黒色の横縞は織出さるゝなり

第三百四圖中(一)の如き紋様あり地は斜文織にして白くその表面に黒色の紋様(二)圖の如きものを織出すなり今假に(二)圖の紋様を意匠圖上に畫く時は(三)圖の如くなす即ち經糸四十本にして緯糸十六本より成れり然れども此種の組織は經糸二重なるにより(三)圖に於ては之を二倍して八十本となしその組織點を附する時は(三)圖の如し而して之が表裏の組織を見やすからしめん爲め(四)圖の如く組織點を二種に則ち用ゐたり即ち甲は裏面に於る經緯兩糸の組織を表面より見ゆる如く附點せる者乙は即ち表面の組織之を併一したる所は丙圖の如し之に依て地の所は總てこの組織により紋様の所は黒色の經糸(即ち裏面の經糸)を表面に出し白色の經糸(即ち表面の經糸)を裏面に出し單に兩面に現はれしむるのみにて此所は經緯共に組織せず重ならしめたるなり

以上述べ來れる所は單に一二の組織なれども此理を應用する時は任意に諸種の

第三百六圖



互に整經し織る時即ち第一經に黑色第貳經に白色第三經に黑色第四經に白色と順次かくの如く整經して織製したる織物は表面黑色にして裏面は白色なり然るに今黒色の表面に白色の縞或は紋様を織出さんと欲するに當り豎縞を得るには縞の所に至り經系の順序即ち地の經系奇數の所黒なりしものを縞に至りて偶數の經系に黒を換用して整經せば組織に關せずして豎縞は得べしと雖へども横縞或は格子縞の如きものを得んと欲せば必ず組織を變化せしめざる可らず第三百六圖中(一)は五枚綜統の三飛縞子織の二重組織(兩面織)にして即ち(二)圖及び(三)圖を併一せるものなり而して之が縦斷面圖は(四)圖の如くにして第一經は第一緯より第十一緯まで裏面に組織し夫より表面に現はれ第二十二緯まで組織し第

く四枚綜統の斜文織而して紋様の處のみ異種の經糸表面に出で他は皆裏面に隠る然れどもその隠れたる經糸も裏面に於ては或る緯糸と組織して第三百五圖とは異れり且つ紋様なき所の經糸即ち第一經より第四經までと第三十經より第三十七經までと第六十三經より第六十六經迄の間は一重組織なり

又右の紋様をして二つ共に色を異にせしめんと欲せば第五經より第二十九經まで奇數の經糸と第三十八經より第六十貳經まで偶數の經糸と各十三本つゝの經糸をして色を異にせしむる時は隨意の色合なる紋様を得べし

又異種の經糸は一色のみならず幾色をも使用すべく即ち第二百八十五圖中(二)圖の經糸を緯糸と見做して應用する時は此種の組織にも適用し得るものなり

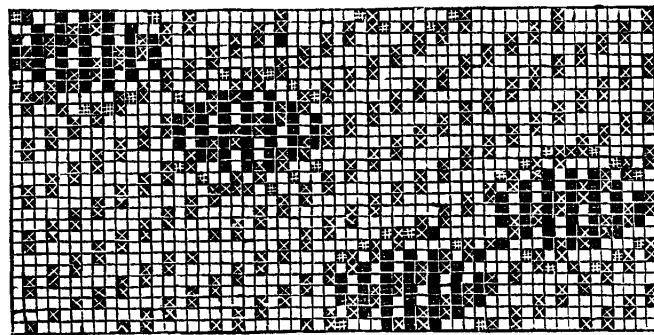
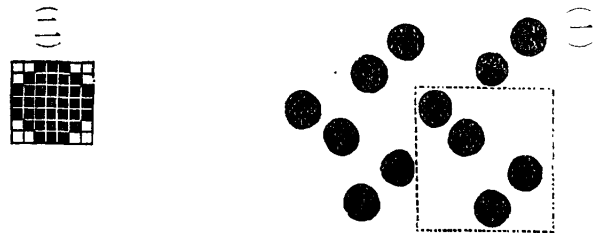
以上説き來れる如く此種類に屬する二重組織は前項の種類の或者とは異なりて専ら片面即ち表面のみを使用する織物の類なりと知るべし

第貳 別種

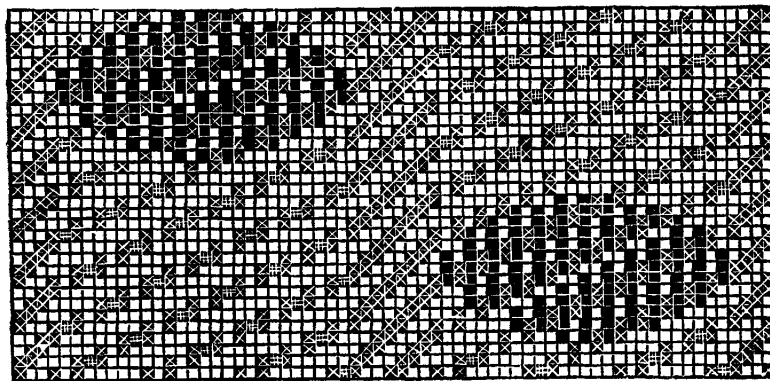
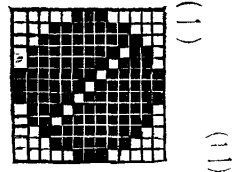
此の種に屬する組織は第貳百九十七圖乃至第貳百九十九圖に示せる兩面織若しくは片面の二重組織により種々なる組織を併一して縞又は紋様を織り出すべきものを云ふなり

抑も第貳百九十七圖及び第貳百九十八圖に於ける兩面織にして經糸に二色を交

第三百四圖



第三百五圖

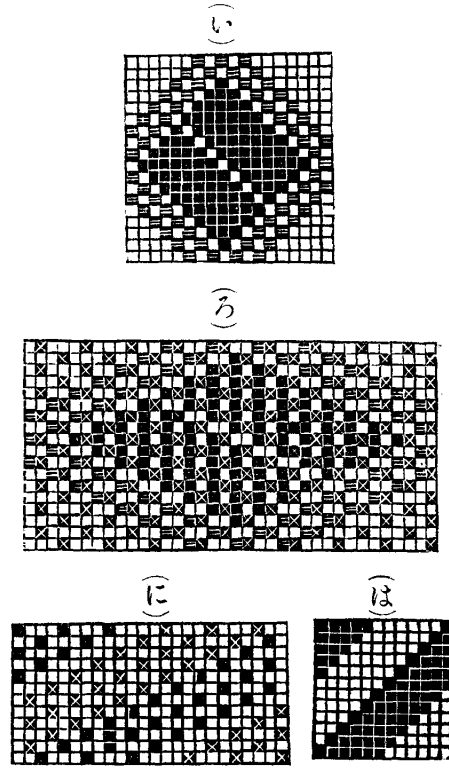


六十六 六十三 三十七 三十九 五四一

裏面に出づるなり

次に第三百五圖は一つの紋様(一)の如きものを織出すべき意匠圖にして他は同じ

第 三 百 三 圖

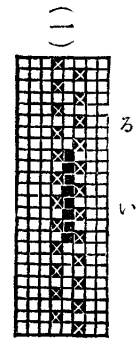


三百五十

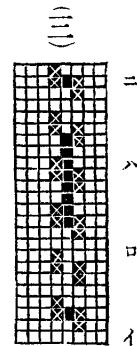
重の織物なり又(五)圖は平織にして(い)の所は第一經と第三經にて平織をなし(ろ)の所は第二經と第四經にて平織をなせり而して平織を組織せざる經糸は皆裏に出つ故に奇數の經糸と偶數の經糸を色を異にせしむれば横縞を得る

なり今右(二)圖の如き組織により平織の表面に第三百三圖中(い)圖の如き紋を織出さんと欲せば(ろ)圖の如く意匠圖を作るべし又(五)圖の如き組織により(は)圖の如き斜線を織らんと欲せば(に)圖の如く意匠圖を製すべし此の如き組織を地方によりて片面風通織或は表風通織とも俗稱せり又織物の表面に第三百四圖中(一)の如き丸き星を異種の經糸にて織出さんと欲するにその星の組織は(三)圖の如き大きにして之を意匠圖に作らば(三)圖の如し

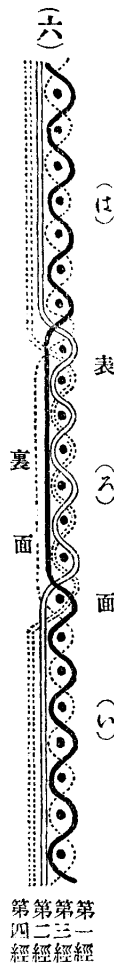
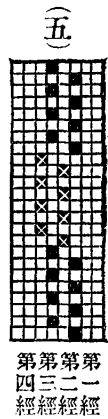
即ち地は四枚綜統の斜文織にして紋様の所のみ異種の經糸表面に現はれ餘は皆



第一經
第二經
第三經



第一經
第二經
第三經



(四)圖の如くにして異種の經糸は(イ)の處にて裏面に組織し(ロ)より表面に出て(ハ)の處まで至り夫より再び裏面に入り(ニ)の處に於て又裏面に組織せるなり此種の織物の一幅には地經のみあるところと地經の外に此等異種の經糸を交へて紋樣をなす處とあり而して此等異種の經糸のある處は二重組織となれ共無き所は一

に於て右の如く現はるゝなり是を以て此等二重組織の附點は概ね(一)圖の如くならずを要す是れ第貳百九十八圖以下裏面の組織を併一するに總て表面の如くなさずして併一せる所以のものは表裏の組織をして第三百一圖中(二)圖の如くあらしめざるが爲めのみなり

第一 別 種

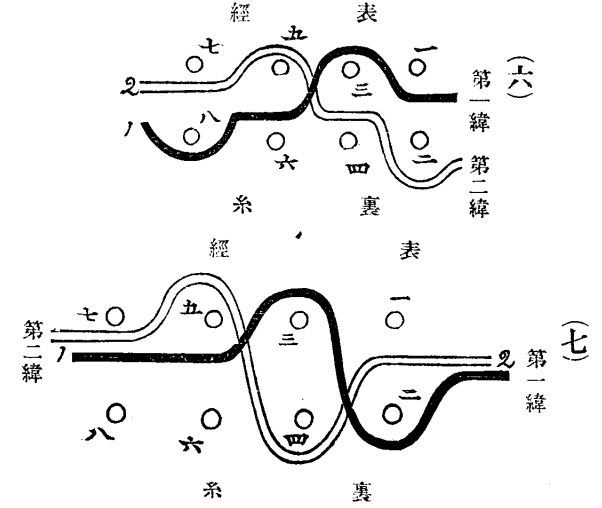
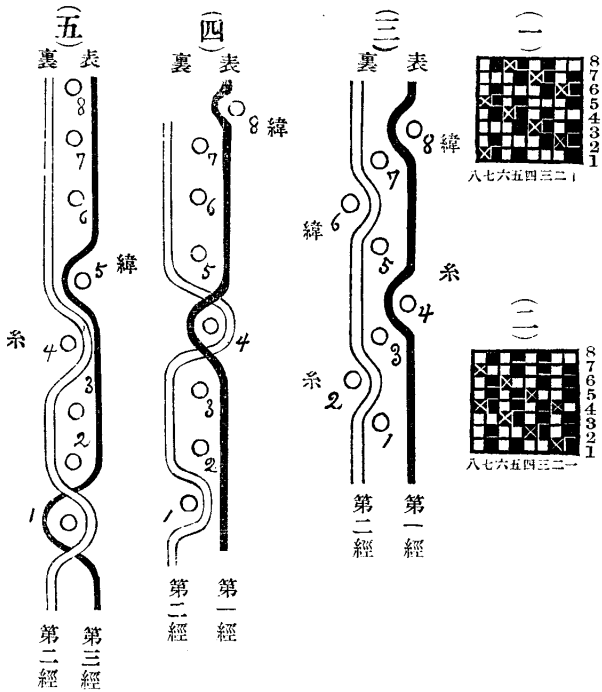
此の種に屬する二重組織は尤も多く紋織に適用せられて紋織博多帶地(鑷鉗模様即ち獻上博多とも云ふ)には重に此組織を應用せり即ち織物の或る部分に異色の經糸を以て縞或は紋様を出し其他は織物の裏面にその經糸を單に出しおくものあり又は裏面二重に組織せるものあり今その異種の經と地の經糸との關係并に緯糸と組織せる様を圖すれば左の如し

第三百貳圖は織物の或る一部分を示せるものにて完全なる意匠圖にはあらざるも第一及び第三經を他の經糸となし第貳經を異種の經糸即ち紋様等を織出す經糸となす(一)圖は平織にして異種の經糸は八本の緯糸の上に現はれたり之が縦斷面は(二)圖の如くにして(い)の處より異種の經糸は表面に現はれ(る)の處に至り夫より再び裏面に入れり(三)圖は斜文織の一部分にして異種の經糸は全しく八本の緯糸の表面に現はれ裏面に入りては所々組織せらるゝなり即ち之れか縦斷面圖は

即ち(一)圖の縦断面圖は(三)圖にして横断面圖は(六)圖なり又(二)圖の組織の縦断面圖は(四)及び(五)圖にして之が横断面圖は(七)圖の如し總て此種の二重組織は其表裏の經糸(一)圖の如く組織すべし(二)圖の如きは非なり如何んとならば(一)圖の如きは表裏の經糸共に上下にありて重れるも(二)圖の如きは第四緯の處表面の經糸は裏に出で裏面の經糸は表に現はれたるを以て此所上下に重る事能はず又(六)圖の横断面圖を檢するに總て表面若しくは裏面に出でたる緯糸は必ず一度表裏兩經糸の中間に入りて夫より表或は裏に出でたるも(七)圖の横断面圖は敢て然らず第一緯は第二經の所裏に出で、第三經の所は直に表面に現はれたり又第二緯も第四經の所は裏面にありて第五經の所は直に表に出でたり故に此等の所常に經糸の密着することを得ずして甚だ悪しき織地を生ずるものなり

之に依りて第三百一圖中其意匠圖と切断面圖とを比較檢視するに(一)の意匠圖上その裏面の經糸に組織點ある處之か左右の表面の經糸にも組織點あり語を換て之を云へば裏面の經糸が緯糸の上に現はるゝ所は必ず之か左右の表面の經糸も亦緯糸の上に現はるなり第貳百九十七圖乃至第三百圖を見よ皆此事實に據れるを知るべし然るを(二)圖に於ては之に反して裏面の經糸に組織點ある處之が左右の表面の經糸いづれか一つに組織點なきなり故に第三百一圖中(四)及び(五)并に(六)圖

圖 一 百 三 第

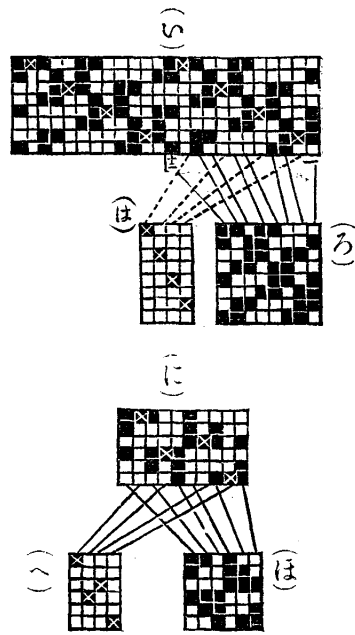


三百四十六

裏両面の經糸が緯糸と組織すべき處必ず第三百一圖中(一)の如くならざる可らず
 然らざれば完全なる二重組織は織製する事を得ず如何とならば若し表裏の經糸
 その緯糸と組織せる所(二圖)の如くなる時は經糸密接せずして地質甚だ惡觀を呈
 すべし

今第三百一圖につき少しく之を説明せば左の如し

第 三 百 圖



面より之を見る時は之か反對に現はるべし

(b)圖はその表面六枚綜統の花崗織にして裏面の經緯兩糸の關係は四枚綜統の破れ斜文織の緯糸に二本加へたるものにて(c)圖の如し但し(c)圖は裏面に於ける經緯兩糸の關

係を表面より見ゆる如く圖せるものなり

今右の貳圖につきて之を云へば(i)圖中第一經と第三經第四經等は表面に現はるゝ經糸にして第貳經第五經等は裏面に現はるゝ經糸なり茲を以て表面よりは裏面の組織その完全なる意匠圖の經糸は貳分の一なるを要す又(ii)圖の如きは三分の貳なるべし然らざれば二重組織となす時意外に經糸の數を要すべき事既に前に云へる理に同じ

以上掲げたる諸圖の如く此等貳重組織に於て表裏に合併すべき組織はいづれの者も採りて以て併一し得べしと云へども深く之を講究する時は決して然らずそは第貳百八十二圖乃至第貳百八十三圖の條下に詳記せる理に依るものにして表

織の完全なる意匠圖を二個並べて又之を二個重ね以て裏面の組織の經緯數に適合せしめざる可らず然れども若し表面の組織に五本つゝの經緯糸なる意匠圖を用ゐる裏面は八本つゝの組織ならば先づ表面の組織を八倍して經緯共に四十本となし次に裏面の組織を五倍して是れ又經緯共に四十本となして併一せざる可らず是れ實に注意すべき所にして宜しくこの理を記憶しおき二重組織の表裏に併一すべき組織を撰定する時は之に依りて適當なる意匠圖を求むべし

以上述べ來れる所の二重組織は専ら表裏の經緯共に同一の細太にして表裏共に同寸法内に同數の經緯數を有する組織のものゝ例なるか織物の種類や千差万別敢て極りなく時に或は表裏の經糸その細太を異にして表面には二本の經糸を要するも裏面は一本にて足るものあり或は之に反するものあり又は三本と一本の比例に組織せるものなきにあらず今此等一二の例を掲ぐれば左の如し

第三百圖中(い)圖の組織は表面に細き經糸二本を出し裏面には太き經糸壹本を組織せる所の意匠圖なり

即ち(い)圖は表面八枚綜統の花崗織にして裏面に於ける經緯兩糸の關係は四枚綜統の斜文織(あ)の緯糸を二倍して(は)圖の如く一本おきに入れたるものなり但しこの裏面の經緯兩糸に於ける關係は表面より見ゆる如く圖せるものとす故に裏

出つる事を得ずしてかくは二重に組織せらるゝなり

(ヘ)圖の表面は(イ)圖と同じく(ロ)圖の組織にして裏面は八枚綜統五つ飛の經縞子織に見ゆ然れども之れまた併一して二重組織となすには反對に附點し(ト)圖の如くかして併合するなり

(リ)圖の組織は表面(ヌ)圖の如く四枚綜統の斜文織(ハ)圖にして裏面には(イ)圖と同じき八枚綜統の斜文織を併一せしものなり

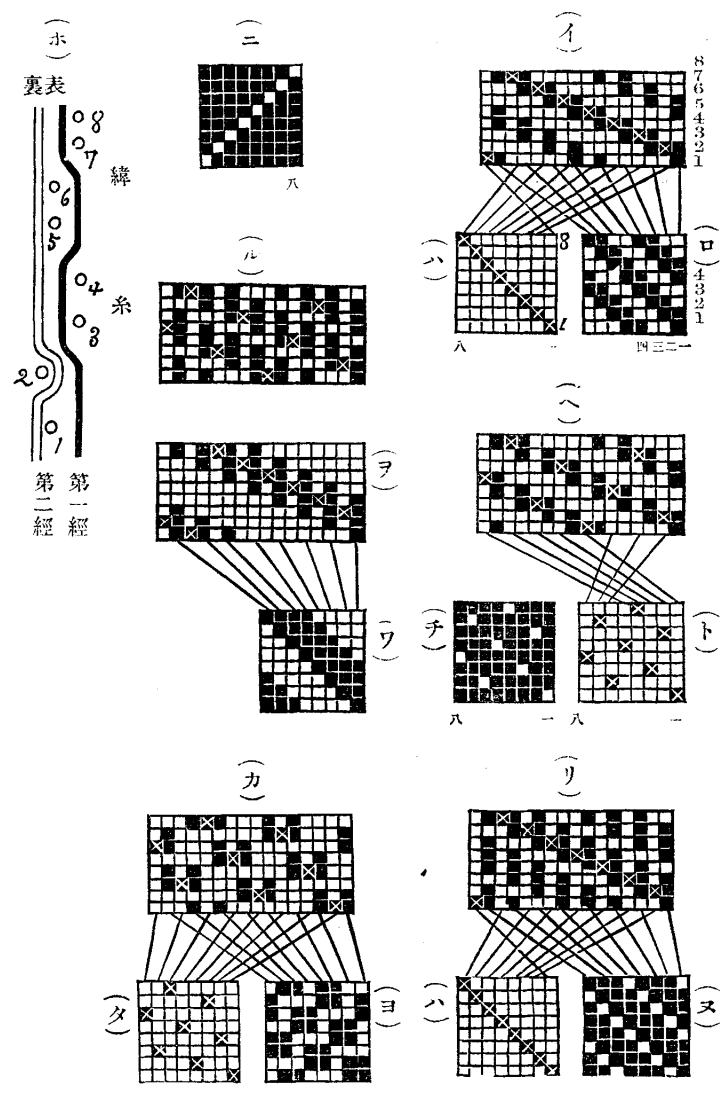
(ル)圖は表面(リ)圖と同じく四枚綜統の斜文織(ヌ)圖の如きをおき裏面は(ヘ)圖と同じく八枚綜統五つ飛の縞子織を併一せるものなり

(ヲ)圖の組織は表面(ワ)圖の如く八枚綜統の斜文織(ハ)圖にして裏面には(イ)圖と同じき八枚綜統の斜文織を併一せるものなり

(カ)圖はその表面(ヨ)圖の如く八枚綜統の變化縞子織にして裏面には同じ綜統の三ツ飛縞子織を併一せるものなり

又右(イ)圖及び(ヘ)圖并に(リ)圖(ル)圖の如く表裏の組織其完全なる意匠圖の經糸數異なるものはいづれか二倍若しくは三倍あるものを併一すへし然らざれば意外に經糸の數を増加せざるべからざる事あり即ち(イ)圖は表面の組織經緯共に四本宛にして裏面は經緯共に八本宛なるを以て表面の組織を二倍し即ち四枚綜統斜文

第 貳 百 九 十 九 圖



の如く、(三)圖を反對に附點して併一し二重組織にかせるなり然らざれば裏面は(三)圖の如く見る事を得ず今(ホ)圖の縦斷面圖を検するに第一第五第六の三本の緯糸表裏両經糸の間にあるのみにて第貳經は表面に出づる事なし又第一經も裏面に

時は表裏いづれも(ほ)圖の如く見ゆるものなる事は既に云へるが如し(と)圖は八枚綜統の斜文織たる二重組織にして(ち)圖表及び(り)圖裏の二個圖を併一して作れり(ぬ)圖は八枚綜統三飛の縹子織たる二重組織にして(る)圖表及び(を)圖裏の二個を併一せるものなり

以上の諸圖は皆表裏共に同一なる組織にして且つ多くの緯糸は表裏二經糸の内部に包まれて外方には僅の緯糸のみ見ゆるもの故に經糸をやゝ緻密になし或は太き糸を使用して織製する時は緯糸は見ゆる事なく經糸のみ外面に現はれ出づるにより經糸に絹糸を用ゐる緯糸に綿糸を使用するも時に或は純絹織物の如く見擬ふ事あるなり

次に第貳百九十九圖以下は表裏共に異種なる組織を用ひたる二重組織の例にして此等の組織は多く毛織物等に應用せらる即ち緯糸及び表面に出づる經糸にのみ良質の原糸を使用し裏面に出づるものには粗悪なる糸を使用す然る時は大に利益ある所にて即ち表面美麗にして地質厚く甚だ良品の如く見ゆれども裏面に粗悪なる糸を使用して厚層を附したれば格合大に低廉なる製品を得ればなり第貳百九十九圖中(イ)圖はその裏面(ロ)圖の如く四枚綜統の斜文織(ハ)にして裏面は(ニ)圖の如く八枚綜統の斜文織(ホ)に見ゆべし然れども之を織製する時は(ハ)圖

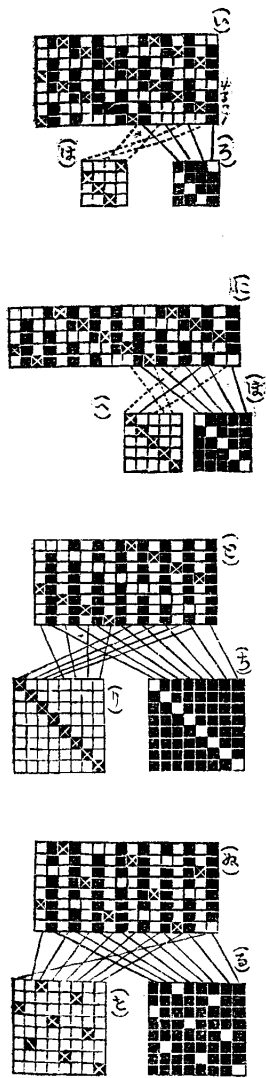
に組織點を附すと雖ども他の組織を併せんと欲せば其如く組織點を附するなり而して余はその併せざる表裏の組織點を見安からしめん爲めに茲には二種の組織點 \blacksquare \boxtimes を附せり

右の如く例合ひ三枚綜統の斜文織なりと雖ども表裏二ヶの意匠圖を併せざるに之か二重組織の完全なる意匠圖は經糸六本となりて綜統六枚を要するものなり

第貳百九十八圖中(い)は四枚綜統の斜文織の二重組織にして表裏共に同種の組織を用ゆ即ち(い)圖は(ろ)圖表及び(は)圖裏の二個を併せしものにて(は)圖は(ろ)圖の反對に組織點を附せしものなり而して綜統は八枚を要す

(に)圖は五枚綜統の斜文織の二重組織にして(ほ)圖表及び(へ)圖裏の二個を併合せしものにて之を組織せは即ち(に)圖の如く現はるべき理なれども實際一方より見る

第貳百九十八圖



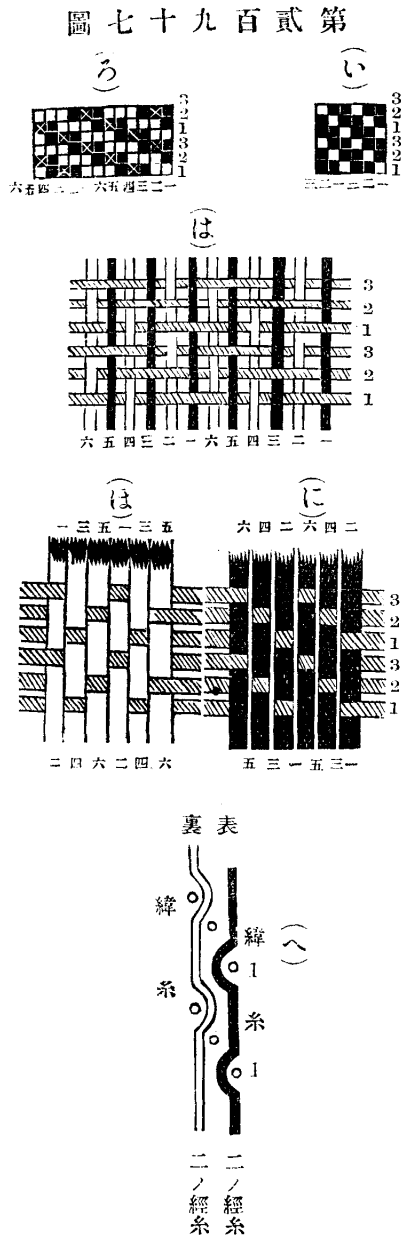
面は(に)圖の如く裏面は(ほ)圖の如く見ゆるものなり今之が縦断面圖を作らば(へ)圖の如くにして表裏の經糸は相重れるものなり讀者幸に前項第貳百七十五圖乃至第貳百七十九圖の條下を再讀せよ彼の方は緯二重にして此方は經二重なる相違こそあれ其理は同一にして彼れの緯糸に於ける規則は此方にては經糸に適用する事を得べし

尙は第貳百九十七圖に就きて之を詳説せんは是れが完全なる意匠圖上第一經は緯糸一本經糸の上に現はれたるも第貳經は緯糸貳本經糸の上にある故に表裏甚だ相違せる如く見ゆるも是は表面より觀察せる組織點にして能く注意せば第貳經は緯糸貳本上にありて一本下にありされば此織物を裏面より見る時は即ち第一經の上に一本の緯糸出でおりて恰も表面と同一の組織に見得らるゝ故に表裏兩面同一の組織とは云へる所以なり蓋し既に云へる如く此二重組織は普通の一重組織に反して組織點と織地との關係やゝ異なるが如き處あれば常に注意して視るべし

抑も第貳百九十七圖なる(ろ)圖を製するには先づ(い)圖の如く表面の組織點のみを附せる圖を製し次に之が反對に附點せる意匠圖を製し之を併一して(ろ)圖は作られたるものなり尤も此(ろ)圖は表裏兩面同一の組織なるを以て裏面は表面の反對

例之ば黒白の二色を經に使用する時は黒一本次に白壹本又た次に黒一本白一本と整經すかくの如くなすを所により惣切替と唱へ或はヤスラと呼ぶ處ありそは兎に角右の如く整經して緯糸に一色を用ゐる表裏両面同じ綾組若しくは異なるる組織に織成し表裏その色を異ならしめて組織するなり而してその種類も種々あり平織を除く外はいづれの組織をも適用する事を得べし

第貳百九十七圖中(い)は三枚綜統の斜文織(に)にして之を經二重の緯一重なる兩面織になす時は(ろ)圖の如き意匠圖となす而して之を織製せば(は)圖の如き織地を得べき筈なるも實際經糸多くして密接せる時は決して此の如く見ゆる事なく表



して全じく畝右方に走れるなり

(四)圖は四枚綜統の斜文織その畝の處に現はれ畝と共に右方に去れり以上二個の圖は第貳百九十四圖と同じ組織方なるも彼は堅に畝をなし此は斜めに畝をなせるなり

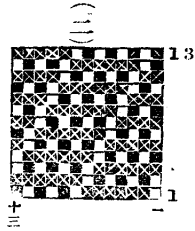
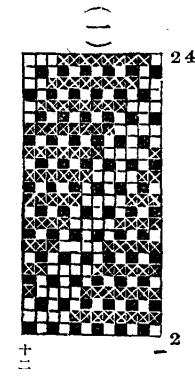
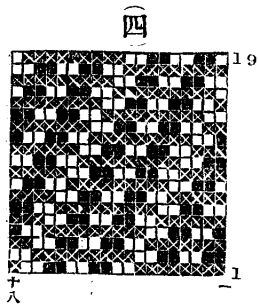
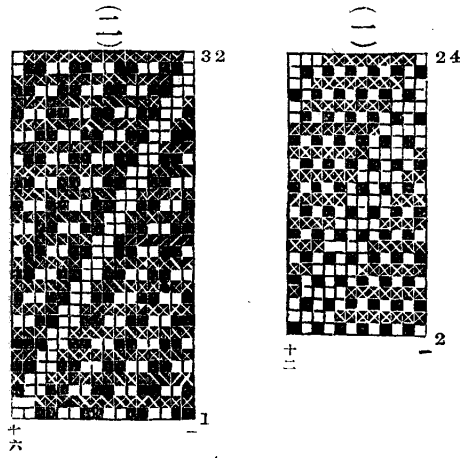
右の外經緯糸共に二重の組織にして本畝織に屬すべきものあれどそは下に述べし且つ既に説き來れる處の本畝織は普通に畝織と稱せる斜文織若くは其他の組織にして一部の經糸若しくは緯糸が高く畝をなせるものは大に組織方を異にし彼等は僅に經糸若しくは緯糸が組織の様により高まるも此の組織は決して然らず經緯兩糸が相組織せるまゝにて高く畝をなせばかくは本畝織と命名せるなり

又以上説ける所にて略經糸壹重の二重組織は盡せるにより此よりは經糸二重にして緯糸の一重なる組織を説明せんと欲す

第二 經二重にして緯の一重なる組織

此種に屬する組織は多く兩面織(下經付)とも稱し前項第一經一重にして緯の二重なる組織とは反對にて専ら經糸を多くし緯糸を表面に多く出でざらしむる様に組織するなり此の組織には多く經糸に二種の色糸を使用し交互に整經して用ゆ

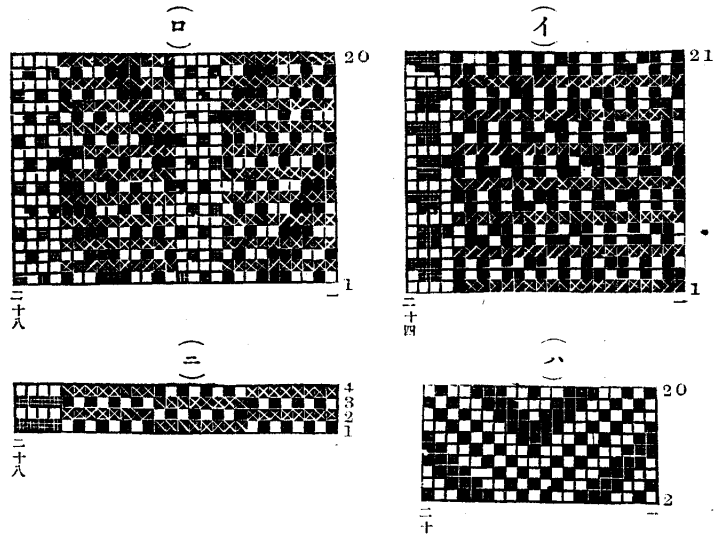
第百九十六圖



(一)圖は表面畝の處平織なれども經糸八本の畝は斜めに右に走れるなり
 (二)圖は表面畝の處四枚綜
 統の斜文織(可)にして方
 向右に走り畝も又右方に
 去れるなり以上二個の組
 織は第百九十三圖と同
 じ組織方なれど彼は豎に
 畝を生じ此は斜めに畝を
 生せるのみなり
 (三)圖は表面畝の處平織に
 なり即ち三條の畝は密接して次にやう廣き窪みを生せるなり而して表面は均し
 く平織に組織せらるゝものとす
 以上説ける所の本畝織は専らその畝堅に生じ來れる所の組織のみなるが又斜め
 に畝を生せしむる組織あり即ち第百九十六圖の如し

(二)圖は表面畝の處四枚綜
 統の斜文織(可)にして方
 向右に走り畝も又右方に
 去れるなり以上二個の組
 織は第百九十三圖と同
 じ組織方なれど彼は豎に
 畝を生じ此は斜めに畝を
 生せるのみなり
 (三)圖は表面畝の處平織に

第 二 百 九 十 五 圖

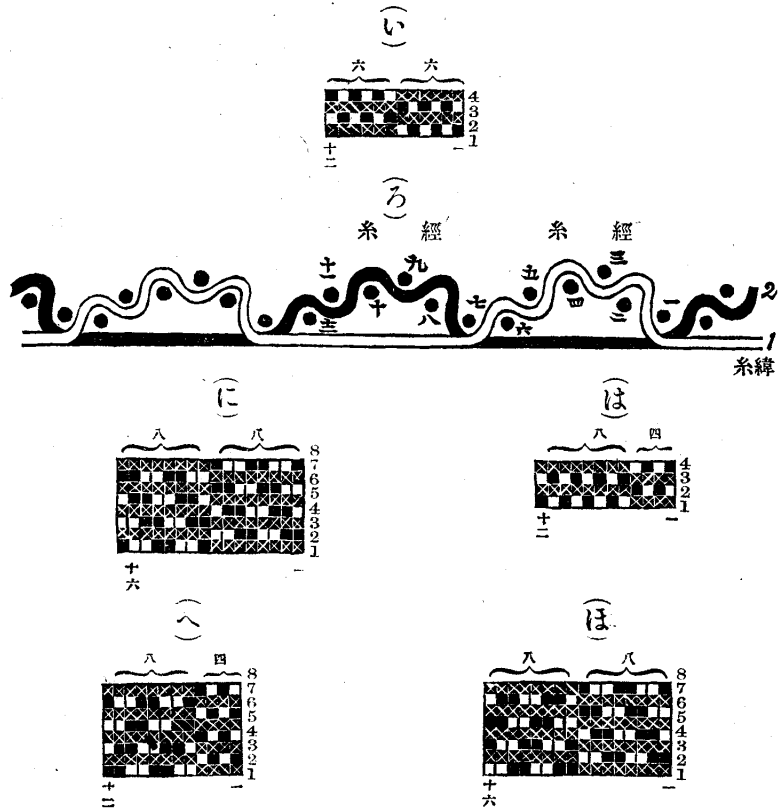


は左に走り一は右に走れり
 (イ)圖は大小二種の畝を生ずる組織にして
 小なる畝は平織に現はれ大なる畝は四枚
 綜統の斜文織(ニ)に組織せられて右に走
 れり
 第二百九十五圖中(イ)圖は表面の緯糸二本
 毎に裏面の緯糸一本を組織せるものにて
 太き畝一を得べし而して表面は七枚綜統
 の斜文織(ニ)より變化せる急斜文織なり
 此組織には多く表面に細糸を用ひ裏面
 は太き糸を使用す又畝と畝との間即ち卑
 く窪む所は緯糸三段に重りて第一緯最も
 上に出て第二緯其次に重り第三緯最も下

に入るなり

(ロ)圖は一本毎に表裏の緯糸を組織せるものなるが十枚綜統の山形斜文(ハ)圖を二
 分し二つの畝を作り以て斜文の方向を左右に向はしめたるが如くなせるものな

第 貳 百 九 十 四 圖



も斜文左に走りて經糸八本つゝの畝をなし(は)圖は一畝毎に斜文の方向異りて一

し第二緯か表面に組織せる所は第一緯裏面に
出で之を牽縮し以て
互に畝をなすなり此組
織にて織製せるものを
通俗に豎コール織と唱
へり
(は)圖は同じく平織の表
面にして(い)圖は同じ幅
の畝を得れども此圖の
組織は大小二種の畝を
生せるものなり
(に)圖及び(は)圖は共に四
枚綜統の斜文織(は)な
れども(に)圖は何れの畝

むべしと雖も裏の糸は柔かなる毛糸を使用し之を縮絨せば尤も高さ畝を得るものなり但しこの組織は種々ありて今是が二三の例を掲ぐれば左の如し

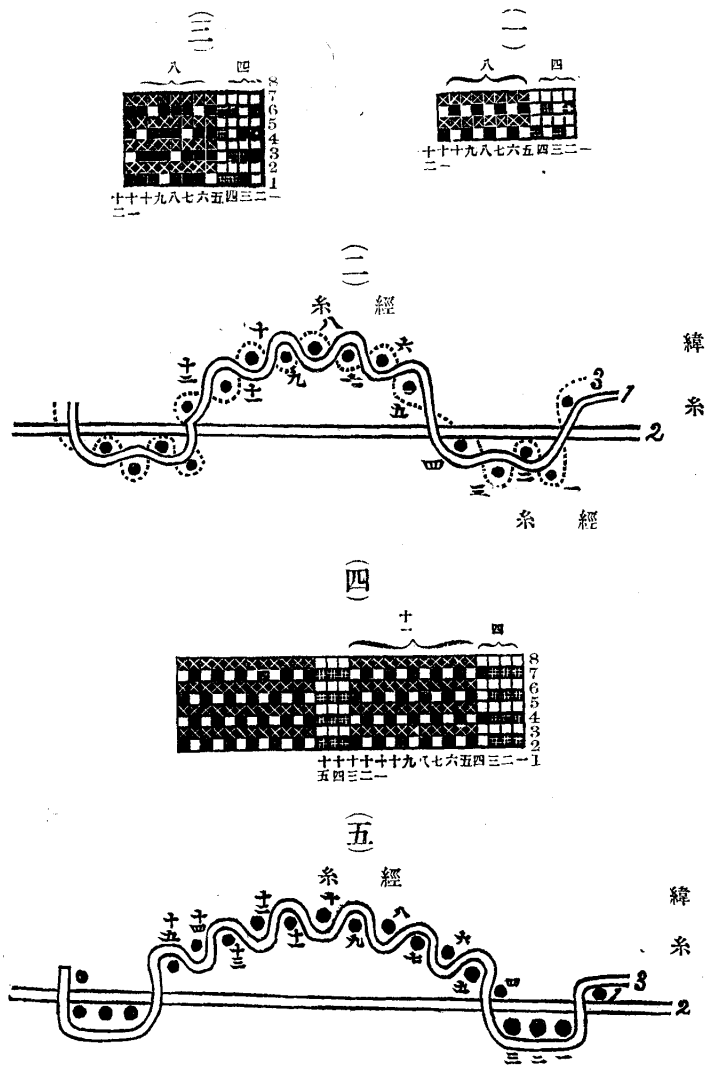
第二百九十三圖中(一)は表面平織にして奇數の緯糸は地を織り偶數の緯糸にて畝を生せしむるなり即ち(二)に示せる如く(一)の組織を横斷して見る時は第一緯と第三緯にて平織をなし第二緯と第四緯は經糸を二分して畝をなさしむるものなり是れ第一經より第四經までは第二緯の下にありて織物の裏面に隠れ第五經より第十二經までの八經糸表面に出で、高く畝をなす

又三圖は表面四枚綜統の斜文織(三)にして四本の經糸深く沈みて裏に出で八本の經糸は表面に現はれて高く畝をなすべし

(四)圖は平織にして之が横斷面圖は(五)圖の如し即ち三本の經糸は地緯の上製畝緯糸の下にはさまり第四經より第十五經まで十二本の經糸は平織をなして畝を生せしむる緯糸の上によりて裏面の緯糸(即ち畝を生せしむる緯糸)が牽縮するに従ひ地緯糸爲めに灣曲して高く畝を生ずるものなり

第貳百九十四圖の組織は別に製畝の緯糸を使用せずして二種の緯糸は互に地の緯糸とも製畝の緯糸ともなるものなり即ち(六)圖の表面は平織にして之が横斷面は(七)圖の如し此圖を検するに第一緯か畝立つ所は第二緯裏面にありて之を牽縮

第 貳 百 九 十 三 圖



するものなり尤も此組織は毛織物のみならず他の織物にも適用する事を得べし
 即ち表の緯糸よりは裏の緯糸に燃り強き糸を用ひて織り揚げたる後水に浸す時
 は一層畝をして高からしむべし又毛織物ならば自然毛糸の弾力にて畝を生せし

是れ其組織方は前圖と大同小異にして三種以上の緯糸は如何に多數なるも表裏二種を除く外は皆同一の杼道に於て中央に組織せしむるなり

(二)圖は經糸八本毎に異種の緯糸表裏に現はれ二種の緯糸は常に中間に組織せらるゝ所の二重組織の意匠圖にして之が横斷面圖は即ち(三)圖となす學者幸に意匠圖と横斷面圖とを比較檢視せはその經緯兩糸が相組織せる所必ず二種の緯糸中間に織り込まるべき事を知るべし

右の外五種六種等何程の緯糸をも組織する事を得且つ以上の如き堅縞のみにては甚だ趣味鮮なしと雖も之を紋織に應用して數種の緯糸を用ゐる巧みに配色組織せしむれば大に美麗なる紋様を得べし

總て以上の如き組織には經糸を細くして緯糸にやゝ太き糸を用ひ可成的經糸の外方より見へざる様に組織するを適當とす數に多くは經糸に細綿糸を使用して緯糸には毛糸を用ひ或は經緯兩糸とも絹糸を使用する時は緯糸に多く撚弱きやゝ太き糸を組織し爲めに經糸の幾分を隠れしむる如くなさしむるなり但し此等の組織は多く卓子掛ダイブカ或は敷物等に往々適用せらるゝものとす

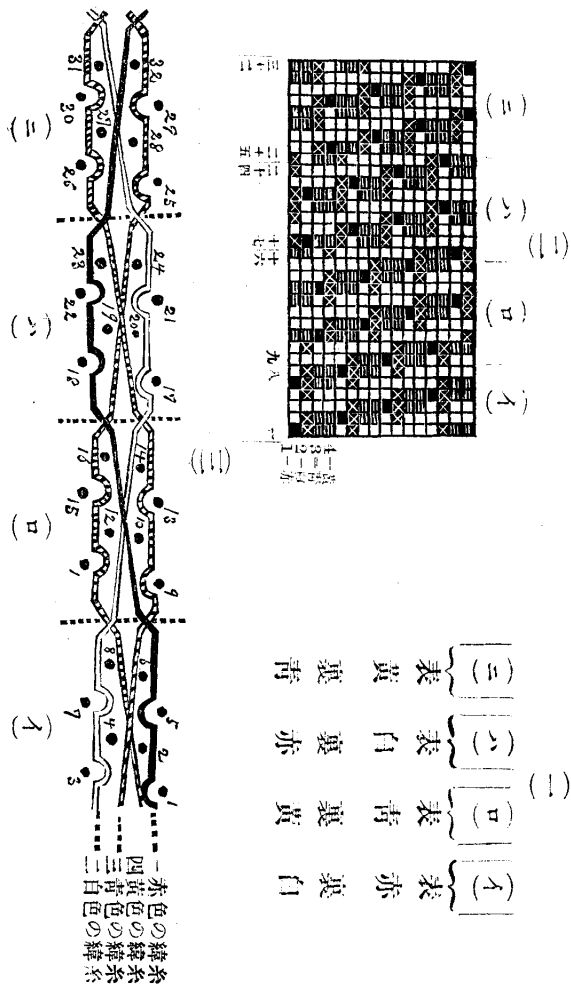
第四 本畝織

此組織は専ら毛織物に適用せらるゝ所のものにて豎に畝を生し或は斜に畝を生

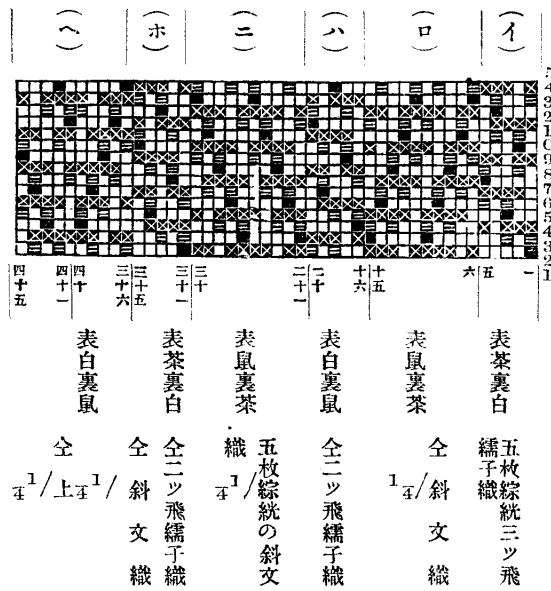
すべし

總て混合すべき組織は同一の經緯數を有するもの尤も適すれども或る場合により然らざるときは第貳百七十九圖の下に説ける理を應用して可成的適當の組織を混合すべし

第貳百九十二圖は四色の緯糸を使用せる二重組織にし四枚綜統の斜文織(二)を應用せり即ち(二)圖の如く四色の緯糸を表裏及び中央の三段に組織せしむるなり



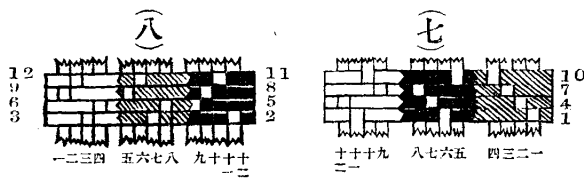
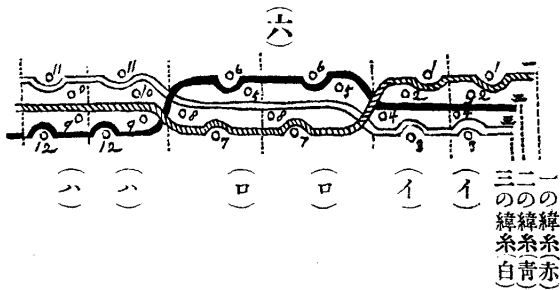
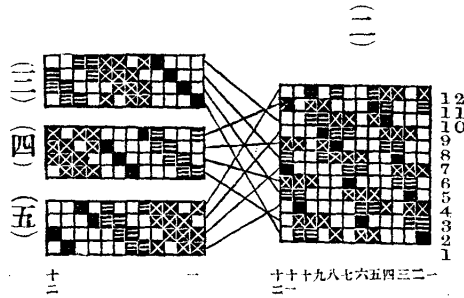
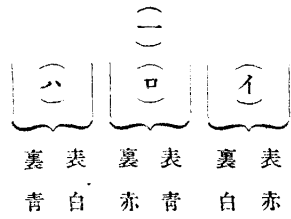
第 百 九 十 一 圖



は(イ)の所第貳經上となりて第四經は下にあり故に第貳緯は第貳經の爲め表面に出づる事能はず又第四經の爲め表面にも出づる事を得ずして中間には組織せらるゝものなり即ち(ロ)及び(ハ)の部分も皆此理によりて第一緯(は)の所及び第三緯(ロ)の部分)は中央に織り込まるゝものなり依りて(六)圖の横断面につき講究せは自ら了解すべし尤も(六)圖は(二)圖の經糸を二倍したるものなれば其心して見るを要す是れ初學者に解し安からしめん爲めかくは増加せるのみ而して實際織製したる

織物は之を表面より見る時(七)圖の如く裏面は(八)圖の如し此織物も亦斜文織のみに限らず縹子織或は縹子織と斜文織とも混合すべし其他種々の組織を混合して二重組織を製する事を得るものなり即ち第貳百九十一圖は五枚綜統の縹子織と斜文織とを混合して作れる二重組織なるが表裏の色合并に組織の如何は圖の下部に注せるが如し學者宜しく之に就きて講究

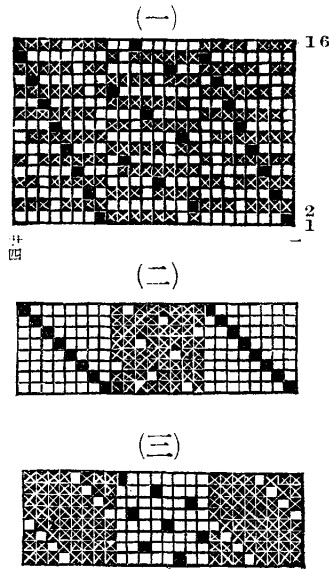
第貳百九十九圖



三百二十八

物は緯糸三段に重なりて組織せらるゝものなるが表裏両面に異種の緯糸を組織せしむる事敢て前項第貳百八十六圖及び第貳百八十七圖と異なる所なきも一種の緯糸を中間に入れんと欲するには先づ表裏両面の緯糸の内にある經糸(六圖)即ち(イ)の所ならば第貳經と第四經(ロ)の部分ならば第五經と第八經(ハ)の所ならば第九經と第十經等二本つゝある經糸を上下に別ち其中間に組織せしむべし然る時

圖九十八百二第

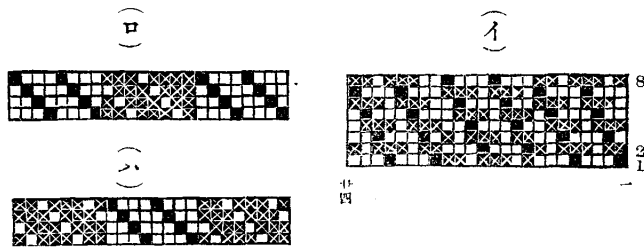


第三 別種 重織の一種

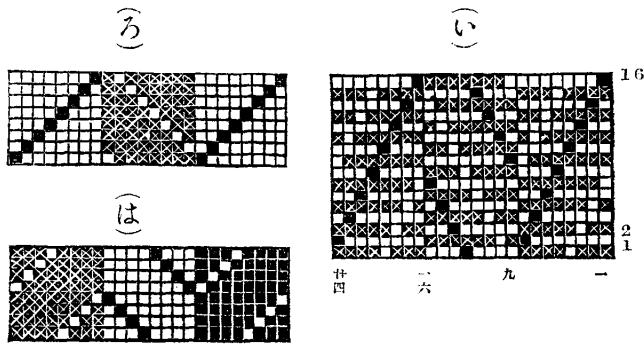
前項第二別種に於ける二重織は専ら表裏両面に二色の緯糸を使用して之を表面に出し或は裏面に入れて以て、縞若しくは紋様を織製せしむる所の組織なりしが本項に於ては専ら三種

以上の緯糸を使用して織製すべき二重組織を説かんと欲す尤も此種の組織は所謂經一重にして緯數重なる組織なるを以て第十三章なる重織の部に編入すべきが適當なれども前項の組織と甚だ似通ひたる所ありて尤も密接の關係を有し初學者の爲め大に解し安き所あれば特に第三別種として茲に於けるなり抑も此組織は重に紋織物に多く適用せらるる所の両面織にして經糸四本以上の完全なる意匠圖に於ける組織は織製し得るものなり例之ば第貳百九十圖の如し此織物は即ち一圖に示せる如く三色の堅縞を得べき組織にして(イ)の所は表面に赤色の緯糸現はれ裏面に白色の緯糸出で青色の緯糸は其中間に入るべく組織するなり(ロ)の所は表面に青色の緯糸出で裏面には赤色の緯糸現はれ白色の緯糸は中間に入り又(ハ)の所は表白にして裏青く赤色の緯糸は中に入るなり故に此織

第 貳 百 八 十 七 圖

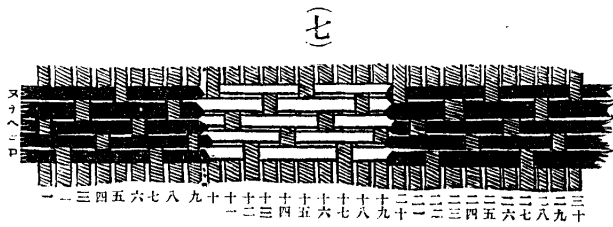


第 貳 百 八 十 八 圖



る二重組織は(二)圖及び(三)圖を併一して作れるなり
 以上述べ來れる所は單に豎縞を織り出すべき二重組織なれども之の理を應用し
 て紋織を製する時は茶色地に鼠色の紋様を出し或は白地に黒色の紋様を現はさ
 しむる等學者の任意に意匠する事を得べし

はその斜文左に走り自餘は皆
 右に走れり而して是れ又八本
 (第九經より第十六經まで)の豎
 縞を得るなり且つ(い)圖は(ろ)圖
 及び(は)圖を併一して作れるも
 のとす
 第貳百八十九圖は八枚綜統の
 斜文織(七)と全とく八枚綜統
 三飛縞子織とを混合して組織
 せる二重織なり而して縞子織
 の所異種の緯糸表面に現はれ
 て豎縞作れるものにて(一)圖な



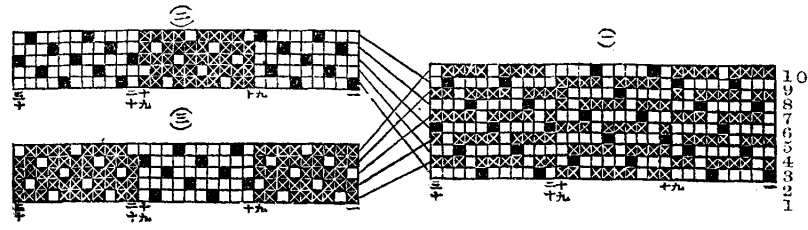
る事あり即ち

第貳百八十七圖は四枚綜統の斜文織(七)にして經糸八本つゝに豎縞をなすなり
 是れ(イ)圖は(ロ)圖及び(ハ)圖を併一せるものとす

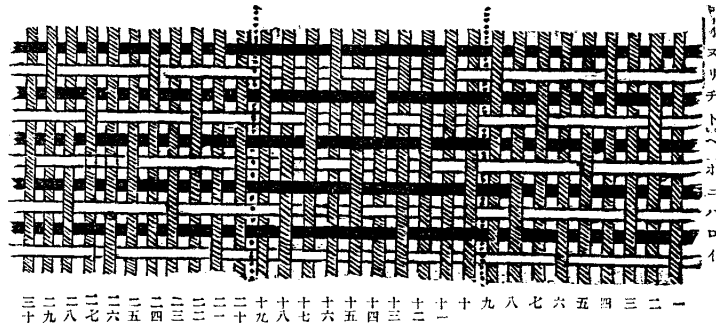
第貳百八十八圖は八枚綜統の斜文織(七)にして第九經より第十六經までの八本

第二百八十六圖中(二)圖は五枚綜統の三飛縞子織の二重組織(兩面織)にして即ち(二)圖及び(三)圖を併一せる者なり而して之が經緯の組織せる處は(四)圖の如くにして今(五)圖に示せる横斷面圖を檢するに第一緯は經糸第一より第九まで表面に出で、夫より裏に入り十本の經糸の下にあり又再び表面に現はる次に第貳緯は之に反して第一より第九まで九本の經糸の下にありて第十經より表面に現はれ第二十經より又裏面に入るなり故に第一經より第九經までと第貳十經より第三十經までとは同一の色合なるも第十經より第十九經までの所は異種の緯糸表面に出で、茲に豎筋を得るなり故に實物は(四)圖の如く見ゆずして表面は(六)圖の如く裏面は(七)圖の如く見ゆるものなり
 總て此等の織方は縞子織のみには限らず又斜文織をも適用す

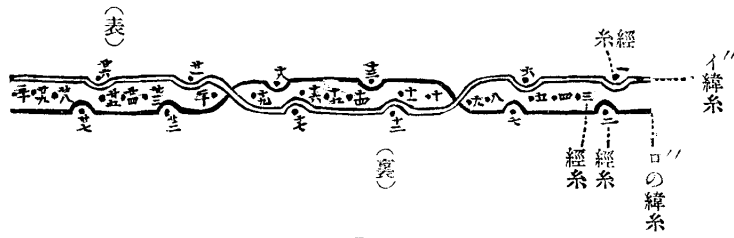
第 貳 百 八 十 六 圖



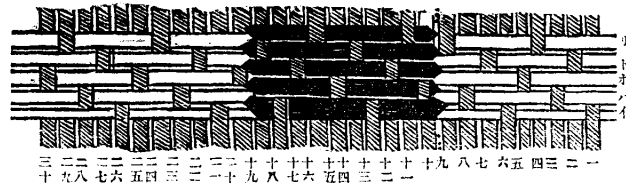
(四)



(五)



(六)



組織に依るも堅縞を得んと欲せば二倍の綜統を要するなり

抑も第貳百七十五圖乃至第貳百七十七圖に於ける兩面織にして緯糸に二色を交互に織る時即ち第一緯に茶色の緯糸を通し第貳緯に鼠色の緯糸を用ゐる第三緯に茶色第四緯に鼠色等順次かくの如く織製せば表面茶色にして裏面鼠色の織物を得べし然るに今茶色の表面に鼠色を以て堅縞又は横縞或は堅横縞即ち格子縞の如き柄を織り出し若しくは紋様を織出さんと欲するに當り横縞を得るには組織を變せざるも可なれど堅縞若しくは格子縞或は紋様を織出すには各組織を變化せざる可らず

譬へは茶色の表面に鼠色の横筋を出さんと思はゞ實地此を織製するに際しその出さんと欲する筋の處に至りて茶と鼠の緯糸を取り代へ組織せば表面に鼠色現はれ裏面には茶色出すべし然れども茲に注意すべきは緯糸を通し代ゆる時今ままで表にて織りし緯糸を再び直に裏に通すか或は裏面の緯糸を直に表面へ出すかせざる可らざるを以て同じ杼を二度通入する事となる然る時は筋を織り終りたる時始めに二度通入せざる方の杼を終りに二度通してその筋を終るべし然からざれば緯糸の細太により表裏平等の筋を織り出し難かるべし
右の如く横筋のみなる時は唯緯糸を通し代ゆるのみにて組織には敢て關せざるも堅筋を出ださんと欲するには必ず組織を變じ綜統を増ざるを得ず即ち同一の

今(ロ)圖につきて(イ)圖の横断面を見るに第二緯は實に二重に組織せられたるものなり又紋様の如何に關せず(イ)圖の如き組織を博多織に應用する時は地方により之を博多緯刺織とも云ふ

(ハ)圖は四枚綜統の斜文織(レ)にして偶數の緯糸に繪緯を用ゆ而して此繪緯は表を搦みて裏は搦らざるなり

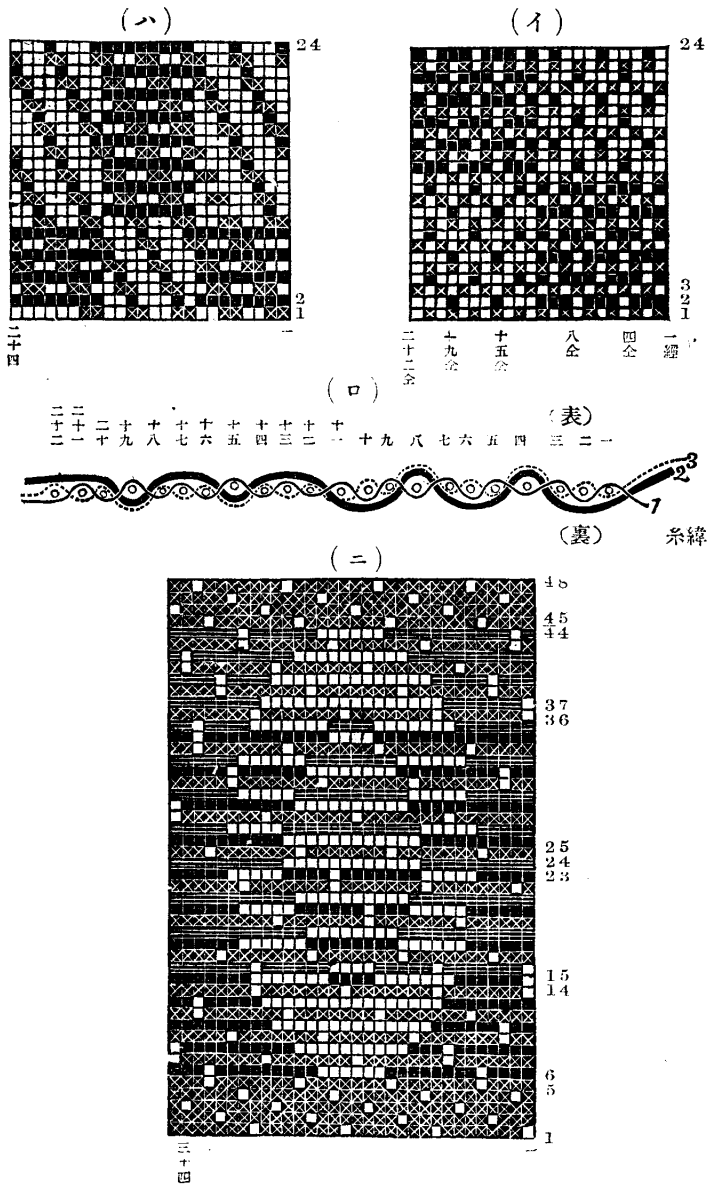
(ニ)圖は八枚綜統の三飛經縹子織にして丸き形を織出せるものその繪緯は二種にして圓心と圓周とは色合を異にし半圓にて其色又反對に現はるとなり而して第一緯より第五緯までは一重織にして第六緯より第四十五緯までを二重組織となす且つ此等二種の繪緯は同一の經糸にて搦みたるも是は二色のみに限らず幾色の緯糸にても皆かく組織せしむるものなり

以上説き來れる如く此種類に屬する二重組織は前項の種類の或者とは異なりて専ら片面即ち表面のみを使用する織物の類なりと知るべし

第二 別種

此の種に屬する組織は第貳百七十五圖乃至第貳百八十圖に示せる両面織若しくは片面の二重組織により種々なる組織を併一して縞又は紋様を織り出すべきものを云ふなり

第 貳 百 八 十 五 圖



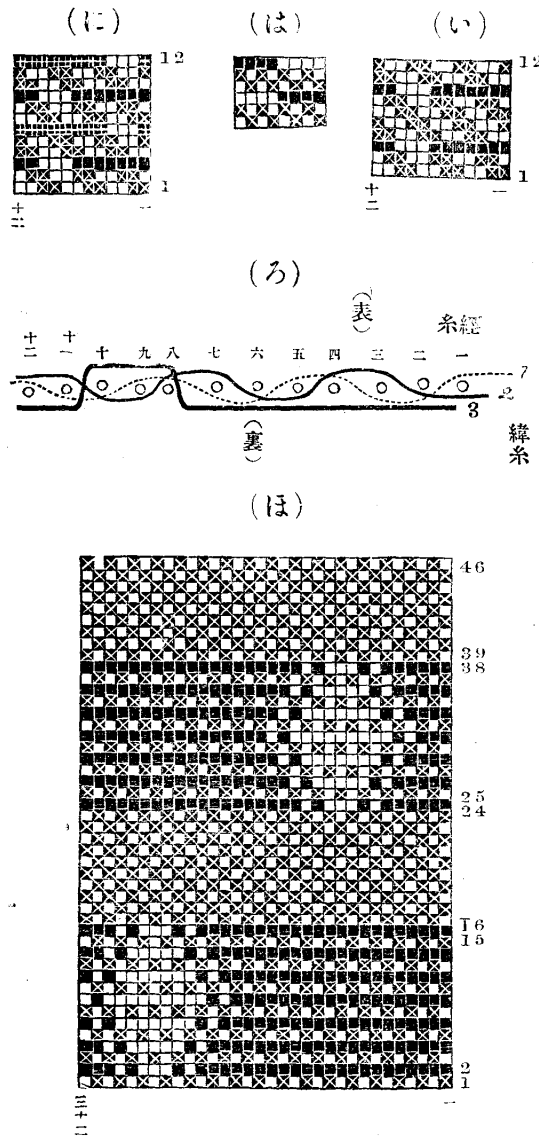
の經糸は織物の類に依り使用すれども又(イ)圖の如く搦み經糸を用ゐず地經糸
 (即ち紋様なき所を地)と稱し此處を組織する經緯糸を地經糸(又ちぬき)とも
 云ふを以て繪緯を搦むを地搦みと唱ふ

と唱ふ

(は)圖は敢て反對に織るの必用はなけれども是れ亦第三緯と第六緯の處は二重組織なり且つ此組織は處により緯差織よこまじりとも云ふ(に)圖はい圖と同一なる組織なるも唯異種の緯糸二色を組織せるものにて其縞も二筋を得べし且つ此等異種の緯糸は一種若しくは二種のみに限らず幾種にても使用する事を得るものにて又その組織も斜文織とのみにかぎらずいづれの組織をも使用する事を得べし乃ち(は)圖は平織にして各部に六角の形を異種の緯糸にて組織せしむるものなり之れ第二緯より第十五緯迄は二重組織なるも第十六緯より第二十四緯までは一重組織とす又第二十五緯より第三十八緯迄は二重組織にして第三十九緯より第四十六緯までは一重組織となす第貳百八十五圖中(イ)は平織にして偶數の緯糸に異種の者を組織し以て市松形を現はす而して此等異種の緯糸を地方に依り繪緯ゑいりと唱ふ蓋し紋繪を現はすべき緯糸と云ふ義ならん又第貳緯異種の緯糸と第四緯第八經及び第十五經第十九經等と組織せる様を擲かむと云ふ而して第四經及び第八經の如く組織せる所を裏うらを擲かむと唱へ第十五經及び第十九經の如く組織せる所を表おもてを擲かむと稱す但し或る紋織に於ては繪緯を擲かむ爲め別に細き經糸を用ゐて組織せしむる種類あり此の經糸を擲かみ經糸だて或は單に「擲かみ」とも稱して特更にこ

多く裏面を上となし織物の表面を下となして織るものなり是れ(い)圖中第三緯を

第 貳 百 八 十 四 圖



通入する時意匠圖の如く表面を上となすならば九本の經糸を揚げて織らざる可
 らす(唐確仕掛若しくはドビー機等上口の装置なる時)然るを若し織物の表面を下
 となして織る時は僅に三本の經糸を揚ぐるのみて織製する事を得べし此の如き
 場合に於る織機の取扱は意匠圖中組織點ある所を空角と見なし空角の所を組織
 點あるものと見做すべし別に意匠圖を改むるに及ばざるあり如此き織方を織裏

第貳百八十二圖の(ろ)圖及び(は)圖に於ては之に反して裏面の緯糸に組織點なき處之が前後の表面の緯糸いづれか一つに組織點あるなり故に第貳百八十三圖中(三)以下の切斷面に於て右の如く現はるゝなり是を以て此等二重組織の附點は概ね第貳百八十二圖中(い)の如く爲すを要す是れ第貳百八十二圖中(い)圖に於ける裏面の組織(ロ)圖を併一するに(ろ)圖の如く爲さずして(ロ)圖の第一緯を(い)圖の第六緯となし(ロ)圖の第三緯を(い)圖の第貳緯となして併一せるなり是れ即ち表裏兩緯の組織點をして(ろ)圖及び(は)圖の如くならしめざるが爲のみなり

第一 別種

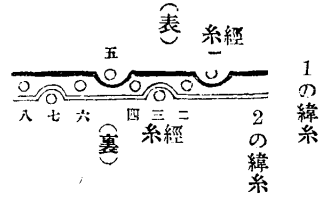
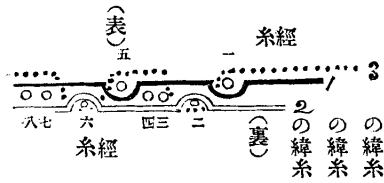
此の種に屬する二重組織は尤も多く紋織に適用せられて普通に「地搦み」と稱し又博多織等に使用せらるゝものゝ内には緯刺織よぎぢぢぢとも稱するものあり然れども又右貳種の外なる組織もあるなり即ち織物の壹部分に異色の緯糸を以て縞或は紋様を出し其他は織物の裏面にその緯糸を單に出しおくのみのものあり即ち第貳百八十四圖の如き是れなりとす

即ち(い)圖は四枚綜統の斜文織(い)にして第三緯と第八緯に異種の緯糸を組織せしめたるものにて此異種の緯糸は(ろ)圖に示せる横斷面圖の如く斜文織の緯糸の上に重りて此處のみ二重組織となるなり而して此等の組織は實地織製する時は

第 二 百 八 十 三 圖

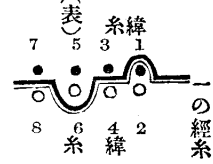
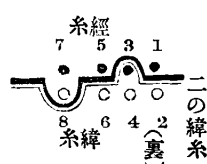
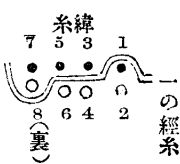
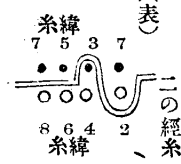
(五)

(一)



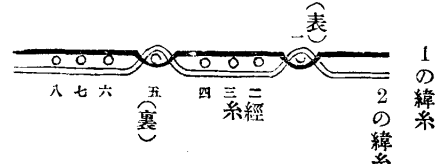
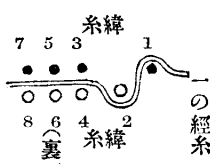
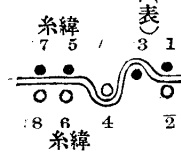
(六)

(二)

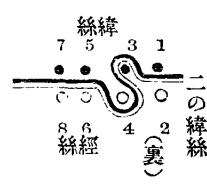


(七)

(三)



(四)



て之を言へば裏面の緯糸が
 經糸の上に現はるゝ所は必
 ず之が前後の表面の緯糸も
 亦經糸の上に現はるゝなり
 第二百七十四圖乃至第二十
 八十一圖を見よ皆此の事實
 に據れるを知るべし然るを

貳百八十二
 圖中(い)の意
 匠圖上其裏
 面の緯糸に
 組織點なき
 處之が前後
 の表面の緯
 糸に組織點
 なし語を換

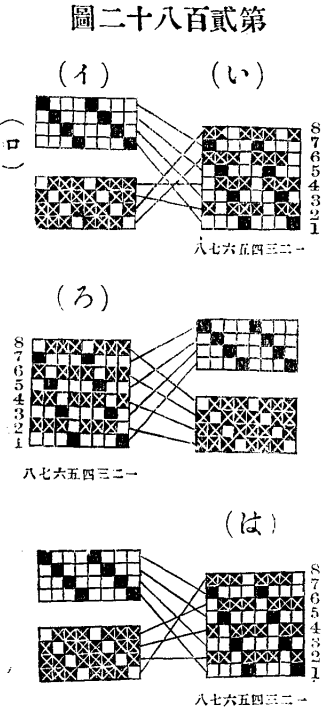
如く組織すべし(四)圖及び(五)圖の如きは非なり如何とならば(一)圖の如きは表裏の緯糸共に上下にありて重なれども(三)圖の如きは第一經の所表面の緯糸(一)は裏面に出で裏面の緯糸(二)は表面に現はれ此所上下に重なる事能はず又(五)圖にありては第一緯と第貳緯は上下に重なると雖も第三緯は第貳經の所にて裏面に現はるる憂あり且つ縦斷面圖を檢するに(二)圖の如きは一の經糸表面に出たる次は中間に入り夫より出で裏面に現はれたるも(四)圖の如きは決して然らず表面に出たる經糸は直に沈みて裏面に現はるべき組織なるを以て上下の緯糸を定めて經糸の組織を圖する時は勢經糸が屈曲せざる可らずされど實際は經糸を強く張りて組織するものなれば到底(四)圖の如くは經糸を屈曲せしむる事能はず如何に緯糸を打込むも(七)圖の如くなるまでにして表裏の緯糸は上下に重る事を得ず故に此等の組織(第百八十二圖の「ろ」及び「は」の如きは尤も忌避すべきものなり蓋し二重組織の紋織に至りては往々かゝる組織の部分を生ずる事なきにあらざれどそは避く可らざる事故に止むを得ず使用することあり然れども普通の二重組織に於ては可成的之を避けざるべからず然らざれば緯糸密接せずして地質甚だ惡觀を呈するものなり

今第貳百八十二圖の意匠圖と第貳百八十三圖の切斷面圖とを比較檢視するに第

數貳分の一あるを要す然らざれば二重組織となす時意外に緯糸の數を要すべき事既に前に云へる理と同し

以上掲げたる諸圖の如く此等二重組織に於て表裏に合併すべき組織はいづれのものも採て以て併一し得べしと云へども深く之を講究する時は敢て然らず今圖につきて之を詳述せば左の如し

第貳百八十二圖中(イ)圖は二重組織に適當なるものなれども(ろ)圖及び(は)圖は之に



反せり如何とならば同一の組織なりと雖もその表裏の緯糸を併一する順次に於てかくは相違せるなり今此等三圖に於ける組織の横断面并に縦断面を圖するに第貳百八十三圖の如し

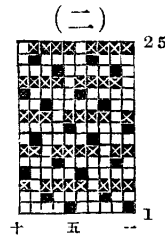
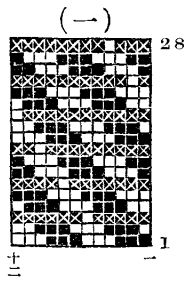
乃ち(一)圖は第貳百八十二圖中(イ)圖の横断面圖にして(二)圖は之か縦断面圖なり又(三)圖は全とく(ろ)圖の横断面圖にして(四)圖は之が縦断面圖なり又(五)圖は全とく(は)圖の横断面圖にして(六)圖は之か縦断面圖となす

今此等の諸圖につきて之を云はば總て此種の二重組織はその表裏の緯糸(一)圖の

に經糸の出で居るものと思惟すべし

以上述べ來れる所の二種組織は専ら表裏両面の緯糸共に同一の細太にして表裏共に同一寸法内に同數の緯糸を組織せる者のみの例なるが織物の種類その數や極りなく時に或は表裏の緯糸その細太を異にして表面には二本の緯糸を組織せるも裏面は一本にて足るものあり或は之に反するものあり又は三本と一本の比例に組織せらるゝ等のものありて第貳百八十一圖は表面に細き緯糸貳本を組織し裏面には太き緯糸一本を組織せる所の意匠圖なり

第貳百八十一圖



即ち(二)圖は表面六枚綜統の斜文織(註13)にして裏面に於ける經緯兩糸の關係は六枚綜統の斜文織(註14)の經糸を二倍して一本をきに入れ皆組織點を附したる

ものなり但しこの裏面の經緯兩糸に於ける關係は表面より見ゆる如く圖せるものとす故に裏面より見る時は之が反對に見ゆべし

(二)圖はその表面五枚綜統三飛縹子織にして裏面は同じく五枚綜統の斜文織なり今右の貳圖につきて之を云へは第一緯と第二緯は表面に現はるゝ緯糸にて第三緯は裏面に出づるなり茲を以て表面よりは裏面の組織其完全なる意匠圖の緯糸

百七十八圖及び第貳百七十九圖と同一なるも裏面の緯糸と經糸との關係は(ろ)圖に示せる如く八枚綜統五飛の經縹子織なり但し(ろ)は裏面の緯糸と經糸との關係を表より見得る如く圖せるなり故に織製せる裏面を見る時は(は)圖の如く同じ綜統の緯縹子織となれるものなり而して表面は四枚綜統の斜文なるにより前圖と同じく四倍して併一せるなり

(に)圖は其表面六枚綜統の斜文織(に)圖にして裏面の緯糸と經糸との關係は(へ)圖の如く十二枚綜統の七飛縹子織なり但し(へ)圖は裏面に於ける經緯兩系の關係を表より見得る如く圖せるなり又た表面は前圖と同じく貳倍して併一せるものとす

(と)圖は其表面(ち)圖の如き十六枚綜統の飾り斜文織にして裏面に於ける經緯兩系の關係は(り)圖の如く十六枚綜統の正則緯斜文織(と)となす但し(り)圖は裏面の經緯兩系の關係を表より見得る如く圖せるものなり

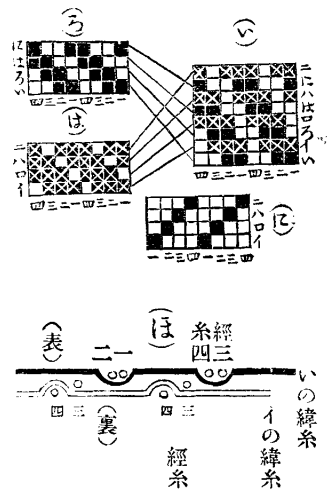
(ぬ)圖は表面の組織(る)圖の如き組斜文織十六枚綜統にして裏面に於ける經緯兩系の關係は(を)圖に示せる如く同じ組織の緯斜文織なり但し(を)圖は裏面經緯兩系の關係を表面より見ゆる如く圖せるなり

(わ)圖は表面に八枚綜統の花崗織(か)圖を組織せしめ裏面の經緯兩系の關係は(よ)圖に示せる如く八枚綜統の三飛縹子織なり但し(よ)圖は裏面に於ける經緯兩系の關係

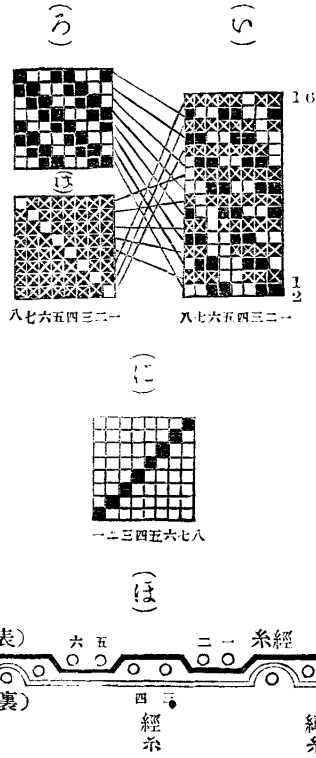
面は(二)圖の如くならず如何とならば實際之を製する時は唯表面の一方より裏面も織製するにより機上にありては裏面の外方が下にあり故に裏面の内部を上となし裏面に現はるゝ緯糸より内の經糸は皆揚げ緯糸を通せざる可らざれば能はざるを以てかくに圖の如き組織も之を裏面に組織せしむる時は反對に附點して併一するなり

又右の圖の如く表裏の組織其完全なる意匠圖の經緯數異なるものはいづれか二倍若しくは三倍なるものを併一すべし然らざれば意外に經緯の數を増加せざる可らざる事あり即ち第貳百七十九圖は表面の組織經緯共に四本宛にして裏面は經緯共に八本宛なるを以て表面の組織を二倍し即ち四枚綜統の斜文織の完全なる意匠圖を二個並べて又之を二個重ね以て裏面の組織の經緯數に適合せしむ然れども若し表面の組織經緯共に五本つゝの意匠圖にして裏面は經緯共に八本つゝの組織を併一せんと欲する時は先づ表面の組織を八倍して經緯共に四十本となし次に裏面の組織を五倍して是れ又經緯共に四十本となし適合せしめざる可らず是實に五枚綜統正則斜文と八枚綜統全上の組織も經糸四十本に緯糸八十本あらざればこの二重組織には製する事能はざるが如し故に表裏に併一する組織はよろしく注意して撰定すべきものなり第貳百八十圖中(い)は其表面の組織第貳

圖八十七百貳第



圖九十七百貳第

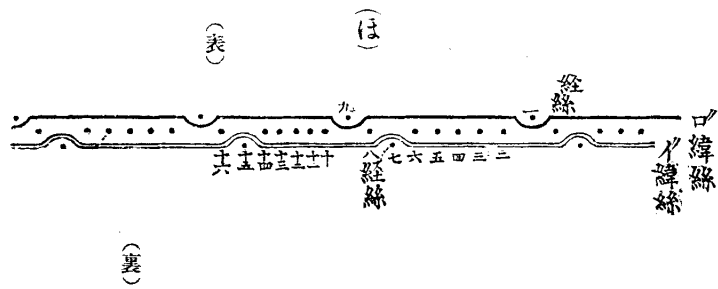
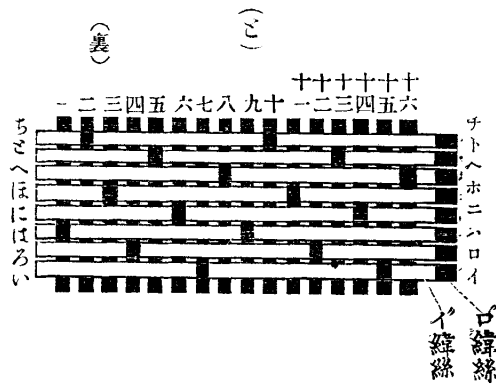
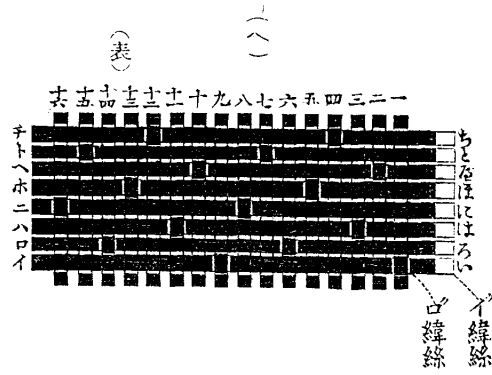


如く(10)見ゆべし然れども之を織製する時
 には(11)圖を反對に附點して(12)圖の如くな
 し併一して二重組織となせるあり然らざ
 れば裏面は(13)圖の如く見る事を得ず今(14)
 圖の横断面圖につきて之を檢するに第三
 經が表裏兩緯糸の間にあるのみにて第二
 緯は表面に出づる事なく又第一緯も裏面
 に出づる事を得ずしてか
 くは二重に組織せらるゝ
 ものなり

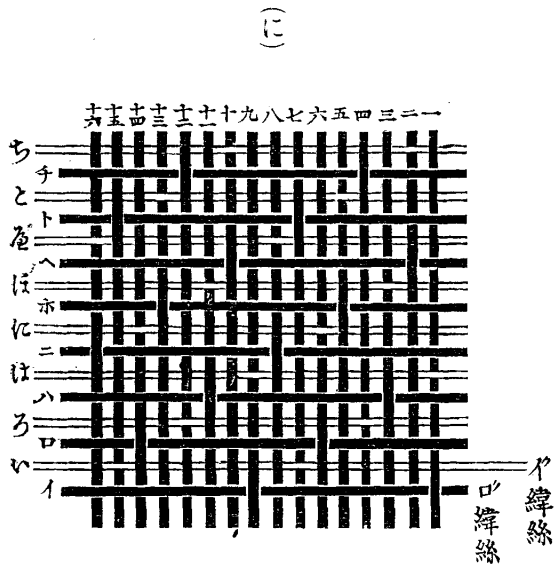
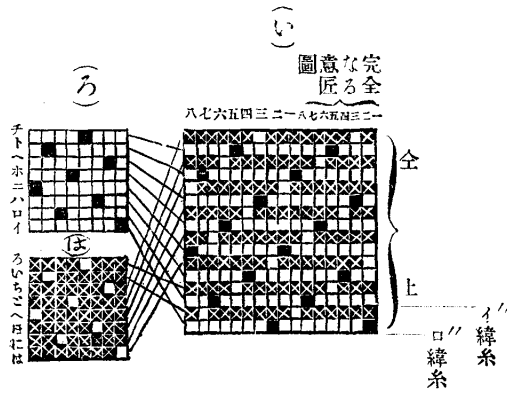
組織する時には之が反對に附點して(15)圖の如くなし併一するなり然らざれば裏

第貳百七十九圖の表面は
 第貳百七十八圖の表面と
 同一組織なれども裏面は
 八枚綜統の斜文織にして
 (16)圖の如し然れども之を

する事を得ればなり
 第貳百七十八圖は四枚綜統の斜文織にして表面は(ろ)圖の如く(い)裏面は(に)圖の

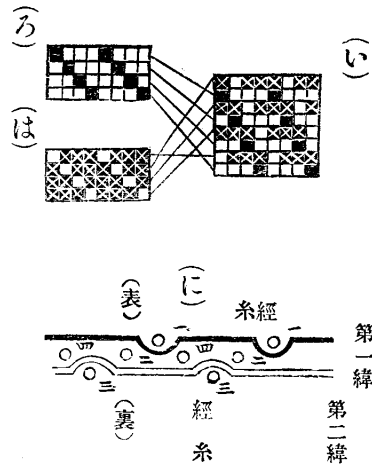


第 貳 百 七 十 七 圖



經糸及び表面に出づる緯糸にのみ良質の糸を使用し裏面に出づるものに粗悪なる糸を使用する時は大に利益なる所あり是れ表面は美麗にして地質厚く甚だ良品に見ゆれども裏面に粗悪なる糸を使用して厚層を附したれば大に低廉に織製

第貳百七十六圖




て(に)圖の如く緯糸は見る事能はず實に表面は(へ)圖の如く裏面は(こ)圖の如く見ゆるものなり

以上第貳百七十五圖乃至第貳百七十七圖は皆表裏共に同一なる組織にして且つ多くの經糸は表裏兩緯糸の内部に包まれて外方には僅の經糸のみ見ゆるもの故に經糸は細き糸を用ゐる緯糸にやゝ太き糸を組織せば經糸は見ゆることなく緯糸のみ外方に現はれ出るにより經糸に綿糸を使用し緯糸に毛糸を用ゆる時は恰も毛糸のみにて織れる物の如く見ゆるなり

次に第貳百七十八圖以下は表裏共に異種なる組織を用ゐたる二重組織の例にして此等の組織は多く羅紗織等に使用せるものにて袴地ズボナの如き往々これあり即ち

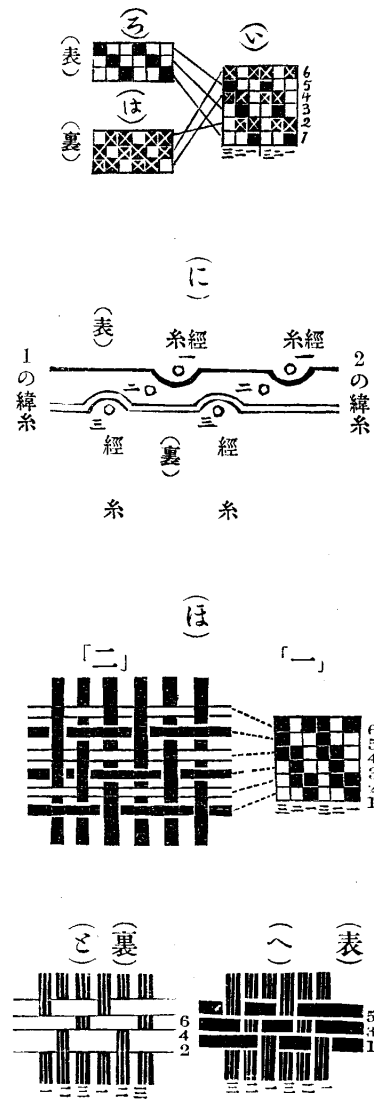
意匠圖は(ろ)圖表及び(は)圖裏の二個を合せしものにて之を組織せば即ち(に)圖の如し然れども此は單に意匠圖上の附點により經緯兩糸が相組織せる様を圖せる迄にして實物は決して然らず今之が横斷面圖を見るに(は)圖の如く第一緯(ろ)即ち(イ)は表面に出で、第二緯(は)即ち(イ)は裏面に出で表裏相重なるを以

て織る然る時は第三經のみ緯糸の下に出でて裏面より之を見れば只一本の經糸上に出たるのみ然れども之を織る時は必ず二本の經糸を揚げざる可らす是を以て意匠圖に於ては(い)圖の如く裏面の經糸を通入する時必ず二本宛の經糸を緯糸の上におくなり即ち之が意匠圖を製するには先つ(ろ)圖の如く表面の組織點のみを附せる圖を作り次に(は)圖の如く之か反對に組織點を附せる圖を製し之を併一して(い)圖は作らるるなり尤も表裏兩面同一の組織なるを以て(は)圖は(ろ)圖の反對に組織點を附すと雖も他の組織を織らんと欲せば其如く組織點を附するなり而して二ケの圖(ろ)は(は)を製したる時は之を併一すべし今第貳百七十五圖はその併一せる表裏の組織點を知り安からしめん爲めに二種の組織點を附せり右の如く假令ひ三枚綜統の斜文織なりと雖も表裏二ケの意匠圖を併一せる故に之が二重組織の完全なる意匠圖は緯糸六本となりて踏木式ならば踏木六本を要しドビー機あらば紋板六枚を要する者なり

第貳百七十六圖は四枚綜統の斜文織にして表裏共に同種の組織を用ゆ即ち(い)圖は(ろ)圖表及び(は)圖裏の二個を併一せしものにて(は)圖は(ろ)圖の反對に組織點を附せしものなり而して之が横断面圖は(に)圖の如し

又第貳百七十七圖は八枚綜統五つ飛の縺子織の二重組織にして(い)圖なる完全の

圖五十七百貳第



りて恰も表面と同一の組織に見得らる故に表裏両面同一の組織と云へる所以に
 して既に云へる如く此二重組織は一重組織に反し組織點と織地との關係や、異
 なるが如き處あれば學者常に留意せざる可らず
 抑も三枚綜統の二重組織斜文織(二)は其意匠圖(い)の如くにして之を組織する時は
 (ほ)二圖の如し然れども實物は決して此の如く見得らるゝ者のにあらず即ち表面
 は(へ)の如くにして裏面は(ど)の如し而して今之が經緯兩糸を組織せる様を檢する
 に第一緯と第二緯は(に)圖に示せる如くにして第一緯を組織せしめんと欲せば第
 一經のみを掲げて織るべし(唐確仕掛上口)次に第二緯は第一經及び第貳經を掲げ

第一 經一重にして緯の二重なる組織

此組織は多く兩面織(下緯付)とも稱し専ら毛織物特に羅紗織に於いて最も肝要なる組織なりとす而して此組織には多く二種の緯糸を使用す通常羅紗織に於て之の組織による時は表面に良質の毛糸を用ゐる裏面には粗悪なる者を用ゆ又經糸に細き綿糸を生ゐる緯糸にはやゝ太き毛糸等を用ゐて經糸の多く見えざる様織れるもあり肩掛卓掛毛布等往々かくの如く織製せるものあり又二色の緯糸を用ゐて表裏色を異にして紋様等を織出さしむるもあり

此組織は三枚以上の綜統にて組織る事を得べきものにて表裏共に同一の組織なるあり又は異なるものなどありて一様ならず

第貳百七十五圖中(い)は三枚綜統の斜文織(ロ)の二重組織にして表裏兩面共に同一なる組織なり然れども今意匠圖を檢するに其組織點兩面共に同一ならず如何とならば第壹緯は表面の緯糸にして第貳緯は裏面の緯糸ある事(に)圖に示せる横斷面圖の如し是れ完全なる意匠圖面上第一緯は經糸一本緯糸の上に現れたるも第貳緯は經糸二本緯糸の上にあり故に表裏甚だ相違せる如く見ゆるも是は表面の壹方より觀察せる組織點にして能く注意せば第二緯は經糸貳本上にありて一本下にありされば此織物を裏面より見る時は即ち第貳緯の上に一本の經糸出でお

是の如く分類すと雖ども正當に論ずる時は第一第二とも眞の二重組織といふ可らず如何となれば二重組織とは一重組織を二層重ねたる者にして各層經と緯とを有せざる可らざればなり然れども第一は一重組織の外に一種の緯を有し第二は一重組織の外に一種の經を有するを以て余は第一第二は一重組織を二層重ねたる者に非るにも係らず第一は緯二重を有すと見倣し第二は經二重を有すと見倣して第三即ち一重組織を二層重ねたる眞の二重織と共に二重組織といへる廣き名稱の下に置きたるなり

今此分類に従ひ順次之を述べんとす凡そ此二重組織は一重組織とは大に異なりて意匠圖上に現はれたる組織點と實際織成せる織物とはやゝ相違せるが如き觀を生ずるものかり是れ必竟意匠圖上に現はれたる組織點は表裏を併一して記載せるも織物は單に表面若しくは裏面に現はれたる組織のみ一方より見ることを得れども表裏を合して共に一方より見る事能はざればなり茲を以て初學者は強く注意して意匠圖と組織との關係を了知せんことを勉むべし且つ綾組の如何によりては經緯共に一重なるも經緯系の色合の異なるに従ひ二重組織の如く見ゆるものあきにあらず然れども詳に之れを見るときは大に其種類を異にせるものなり

第拾貳章 二重組織

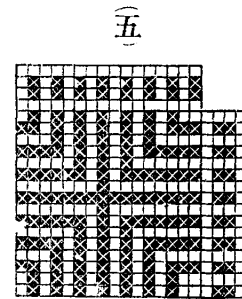
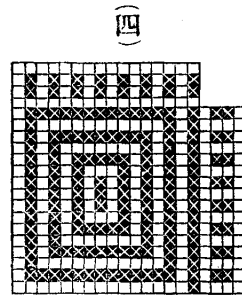
夫れ織物は組織の種類に據りて之を區別すれば乃ち三原組織に歸し五類三十有
 余種に別たれ本編既に述べ來れるが如し然れども之を厚層より云ふ時は左の三
 種に區分する事を得べし即ち

- 一 一重組織 (一層織物)
- 二 二重組織 (二層織物)
- 三 三重以上の組織(多層織物)

の如し

されば第五章より第十章までに於て説げる處は専ら一重組織に屬する種類のみ
 にして既に之が大要を盡したれば余は本章に於て二重組織に關する大略を叙し
 多層織物(三重以上の組織)の事は次章に於て重織と總稱し之を述べんと欲す
 抑も二重組織に屬すべきものまた種々ありて一ならずと雖ども之を大別して左
 の三種に分つ

- 第一 經一重にして緯の二重なる組織
- 第二 經二重にして緯の一重なる組織
- 第三 經緯共に二重なる組織



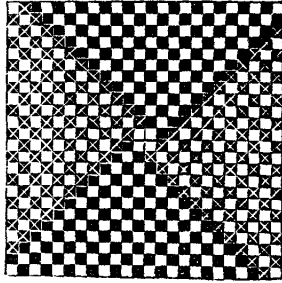
所の柄異なれり例へば(四)圖の如く
 色糸を使用せるものと(五)圖の如く
 其の緯糸の順序を變せるものとは
 得る所大に相違し一は方形に一は
 長正方形なり然ども茲に注意すべ

きは(五)圖と反對に緯糸は(四)圖の如くし經糸のみ順を變せば同じく(五)圖と同様の
 柄を得るなり唯方形の線か反對に現はれ此に黒き所彼に白きが如き相違のみ又
 (四)圖の經緯兩糸の色糸の順を共に變する時は同じく(四)圖と同様の結果を得べし
 と雖ども是れ又線の色は反對に現はるゝものなり

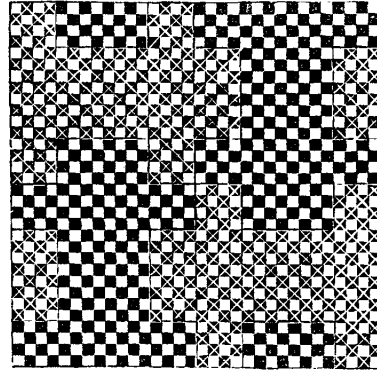
以上説く所は混合組織に於ける僅に一部分を示せるもののみ故に各種の混合組
 織につき之を檢せば又種々なるものを得る事既に述べ來れる諸例の如し

圖 四 十 七 貳 第

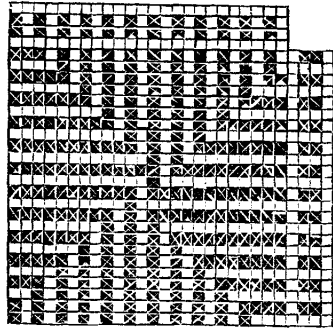
(一)



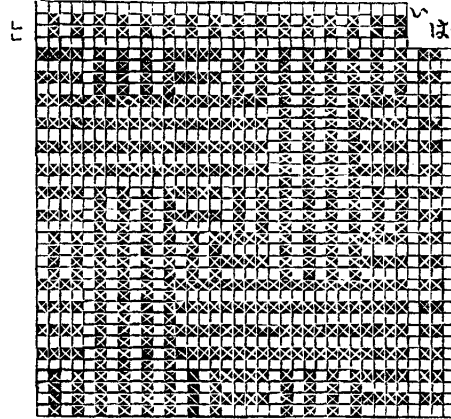
(二)



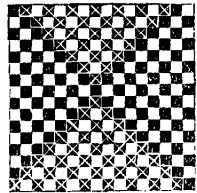
(三)



(四)



(五)



し、又(三)圖の
 如く甲乙兩
 種の組織を
 組合せて織
 製するに經
 緯兩糸の色
 糸の順次に
 よりて得る